



IS350 / IS200t

取扱説明書

イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ずお読みいただきたいこと**

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全に

お使いいただくために

運転する前に	24
安全なドライブのために	26
シートベルト	28
SRS エアバッグ	32
ポップアップフード	40
お子さまの安全のために	43
子供専用シート	44
チャイルドシートの取り付け	51
排気ガスに対する注意	57

1-2. 盗難防止装置

エンジンイモビライザー システム	58
オートアラーム	59

2 メーターの見方

2. 計器の見方

警告灯／表示灯	66
計器類	71
マルチインフォメーション ディスプレイ	76
Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面	93

3 各部の操作

3-1. キー

キー	102
----------	-----

3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた

ドア	108
トランク	114
スマートエントリー& スタートシステム	119

3-3. シートの調整

フロントシート	125
リヤシート	127
運転席ポジションメモリー	129
ヘッドレスト	134

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	137
インナーミラー	139
ドアミラー	141

3-5. ドアガラス・ ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ	145
ムーンルーフ	149

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	154
荷物を積むときの注意	164

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	166
オートマチック トランスミッション	171
方向指示レバー	178
パーキングブレーキ	179

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	180
オートマチックハイビーム	183
フォグランプスイッチ	187
ワイパー & ウォッシャー	188

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	194
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System+	198
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	204
LDA（レーンディパーチャー アラート [ステアリング 制御機能付き]）	214
レーダークルーズコントロール	223
Stop & Start System	235
BSM（ブラインドスポット モニター）	246
・BSM 機能	250
・RCTA 機能	253
クリアランスソナー	258
ドライブモードセレクト スイッチ	267
運転を補助する装置	270

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	278
--------------	-----

5 室内装備・機能

5-1. リモートタッチ

リモートタッチ	284
10.3 インチディスプレイ	287

5-2. エアコンの使い方

オートエアコン	289
ステアリングヒーター／ シートヒーター／ シートベンチレーター	299

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	302
・インテリアランプ	303
・パーソナルランプ	303

5-4. 収納装備

収納装備一覧	305
・グローブボックス	306
・コンソールボックス	306
・カップホルダー／ ボトルホルダー	307
トランク内装備	309

5-5. その他の室内装備の 使い方

その他の室内装備	312
・サンバイザー	312
・バニティミラー	312
・時計	312
・アクセサリソケット	313
・リヤアームレスト	314
・リヤサンシェード	314
・アシストグリップ	316
・コートフック	316

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	318
内装の手入れ	322

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	325
ガレージジャッキ	327
ウォッシュャー液の補充	328
タイヤについて	329
タイヤ空気圧について	337
エアコンフィルターの交換	339
電子キーの電池交換	341
ヒューズの点検・交換	343
電球（バルブ）の交換	346

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	356
非常点滅灯 （ハザードランプ）	357
発炎筒	358
車両を緊急停止するには	360

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	361
フューエルポンプ シャットオフシステム	367
警告灯がついたときは	368
警告メッセージが 表示されたときは	374
パンクしたときは （タイヤパンク 応急修理キット装着車）	398
パンクしたときは （応急用タイヤ装着車）	412
パンクしたときは （ランフラットタイヤ 装着車）	423
エンジンが かからないときは	425
電子キーが 正常に働かないときは	427
バッテリーが あがったときは	430
オーバーヒートしたときは	434
スタックしたときは	439

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	442
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	449
--------------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	456
------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	458
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	462
アルファベット順さくいん	464
五十音順さくいん	466

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・ナビゲーション
- ・オーディオ&ビジュアル
- ・音声操作システム
- ・バックガイドモニター
- ・ETC2.0 システム
- ・ハンズフリー
- ・G-Link

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様がG-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- レーダークルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



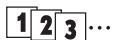
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

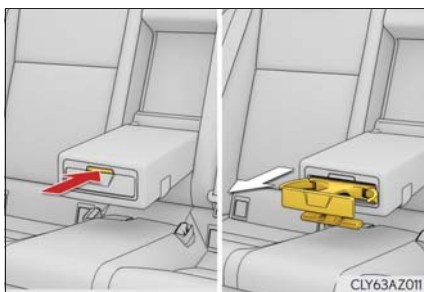
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

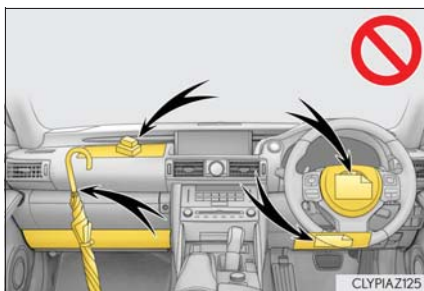
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

⇨ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➤ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



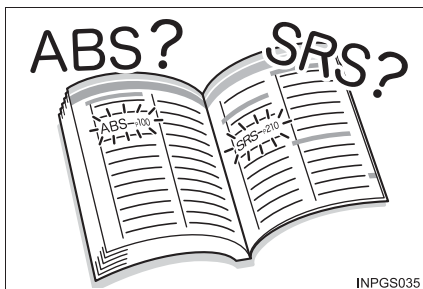
知識

機能や操作方法の説明以外で知っていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

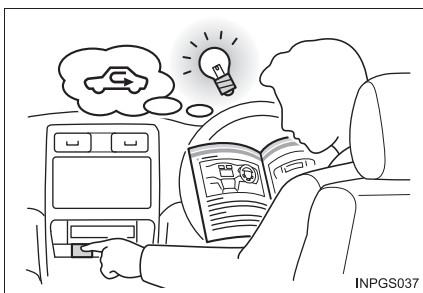
- ・ 五十音順さくいん466
- ・ アルファベット順
さくいん464



INPGS035

■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



INPGS037

■ 症状や音から探す

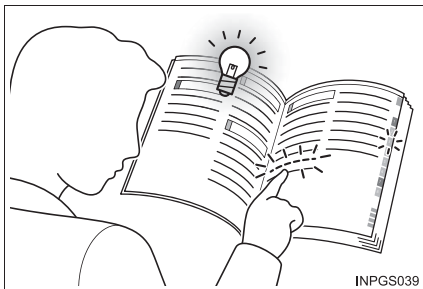
- ・ こんなときは
(症状別さくいん)458
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)462



INPGS038

■ タイトルから探す

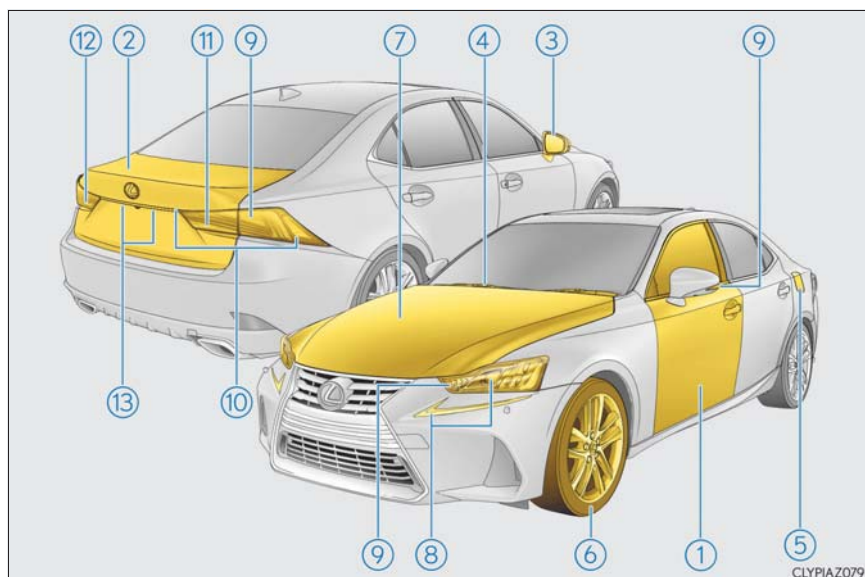
- ・ 目次2



INPGS039

イラスト目次

■ 外観



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。(→ P. 346)

- ① ドアP. 108
 - 施錠／解錠P. 108
 - ドアガラスの開閉P. 145
 - メカニカルキーでの施錠／解錠P. 427
 - 警告灯・警告メッセージP. 370, 376
- ② トランクP. 114
 - 車内から開けるP. 114
 - 車外から開けるP. 114
 - メカニカルキーで開けるP. 427
 - 警告灯・警告メッセージP. 370, 377
- ③ ドアミラーP. 141
 - 鏡面の角度調整P. 141
 - ミラーの格納P. 142
 - 調整位置の登録★P. 129
 - 曇りを取る（ミラーヒーター）P. 293

- ④ ワイパーP. 188
 - 冬季の注意P. 278
 - 凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★P. 293
 - 洗車時の注意P. 320
- ⑤ 給油口P. 194
 - 給油方法P. 194
 - 燃料の種類・燃料タンク容量P. 442
- ⑥ タイヤP. 329
 - サイズ・空気圧P. 447
 - 冬用タイヤ・タイヤチェーンP. 278
 - 点検・ローテーション・空気圧警報システムP. 329
 - パンク時の対処P. 398, 412, 423
- ⑦ ボンネットP. 325
 - 開け方P. 325
 - エンジンオイルP. 442
 - オーバーヒート時の対処P. 434
 - 警告メッセージP. 376

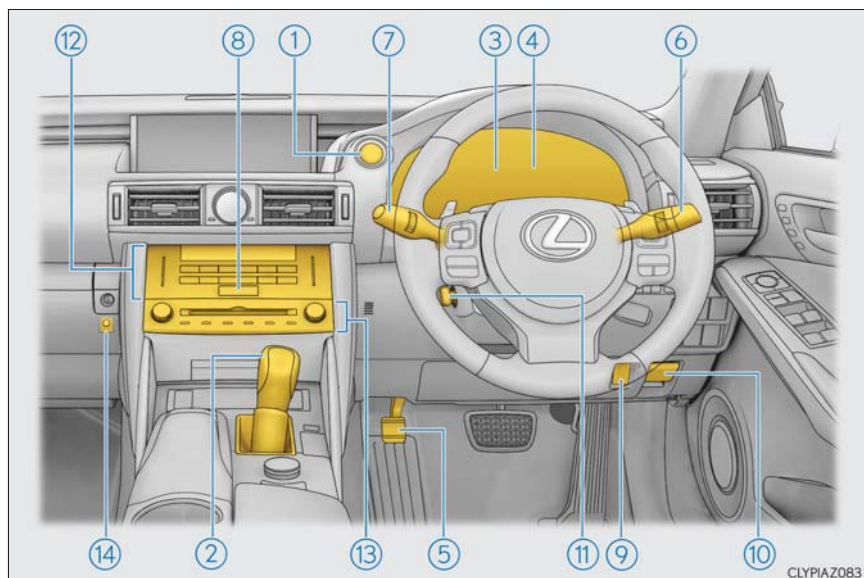
走行に関わる外装のランプバルブ

（交換要領：P. 346, ワット数：P. 448）

- ⑧ ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライトP. 180
- ⑨ 方向指示灯P. 178
- ⑩ 尾灯P. 180
 - 制動灯
 - 緊急ブレーキシグナルP. 271
- ⑪ リヤフォグランプ★P. 187
 - 後退灯★
 - シフトポジションを R にするP. 171
- ⑫ 後退灯
 - シフトポジションを R にするP. 171
- ⑬ 番号灯P. 180

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



CLYPIAZ083

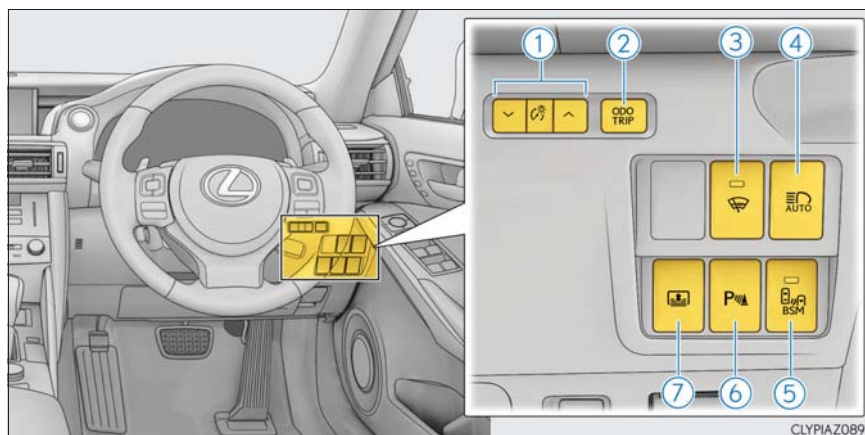
- ① エンジンスイッチP. 166
 - エンジンの始動・モード切り換えP. 166
 - エンジンの緊急停止P. 360
 - エンジンが始動できないときの対処P. 425
 - 警告メッセージP. 392
- ② シフトレバーP. 171
 - シフトポジションの切り換えP. 171
 - けん引時の注意P. 361
 - シフトレバーが動かないときの対処P. 176
- ③ メーターP. 71
 - 見方・明るさの調整P. 71
 - 警告灯／表示灯P. 66
 - 警告灯点灯時の対処P. 368

④	マルチインフォメーションディスプレイ	P. 76
	表示内容	P. 76
	警告メッセージ表示時の対処	P. 374
⑤	パーキングブレーキ	P. 179
	かける・解除する	P. 179
	冬季の注意	P. 279
	警告ブザー・警告メッセージ	P. 374
⑥	方向指示レバー	P. 178
	ランプスイッチ	P. 180
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯	P. 180
	リヤフォグランプ★	P. 187
⑦	ワイパー＆ウォッシャースイッチ	P. 188
	使い方	P. 188
	ウォッシャー液の補充	P. 328
⑧	非常点滅灯スイッチ	P. 357
⑨	トランクオープナー	P. 114
⑩	ボンネット解除レバー	P. 325
⑪	ハンドル位置調整スイッチ	P. 137
	調整方法	P. 137
	調整位置の登録★	P. 129
⑫	オートエアコン	P. 289
	操作方法	P. 289
	リヤウィンドウの曇り取り（リヤウィンドウデフォッガー）	P. 293
⑬	オーディオ※	
	音楽を聴く※	
	電話をかける・受ける（ハンズフリー）※	
⑭	トランクオープナーメインスイッチ	P. 115

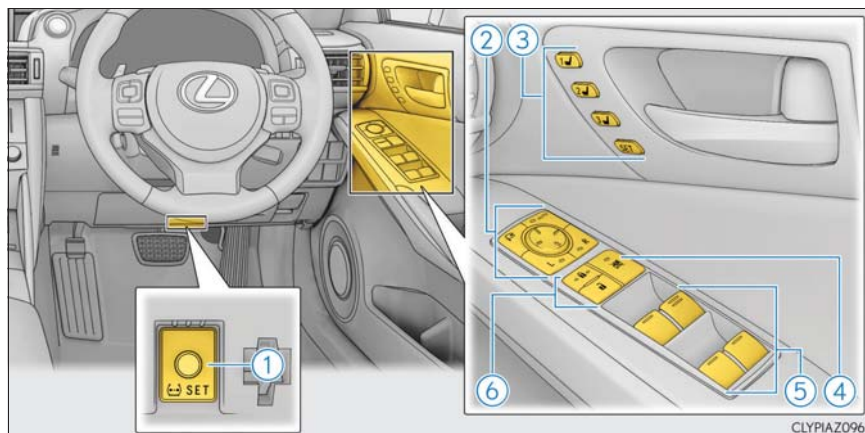
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■スイッチ類



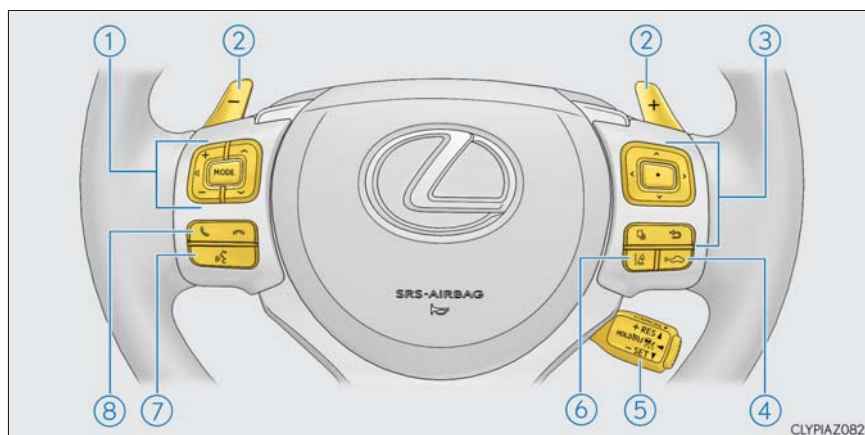
- ① インストルメントパネル照度調整スイッチP. 74
- ② オドメーター／トリップメーター切りかえ・
トリップメーターリセットボタンP. 80
- ③ フロントワイパーデアイサースイッチ★P. 293
- ④ オートマチックハイビームスイッチ.....P. 183
- ⑤ BSM（ブラインドスポットモニター）メインスイッチ★.....P. 246
- ⑥ クリアランスソナースイッチ★P. 258
- ⑦ リヤサンシェードスイッチ★P. 314



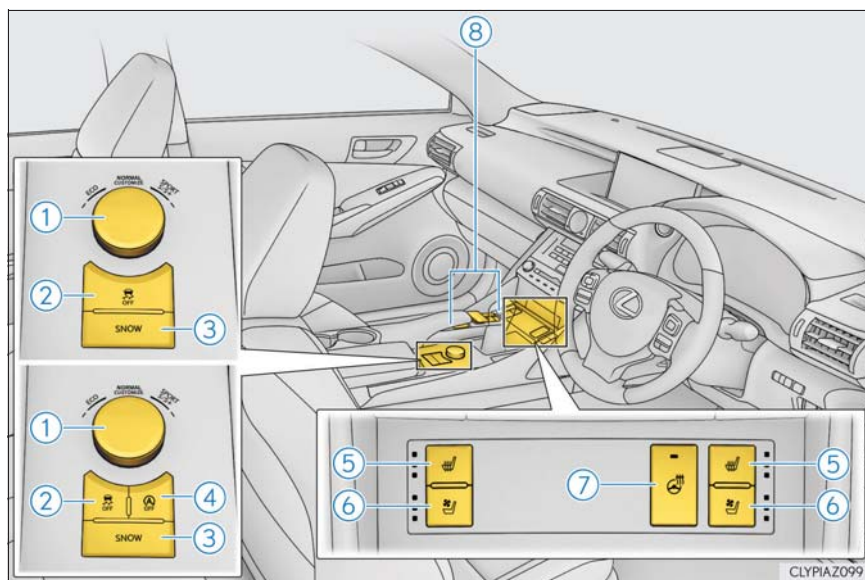
CLYPIAZ096

- ① タイヤ空気圧警報リセットスイッチP. 331
- ② ドアミラースイッチP. 141
- ③ 運転席ポジションメモリースイッチ★P. 129
- ④ ウィンドウロックスイッチP. 145
- ⑤ パワーウィンドウスイッチP. 145
- ⑥ ドアロックスイッチP. 110

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



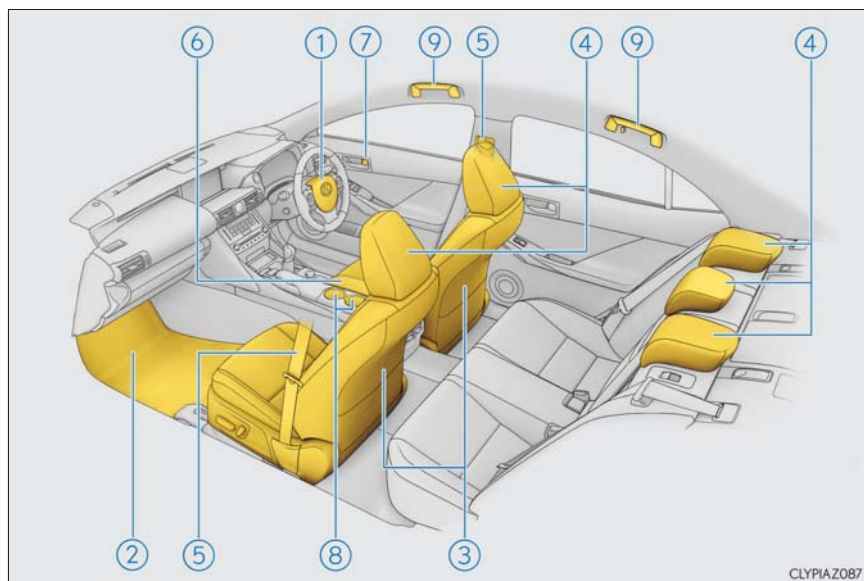
- ① オーディオスイッチ ※
- ② パドルシフトスイッチP. 173
- ③ メーター操作スイッチP. 79
- ④ 車間距離切りかえスイッチ.....P. 228
- ⑤ クルーズコントロールスイッチ.....P. 223
- ⑥ LDA（レーンディパーチャーアラート）スイッチ.....P. 214
- ⑦ トークスイッチ ※
- ⑧ 電話スイッチ ※



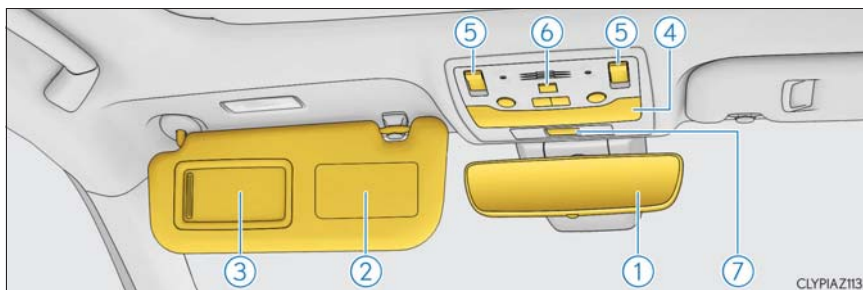
- ① ドライブモードセレクトスイッチP. 267
- ② VSC OFF スイッチP. 272
- ③ スノーモードスイッチP. 172
- ④ Stop & Start キャンセルスイッチ★P. 235
- ⑤ シートヒータースイッチ★P. 300
- ⑥ シートベンチレータースイッチ★P. 301
- ⑦ ステアリングヒータースイッチ★P. 300
- ⑧ リモートタッチ ※P. 284

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
 ※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■室内



- ① SRS エアバッグP. 32
- ② フロアマットP. 24
- ③ フロントシートP. 125
- ④ ヘッドレストP. 134
- ⑤ シートベルトP. 28
- ⑥ コンソールボックスP. 306
- ⑦ ドアロックレバーP. 110
- ⑧ カップホルダーP. 307
- ⑨ アシストグリップP. 316



- ① インナーミラーP. 139
- ② サンバイザー ※¹P. 312
- ③ バニティミラーP. 312
- ④ インテリアランプP. 303
パーソナルランプ ※²P. 303
- ⑤ ムーンルーフスイッチ★P. 149
- ⑥ 侵入センサー OFF スイッチP. 62
- ⑦ ヘルプネットスイッチパネル ※³

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
(→ P. 55)



※²：図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※³：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全に

お使いいただくために

運転する前に	24
安全なドライブのために	26
シートベルト	28
SRS エアバッグ	32
ポップアップフード	40
お子さまの安全のために	43
子供専用シート	44
チャイルドシートの取り付け	51
排気ガスに対する注意	57

1-2. 盗難防止装置

エンジンイモビライザー システム	58
オートアラーム	59

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

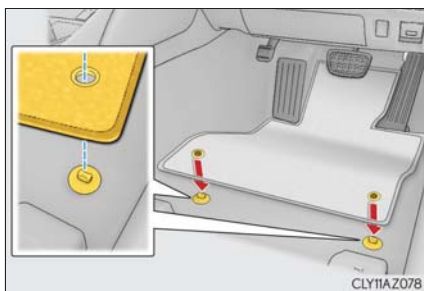
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

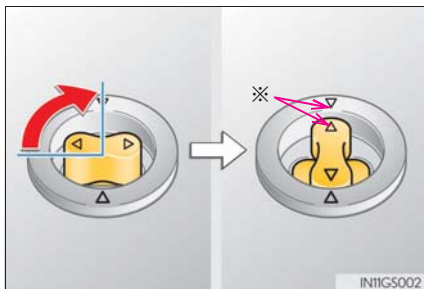
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態
で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマッ
トと干渉しないことを確認する

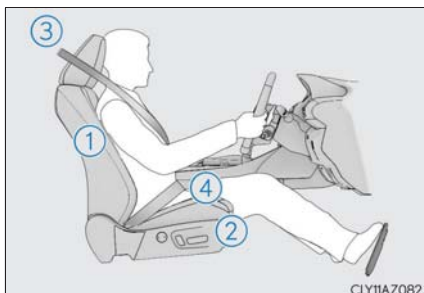


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 125）
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 125）
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 134）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 28）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 44）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 139, 141）

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

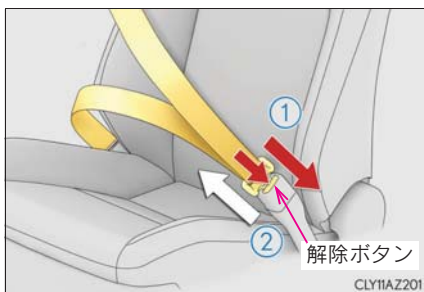
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



シートベルトの高さ調節（フロント席）

- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

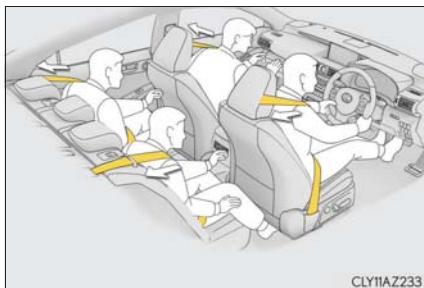


シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

フロント席のシートベルトプリテンショナーは、側方から強い衝撃を受けたときも作動します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

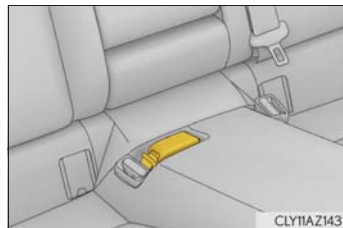
- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→ P. 44）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 28）

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ リヤ中央席シートベルトを使用したあとは

バックルを格納してください。



警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

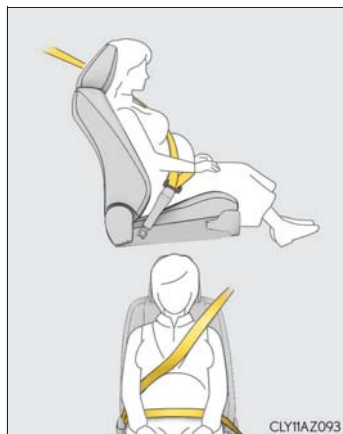
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 28)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

 警告**■ お子さまを乗せるとき**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

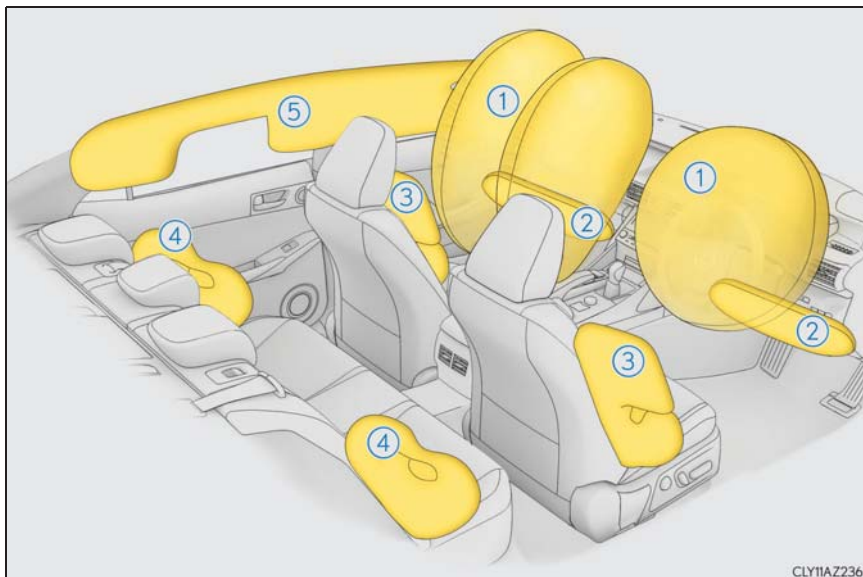
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



CLY11AZ236

◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- ② SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

- ③ SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ④ SRS リヤサイドエアバッグ ★
(リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ⑤ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

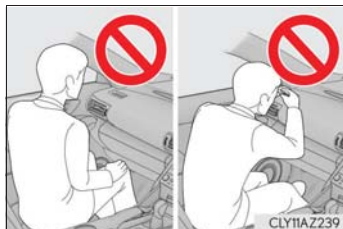
警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に寄せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 44)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



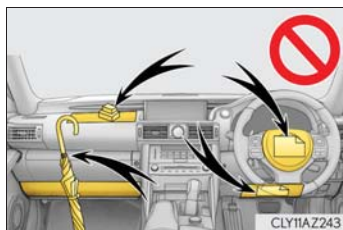
警告

■ SRS エアバッグについて

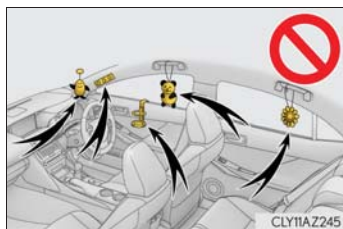
- 助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く：→ P. 402)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

**警告****■ SRS エアバッグについて**

- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け



知識

■ SRS エアバッグが作動するとき

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-Link の契約期間内は、SRS エアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

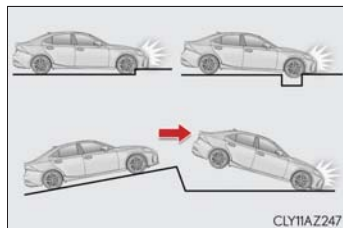
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

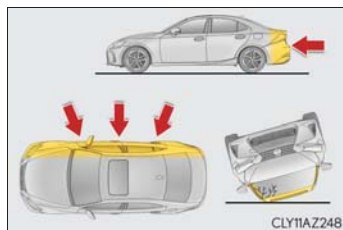
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

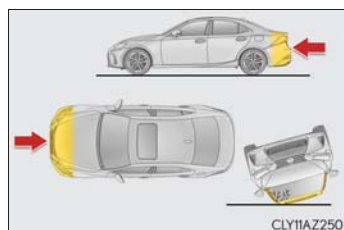
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



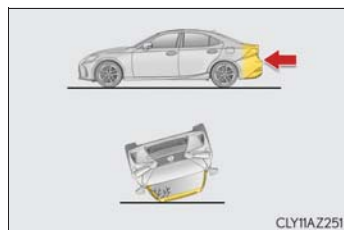
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 後方からの衝突
- 横転

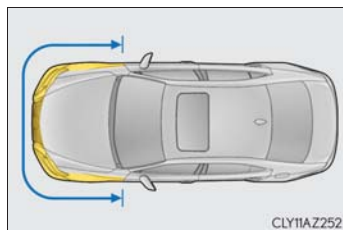


■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

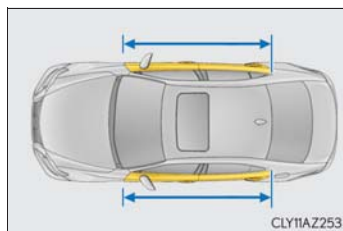
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

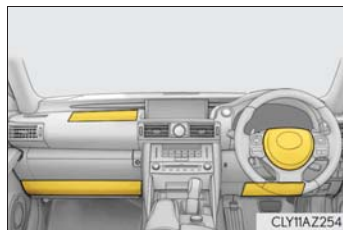
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



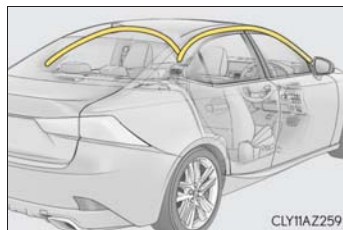
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



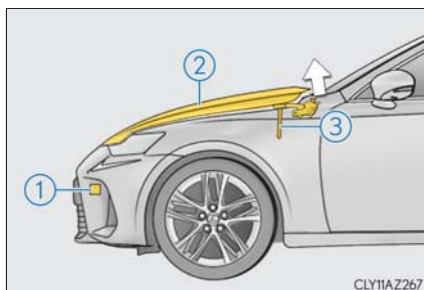
ポップアップフード

ポップアップフードは前方向からの衝突時にボンネットの後方を持ち上げ、エンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

ポップアップフード

作動速度範囲での走行時に歩行者やその他の物体との衝突により、フロントバンパー裏にあるセンサーが一定以上の衝撃を感知すると、システムが作動し、ボンネットが持ち上がります。

- ① センサー
- ② ボンネット
- ③ リフター



ポップアップフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

- 作動速度範囲（約 25 ～ 55km/h）での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき。（衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽いもの・小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります）
- その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
 - ・ 縁石に衝突したとき
 - ・ 深い溝や穴に落ち込んだとき
 - ・ ジャンプして地面にぶつけたとき
 - ・ 駐車場のスロープ・うねりのある道路・突起物や落下物などにぶつけたとき

 警告**■ ポップアップフードが作動したとき**

- ボンネット解除レバーを引かないでください。ポップアップフードが作動したあとにボンネット解除レバーを引くと、さらにボンネットが上がリ、思わぬけがをするおそれがあり危険です。ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬ傷害につながるおそれがあり危険です。ポップアップフードが作動したあとはレクサス販売店で点検を受けてください。車両の移動は安全な場所までにとどめ、販売店に連絡してください。
- ポップアップフードが作動した直後は、リフターにふれないでください。作動直後はリフターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

**知識****■ ポップアップフードについて**

- 廃車するときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。レクサス販売店で交換してください。

■ ポップアップフードが作動しにくいとき

- 走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったときは、衝撃を検知しにくいいため、作動しないことがあります。また、歩行者の衝撃によっては作動しにくい場合があります。
- 車両が横すべりするなどして、車速が正しく検知できないときは正常に作動しないことがあります。

■ ポップアップフードが作動しないとき

次のようなときは作動しません

- 横たわっている歩行者に衝突したとき
- 作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき
- 横方向や後部から衝撃を受けたとき
- 横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては、ポップアップフードが作動することがあります。）



注意

■ ポップアップフードについて

- ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前に必ず確認してください。
- 4 輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧（→ P. 447）で使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパー周辺に何かがぶつかったときは、ポップアップフードが作動していなくても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- ポップアップフードの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、レクサス販売店にご相談ください。
- フロントバンパー・ボンネット・サスペンションなどを純正品以外のものに交換しないでください。また、取りはずしたりしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーやボンネットにもものを取り付けしないでください。衝撃を正しく検知できず、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、リフターに荷重を加えないでください。リフターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 44)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター (→ P. 111) ・ウィンドウロックスイッチ (→ P. 145) をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ ・ ボンネット ・ トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 51)

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44※ の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0	: 10kg まで
グループ0+	: 13kg まで
グループI	: 9 ~ 18kg
グループII	: 15 ~ 25kg
グループIII	: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

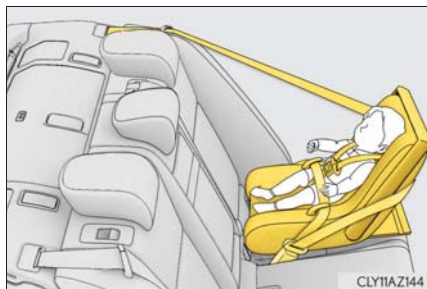
※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにとまなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

▶ ベビーシート



ECE R44 基準のグループ 0、0⁺に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0⁺、I に相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループ II、III に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表 (シートベルトでの取り付け)

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U※3	×
0 ⁺ （13kg まで）	×	U※3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	うしろ向き ×	U※3	×
	前向き UF※1		
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF※1, 2	U※2, 3	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF※1, 2	U※2, 3	×

● 上表に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向きの子供専用シートに適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

※1 子供専用シートを取り付けるときは、背もたれを直立（初段ロック）状態にし、シートをいちばんうしろへ下げ、高さをいちばん高い位置まで上げてください。子供専用シートが天井とあたる場合は、あたらない位置までシートの高さを下げてください。

※2 子供専用シートとヘッドレストがあたる場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。

※3 車両左側のシートへ子供専用シートを取りつけたときは、中央席に座らないでください。

- ・ 子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。
- ・ 表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表 (ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL [※]
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL [※]
	D	ISO/R2	IL [※]
	C	ISO/R3	IL [※]
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF [※] , IL [※]
	B1	ISO/F2X	IUF [※] , IL [※]
	A	ISO/F3	IUF [※] , IL [※]
II (15 ~ 25kg)		(1)	×
III (22 ~ 36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示 (A から G) のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用 (ユニバーサル) カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL : この質量グループでの使用を許可された「レクサス純正 NEO G-Child Iso leg」に適しています。

× : 子供専用シートを取り付けることはできません。

※ リヤ左席に子供専用シートを取り付けたときはリヤ中央席に座らないでください。子供専用シートとヘッドレストがあたる場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。

- ・ 子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。
- ・ 表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。



知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→ P. 46)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 47)を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「0⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「1」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順**1**で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1) : 質量グループが「0⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「1」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。

- 3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

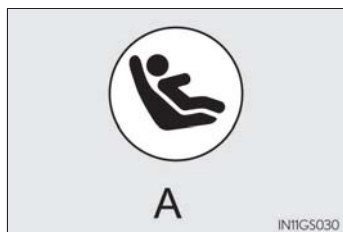
※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



- ① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順②で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



- ② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表し、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



- ③ トップテザー（→ P. 51）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■ 助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- シートをいちばんうしろにさげる



■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。



警告

■ 子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
(→ P. 52)



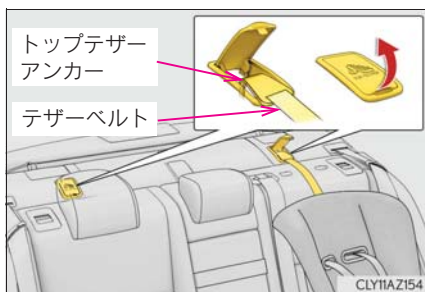
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→ P. 53)

リヤ外側シートに装備されています。
(固定専用バーが装備されていることを示すマークがシートに付いています)



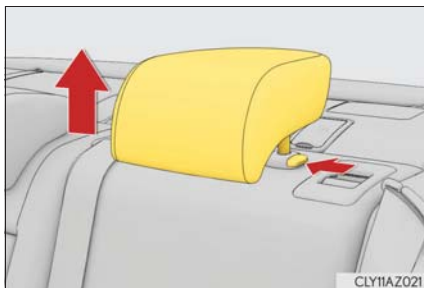
トップテザーアンカー (→ P. 53)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤ外側シートに装備されています。



シートベルトで固定する

- 1** チャイルドシートとヘッドレストがあたるときは、ヘッドレストをはずす (→ P. 134)



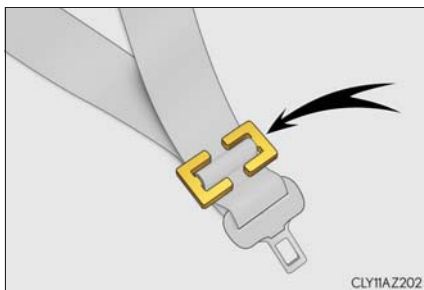
- 2** チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 3** チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ (別売) を使用して固定する

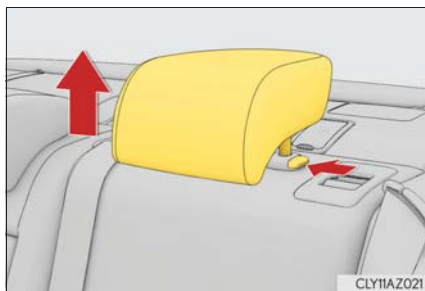
ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。
(ロッキングクリップ品番: 73119-22010)



取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

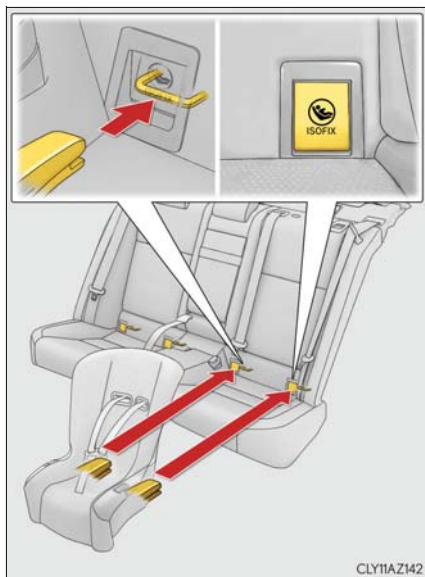
- 1 チャイルドシートとヘッドレストがあたるときは、ヘッドレストをはずす (→ P. 134)



- 2 チャイルドシートをシートに取り付ける

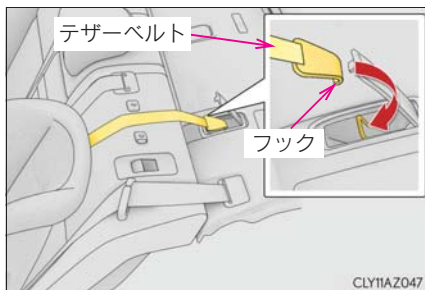
チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 3 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



- 4** 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する



警告

■チャイルドシートについて

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

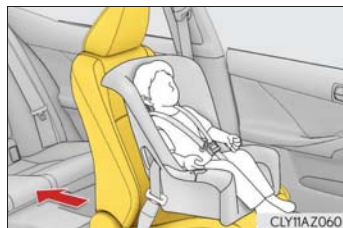


- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がな
いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

トランクを閉じてください。

トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

● 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。

● 長時間エンジンが作動したままにしないでください。

やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

● 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

エンジンイモバイザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモバイザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ エンジンイモバイザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者が車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

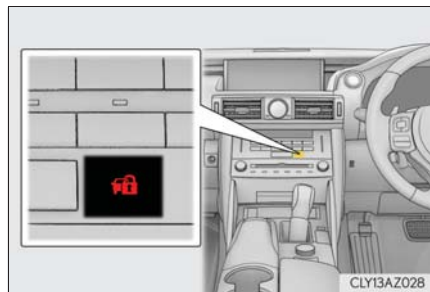
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／G-Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。

30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケータは点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアまたはトランクを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

 知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

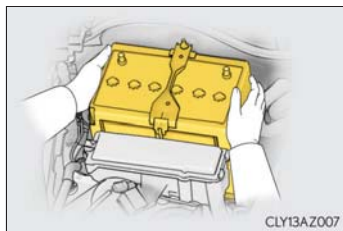
■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、バッテリーあがりなどで、バッテリーの充電や交換をしたとき (→ P. 432)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

以下のとき、車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されることがあります。

- ドアがメカニカルキー以外で解錠され、オートアラームが作動したとき
- オートアラームの作動中に、ドアがメカニカルキー以外で解錠されたとき
- バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフの閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー & スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。
- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／G-Security」を参照してください。

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したときにオートアラームが作動するよう、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 449）

注意

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入センサーとは

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→ P. 59)

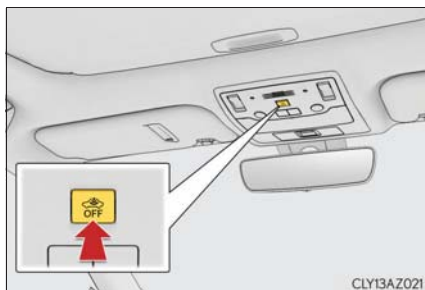
■ 侵入センサーを停止する

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

- 1 エンジンスイッチをOFFにする
- 2 侵入センサーOFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーをOFF/ONにするたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



 知識

■ 侵入センサーの作動・停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

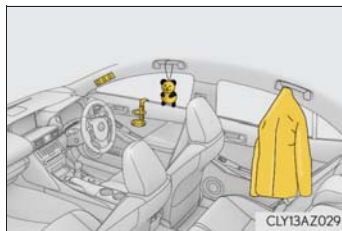
■ 侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

- ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。
 - ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
 - ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
 - ・ 室外の歩行者の動き



- マスコットやアクセサリをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にいる場合



- 振動や騒音が激しい場所、または連続的な衝撃や振動が車両に伝わる状況
 - ・ 立体駐車場に駐車したとき
 - ・ フェリー・トレーラー・列車などで車両を運搬するとき
 - ・ ガラスに付着した氷を削り落すとき
 - ・ 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
 - ・ ひょう・落雷などのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意

■ 侵入センサーを正しく動作させるために

- センサーの穴はふさがないようにしてください。



- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

メーターの見方

2

2. 計器の見方

警告灯／表示灯	66
計器類	71
マルチインフォメーション ディスプレイ	76
Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面	93

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ F SPORT 以外



▶ F SPORT



警告灯

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯 (→ P. 368)



PCS (プリクラッシュセーフティシステム) 警告灯 (→ P. 369)



充電警告灯★ (→ P. 368)



スリップ表示灯 (→ P. 369)



エンジン警告灯 (→ P. 368)



Stop & Start キャンセル表示灯★ (→ P. 370)



SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 (→ P. 368)



半ドア警告灯 (→ P. 370)



ABS & ブレーキアシスト警告灯 (→ P. 368)



燃料残量警告灯 (→ P. 370)



パーキングブレーキ警告灯 (→ P. 368)



シートベルト非着用警告灯 (→ P. 370)



パワーステアリング警告灯 (→ P. 369)



マスターウォーニング (→ P. 370)



LDA (レーンディパーチャーアラート) 表示灯 (→ P. 369)



タイヤ空気圧警告灯 (→ P. 370)

※ 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	方向指示表示灯 (→ P. 178)	 ※1 (点滅)	スリップ表示灯 (→ P. 272)
	尾灯表示灯 (→ P. 180)	 ※1	VSC (ビークルスタビリティ コントロール) OFF 表示灯 (→ P. 273)
	ハイビーム表示灯 (→ P. 181)	 ※1, 2	PCS (プリクラッシュセーフ ティシステム) 警告灯 (→ P. 204)
 ※1	オートマチックハイビーム 表示灯 (→ P. 183)	 ※3, 4	BSM (ブラインドスポットモ ニター) ドアミラーインジ ケーター★ (→ P. 246)
	リヤフォグランプ表示灯★ (→ P. 187)	 ※5	セキュリティ表示灯 (→ P. 58, 59)
	クルーズコントロール 表示灯 (→ P. 223)	 ※6	低温表示灯 (→ P. 71)
	レーダークルーズコントロー ル表示灯 (→ P. 223)	 ※1	エコドライブインジケーター ランプ (→ P. 90)
	クルーズコントロールセット 表示灯 (→ P. 223)	 ※7	エコドライブモード表示灯 (→ P. 267)
	LDA (レーンディパーチャー アラート) 表示灯 (→ P. 214)	 ※8	エコドライブモード表示灯 (→ P. 267)
	LDA (レーンディパーチャー アラート) 表示灯 (→ P. 214)	 ※1	Stop & Start 表示灯★ (→ P. 235)
 (点滅)	LDA (レーンディパーチャー アラート) 表示灯 (→ P. 214)	 ※1, 2	Stop & Start キャンセル 表示灯★ (→ P. 237)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

	クリアランスソナー表示灯★ (→ P. 258)		SPORT S 表示灯 (→ P. 267)
	SPORT 表示灯★ (→ P. 267)		SPORT S+ 表示灯 (→ P. 267)
	SPORT S 表示灯★ (→ P. 267)		カスタマイズモード表示灯 (→ P. 267)
	SPORT S+ 表示灯★ (→ P. 267)		スノーモード表示灯 (→ P. 172)
	カスタマイズモード表示灯★ (→ P. 267)		

- ※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。
- ※² システムが OFF のときに点灯します。
- ※³ 作動確認のため次の条件のときインジケータが点灯します。
- ・BSM メインスイッチが ON の状態で、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき
 - ・エンジンスイッチがイグニッション ON モードで、BSM メインスイッチを ON にしたとき
- システムが正常であればインジケータは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。
- ※⁴ ドアミラーに表示されます。
- ※⁵ センターパネルに表示されます。
- ※⁶ 外気温が約 3℃ 以下のとき、約 10 秒間点滅後に、点灯します。
- ※⁷ F SPORT 以外
- ※⁸ F SPORT

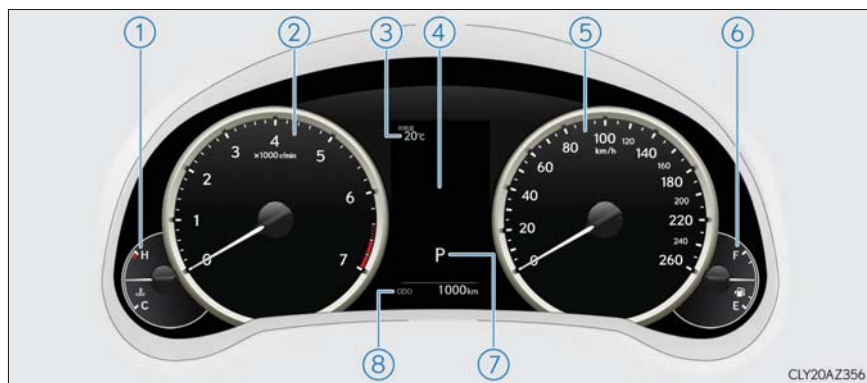
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

計器類

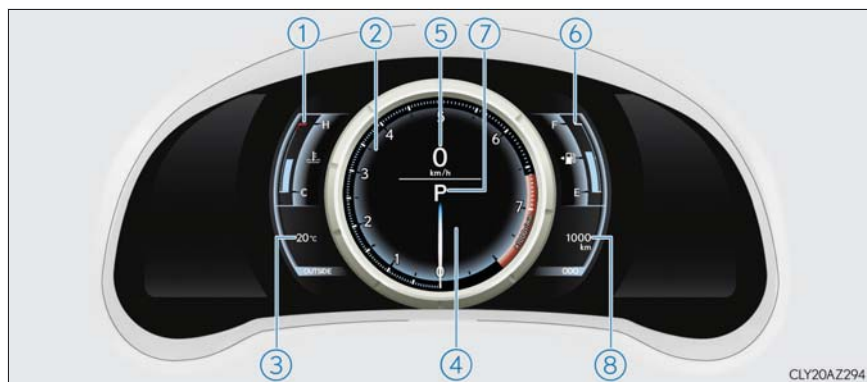
◆ F SPORT 以外



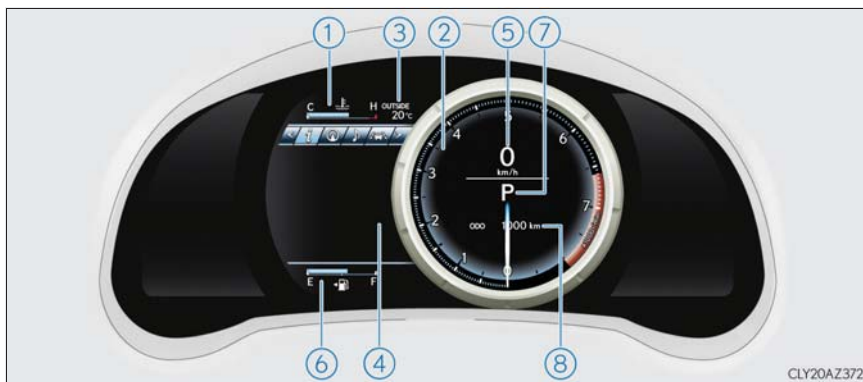
◆ F SPORT

メーターリングの位置に応じて、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。

▶ メーターリング中央時



▶ メーターリング移動時



① 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

② タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

F SPORT：走行モードをスポーツモードに切りかえるとタコメーターの配色が変わり、目盛り部分などが強調表示されます。

③ 外気温

外気温度を -40°C ～ 50°C の間で表示します。外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

④ マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 76)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→ P. 374)

⑤ スピードメーター

⑥ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

⑦ シフトポジション・ギヤ段表示 (→ P. 171)

⑧ オドメーター／トリップメーター (→ P. 89)

■ 車速インジケーター (F SPORT)

設定した車速に到達すると、速度単位の両側にインジケーターを表示します。

- ・ インジケーターには黄色(任意設定)と赤色(120 km/h※ 固定)の2種類があります。
- ・ 車速インジケーターの表示を開始する車速は、マルチインフォメーションディスプレイの $\odot$ で設定することができます。(→ P. 86)
- ・ 初期設定は非表示になっています。マルチインフォメーションディスプレイの $\odot$ で設定を変更することができます。(→ P. 86)

※ 公道では制限速度をお守りください。

■ REV インジケーター (F SPORT)

設定したエンジン回転数に到達すると、タコメーター内にリング状のインジケーターを表示します。

REVインジケーターの表示を開始するエンジン回転数は、マルチインフォメーションディスプレイの $\odot$ で設定することができます。(→ P. 86)

■ REV ピーク (F SPORT)

5000 r/min 以上の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーター指針の残像を約 0.5 秒間表示します。



表示の切りかえ

■ メーターリング (F SPORT)

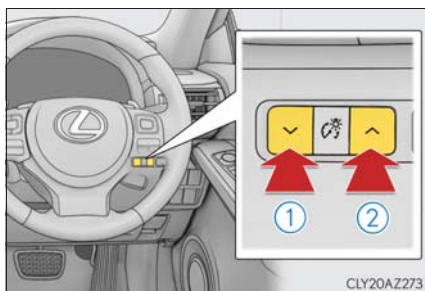
ボタンを押すごとにメーターリングが移動して表示が切りかわります。



インストルメントパネル照度調整スイッチ

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

- ① 暗くする
- ② 明るくする





知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■インストルメントパネルの照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。
ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■割込表示について

- マルチインフォメーションディスプレイやオドメーター／トリップメーター表示部（F SPORT）には、状況に応じて一時的に割り込み画面が表示されます。
- 一部の割り込み表示の表示／非表示を切りかえることができます。（→ P. 86）

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイでメーターの表示を変更できます。
（→ P. 86）



注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

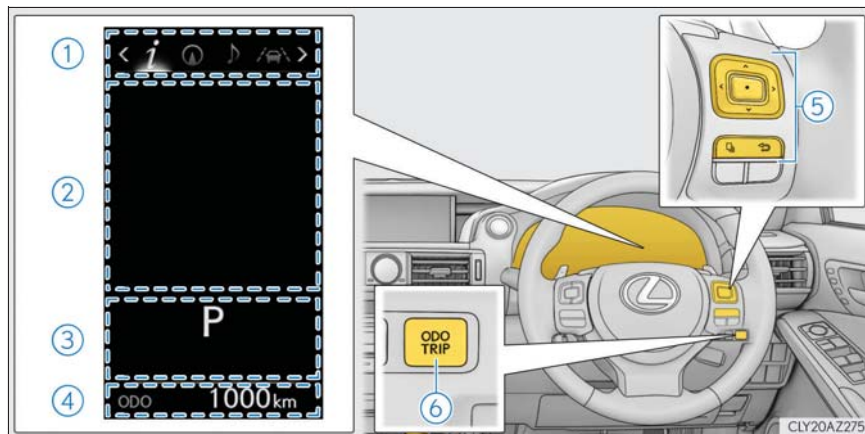
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針（F SPORT 以外）／バー表示（F SPORT）が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 434）

マルチインフォメーションディスプレイ

機能概要

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示したり、設定を切りかえることができます。

◆ F SPORT 以外



① メニューアイコン表示エリア

メニューアイコンの切りかえ操作をしていないときは外気温が表示されています。

- ・ メニューアイコン (→ P. 81)
- ・ 外気温 (→ P. 71)

② コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを切り替えることにより、さまざまな情報を表示することができます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

- ・ 各メニューの表示内容 (→ P. 81)
- ・ 警告メッセージ (→ P. 374)

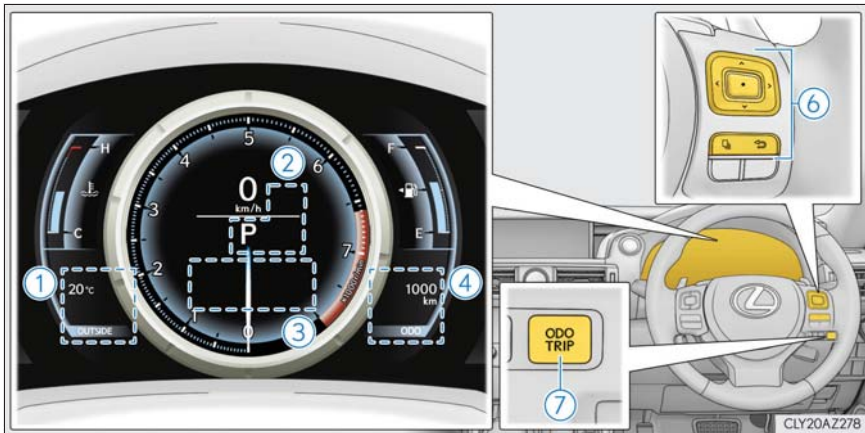
③ 表示灯／シフトポジション表示エリア

- ・ 表示灯 (→ P. 66)
- ・ シフトポジション表示 (→ P. 171)

- ④ オドメーター／トリップメーター表示エリア (→ P. 89)
 - ・ オドメーター／トリップメーター
 - ・  アイドリングストップ時間★
- ⑤ メーター操作スイッチ (→ P. 79)
- ⑥ オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットボタン (→ P. 80)

◆ F SPORT

▶ メーターリング中央時



▶ メーターリング移動時



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ① 外気温表示 (→ P. 71)
- ② 表示灯／シフトポジション表示エリア
 - ・ 表示灯 (→ P. 66)
 - ・ シフトポジション表示 (→ P. 171)
- ③ コンテンツ表示エリア

メーターリング中央時：
走行に関するさまざまな情報を表示することができます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

 - ・ ドライブインフォメーション (→ P. 82)
 - ・ 警告メッセージ (→ P. 374)

メーターリング移動時：
メニューアイコンを切り替えることにより、さまざまな情報を表示することができます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

 - ・ 各メニューの表示内容 (→ P. 81)
 - ・ 警告メッセージ (→ P. 374)
- ④ オドメーター／トリップメーター表示エリア (→ P. 89)
 - ・ オドメーター／トリップメーター
 - ・  アイドリングストップ時間★
- ⑤ メニューアイコン (→ P. 81)
- ⑥ メーター操作スイッチ (→ P. 79)
- ⑦ オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットボタン (→ P. 80)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作方法

◆ コンテンツ表示エリアの操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ①   : メニューの切りかえ
  : コンテンツの切りかえ、ページ送り、カーソル移動

- ② 短押し: 決定
 長押し: リセット

- ③ 前の画面にもどる
 短押しと長押しで戻ることができる
 階層がかわります。

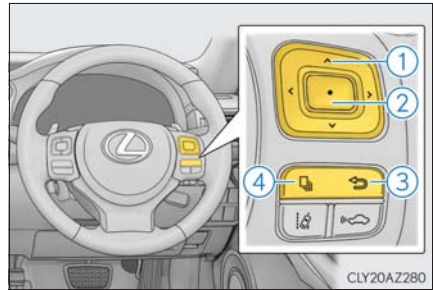
▶ F SPORT 以外

- ④ 短押し: トップ画面を表示する
 長押し: トップ画面を登録する

▶ F SPORT

- ④ メーターリング移動

メーターリングが右にスライドし、リング左側にメニューアイコンを表示させます。



■ トップ画面の登録 (F SPORT 以外)

お好みの画面を登録することで、トップ画面を変更することができます。トップ画面を登録するには、登録したい画面を表示中に  スイッチを長押ししてください。

- ・ スイッチを長押しすると、登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。
- ・ 未登録時はドライブインフォメーション画面を表示します。

■ ドライブインフォメーションのリセット

 で表示される平均燃費 (リセット間)・平均車速 (リセット間)・走行時間 (リセット間) をリセットするには、リセットしたい項目を表示中に

 スイッチを長押しします。

画面に表示されている項目が 2 つともリセット可能な場合は、選択画面が表示されます。

◆ オドメーター／トリップメーター表示エリアの操作方法

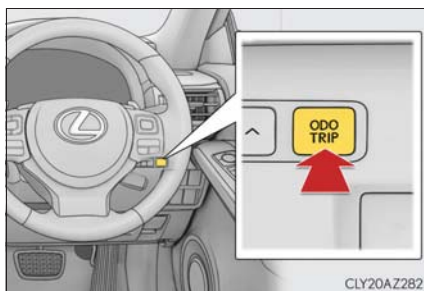
オドメーター／トリップメーター
切りかえ・トリップメーターリセッ
トボタンを使って次のように操作
します。

短押し：表示の切りかえ

ボタンを押すごとに表示される項目
が切りかわります。

長押し：リセット

トリップメーターを表示中にボタン
を長押しすると、走行距離を 0 にも
どします。



メニューアイコン

メニューアイコンを選択して、次の項目を表示することができます。



ドライブインフォメーション (→ P. 82)

走行に関するさまざまな情報を表示します。



ナビゲーションシステム連携表示

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

- ・ 目的地案内
- ・ コンパス (ヘッドアップ表示)



オーディオシステム連携表示

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。



運転支援システム情報

次のシステムの作動状況を表示します。

- ・ レーダークルーズコントロール (→ P. 223)
- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) (→ P. 214)



Stop & Start システム情報★ (→ P. 85, 235)

Stop & Start システムの作動状況を表示します。



警告メッセージ (→ P. 374)

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。



設定 (→ P. 86)

さまざまな機能の設定やメーターの表示設定などを変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドライブインフォメーション ()

F SPORT: ドライブインフォメーションは、メーターリング中央時と移動時で表示される内容が一部異なります。

■ ドライブインフォメーション 1 / 2 / 3

次の走行に関する情報を 1 画面につき 2 項目ずつ表示します。

F SPORT (メーターリング中央時) の場合は、1 項目ずつ分けて表示します。

● ドライブインフォメーション 1

- ・ 瞬間燃費
- ・ リセット間平均燃費

● ドライブインフォメーション 2

- ・ 航続可能距離
- ・ リセット間平均车速

● ドライブインフォメーション 3

- ・ 給油後平均燃費
- ・ 始動後走行時間

表示する項目は  メニューから変更することができます。(→ P. 86)

表示できる項目は次のとおりです。

項目		表示内容
瞬間燃費		現在の瞬間燃費を表示
平均燃費	リセット間	リセット後の平均燃費を表示 ※1、2
	始動後	エンジン始動後の平均燃費を表示 ※2
	給油後	給油後の平均燃費を表示 ※2、3
平均车速	リセット間	リセット後の平均车速を表示 ※1
	始動後	エンジン始動後の平均车速を表示
走行時間	リセット間	リセット後の経過時間を表示 ※1
	始動後	エンジン始動後の経過時間を表示
距離	航続可能距離	燃料残量による走行可能な距離を表示 ※3、4
	始動後	エンジン始動後の走行距離を表示
その他	ブランク	非表示

※1 リセット方法：→ P. 79

※2 表示される燃費は参考として利用してください。

※3 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

※4 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

■ エコドライブインジケーター

→ P. 90

■ ブーストメーター／油温計／油圧計★※

① ブーストメーター

過給圧を表示します。一定圧以上になると表示の色が変わります。

② 油温計

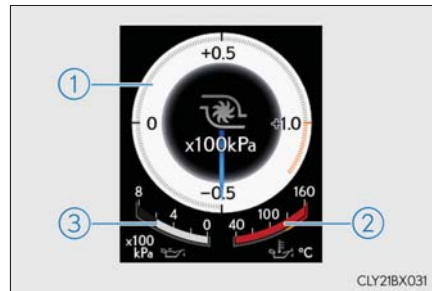
エンジンオイルの温度を表示します。エンジン油温が 140℃以上になると、表示が点滅します。

③ 油圧計

エンジン内部の油圧を表示します。油圧が低下すると、ブザーが鳴り、警告メッセージを表示します。（→ P. 374）

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

※ F SPORT（メーターリング中央時）は表示されません。

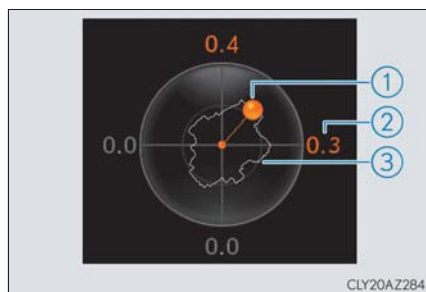


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ G モニター★※

車両にかかる前後左右の G（加速度）を表示します。

- ① 車両にかかる G
- ② 現在の G 値（前後左右に分解した値）
- ③ 最大 G の軌跡



表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

● 最大 G の軌跡のリセット



を長押しすることで、軌跡をリセットすることができます。

● ピークホールド機能

0.5G 以上の力を発生した場合、G 値表示が橙色に変わり、2 秒間保持されます。

※ F SPORT（メーターリング中央時）は表示されません。

■ タイヤ空気圧

→ P. 330

■ ふらつき検知機能※

運転者の注意力が低下したときに発生するふらつき運転を検知し、注意力低下の度合いをバーの長さで表示します。

バーの長さが短いほど休憩が必要な状態であることを表します。

この表示は、LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）の機能のひとつです。LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）のふらつき警報機能の作動条件を満たしたときに、表示の機能が有効になります。（→ P. 214）

※ F SPORT（メーターリング中央時）は表示されません。

■ Gear Position

シフトレバーが D ポジションまたは M ポジションの時、現在選択されているギヤ段を表示することができます。

■ ブランク（非表示）

ブランク画面を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Stop & Start システム情報 (A) ★

■ 現在のアイドリングストップ時間／状態通知

現在のアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジン停止時間) を表示します。

また、アイドリングストップの状態を状況に応じて割り込み表示でお知らせします。(→ P. 242)

■ 通算のアイドリングストップ時間／節約燃料

ハンドルの  または  スイッチを押して、次の項目を表示することができます。

● アイドリングストップ時間 (始動後・リセット後)

次のアイドリングストップ時間を通算で表示します。

- ・ エンジン始動してからのアイドリングストップ時間
- ・ リセットしてからのアイドリングストップ時間

● 節約燃料 (始動後・リセット後)

次のアイドリングストップ時間中の節約燃料を通算で表示します。

- ・ エンジン始動してからの節約燃料
- ・ リセットしてからの節約燃料

表示される節約燃料は参考として利用してください。

■ Stop & Start 設定

ハンドルの  スイッチを押すと、Stop & Start システムの設定画面が表示されます。

設定画面では、次の操作を行うことができます。

● (A) Stop & Start

エアコンの「A/C」を ON にしているときのアイドリングストップ時間を 2 段階から選択することができます。この設定は  から変更することができます。

● リセット

アイドリングストップ時間・節約燃料をリセットします。

リセットするには、カーソルを「リセット」に合わせた状態で  スイッチを長押しします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定 ()

◆ 設定変更のしかた

ハンドルのメーター操作スイッチを操作して、次のように設定を変更します。

- 1  または  スイッチを押して  を選択して、設定画面を表示させる
- 2 スイッチを操作して、変更する項目にカーソルを合わせる
- 3 画面に表示されている内容に従って設定を変更する

◆ 設定変更できる項目

-  LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き])
(→ P. 214)

次の LDA の設定を変更することができます。

項目	設定内容	説明
操舵支援	ON	ハンドル操舵支援の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
警報手段		警報の手段をハンドルの振動または警報ブザーのいずれかから選択することができます。
		
警報感度	高	警報の感度を変更することができます。
	普通	
ふらつき検知	ON	ふらつき警報機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
ふらつき検知感度	高	ふらつき警報機能の感度を変更することができます。
	普通	
	低	

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）（→ P. 204）

次のプリクラッシュセーフティシステムの設定を変更することができます。

項目	設定内容	説明
PCS	ON	プリクラッシュセーフティシステムの作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
警報感度		警報タイミングを変更することができます。
		
		

■ 車速インジケータ（F SPORT）（→ P. 73）

次の車速インジケータの設定を変更することができます。

項目	設定内容	説明
車速インジケータ	ON	車速インジケータの作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
車速設定	50 ～ 120km/h※	車速インジケータの表示を開始する速度を設定します。

※ 公道では制限速度をお守りください。

■ 車両設定

項目	設定内容	説明
 Stop & Start システム★（→ P. 235）		
 Stop & Start	Long	エアコンの A/C スイッチを ON にしているときの、Stop & Start システムによるアイドリングストップ時間を変更することができます。
	Normal	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 表示設定

項目	設定内容	説明
言語		表示される言語を変更することができます。
単位		燃費表示の単位を変更することができます。
 (エコドライブインジケータランプ)	ON	エコドライブインジケータランプの作動・非作動を変更することができます。(→ P. 90)
	OFF	
 スイッチ設定 (F SPORT 以外)		トップ画面を変更する方法を表示します。
ドライブインフォ 1		ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ1、ドライブインフォ2、ドライブインフォ3 それぞれに 2 項目ずつ選択することができます。 (選択項目：→ P. 82)
ドライブインフォ 2		
ドライブインフォ 3		
割込表示	交差点案内	割り込み表示される項目の表示・非表示を変更することができます。
	電話着信	
	 作動時間★	
	 状態通知★	
	照度調整	
カラー (F SPORT 以外)	全 2 色	カーソルの色などを変更することができます。
指針 (F SPORT)	全 3 色	タコメーターの指針色を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容	説明
REV インジケーター (F SPORT)	ON	REV インジケーターの作動・非作動 を変更することができます。 (→ P. 73)
	OFF	
	REV セッティング	REV インジケーターの表示を開始する エンジン回転数を設定します。 設定可能範囲： IS350：2000 r/min ～ 6600 r/min IS200t：2000 r/min ～ 6100 r/min
REV ピーク (F SPORT)	ON	REV ピークの作動・非作動を変更する ことができます。(→ P. 73)
	OFF	
表示設定初期化		メーターの表示設定を初期状態にも どすことができます。

オドメーター／トリップメーター表示エリア

◆ 表示項目

■ オドメーター

走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中にオドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットボタンを長押しします。

◆ 割り込み表示

状況に応じて次の情報が割り込み表示されます。

■ アイドリングストップ時間★

Stop & Start システムによってエンジンが停止すると、現在のアイドリングストップ時間が表示されます。

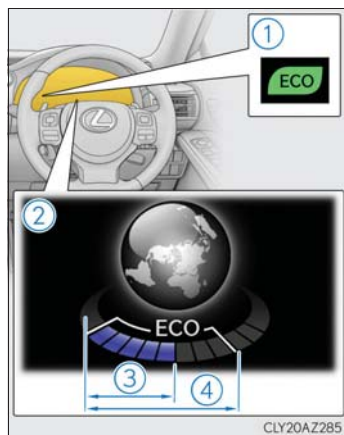
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■エコドライブインジケーター

- ① エコドライブインジケーターランプ
環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。
- ② エコドライブインジケーターゾーン表示
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。
- ③ 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。
- ④ エコ運転の範囲



次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- パドルシフトスイッチを操作しているとき
- 走行モードがノーマルモードまたはエコドライブモード以外のとき (→ P. 267)
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

■ 表示灯／シフトポジション表示エリアの背景色について (F SPORT 以外)

走行モード (→ P. 267) によって背景色が切り替わります。

- エコドライブモード : 青色
- スポーツモード : 赤色

■ G モニターの表示について (F SPORT)

傾斜のある場所など、路面の状況によっては停車中でも G 値が 0 にならない場合があります。

■ 設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

■ タイヤ空気圧表示について

- エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。
- 電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは "---" と表示されることがあります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 86, 449)

 警告**■ 運転中の使用について**

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ ディスプレイの設定を変更するとき**

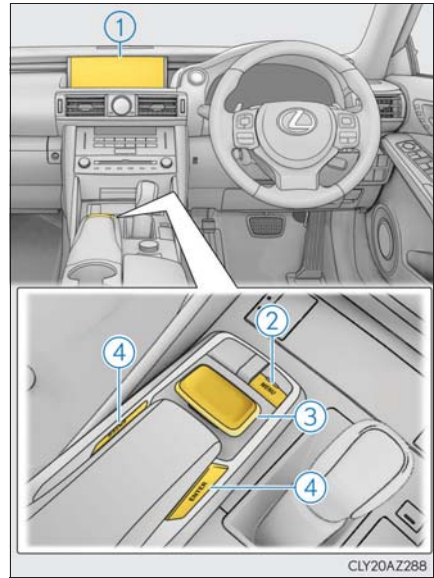
バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面

燃費の情報をナビゲーション画面に表示します。

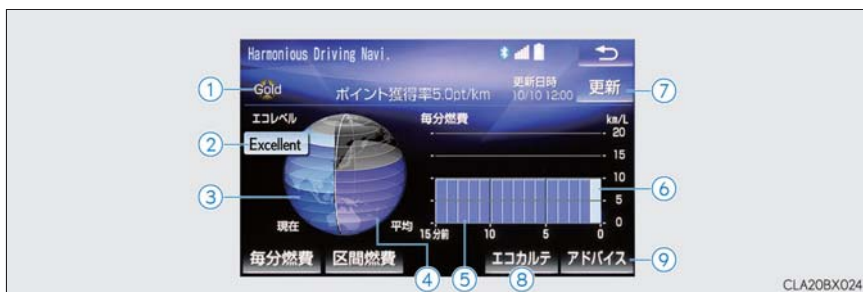
燃費画面は、サイド画面にも表示することができます。

- ① ナビゲーション画面
- ② MENU スイッチ
- ③ リモートタッチノブ
- ④ ENTER スイッチ



Harmonious Driving Navi. 画面の見方

- 1 リモートタッチの MENU スイッチを押し、 を選択する
- 2 情報画面の「Driving Navi」を選択する



① ステータス／ポイント獲得率表示 ※

エコ運転の採点結果や走行情報を G-Link センターに送信し、計算されたデータをもとにステータスやポイント獲得率を表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

② エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

③ エコレベルメーター

エコドライブインジケーターランプの点灯を継続させることなどでメーターが増加します。

④ エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

⑤ 毎分燃費（前回エンジン始動～エンジン停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 毎分燃費（今回エンジン始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ ※

走行情報などを G-Link センターへ送信し、ステータス／ポイント表示を更新します。

⑧ エコカルテスイッチ ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO₂ 排出量・平均燃費・獲得ポイントが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ

- ・ ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
- ・ エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

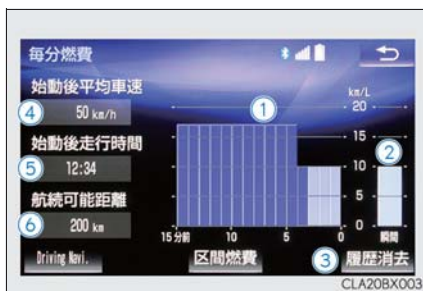
燃費画面の見方

- 1 リモートタッチの MENU スイッチを押し、 を選択する
- 2 情報画面の「燃費」を選択する

■ 毎分燃費の見方

区間燃費画面が表示されたときは、「毎分燃費」を選択します。

- ① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費 (平均燃費)
- ② 瞬間燃費
- ③ 履歴消去
- ④ エンジン始動後平均車速
- ⑤ エンジン始動後走行時間
- ⑥ 航続可能距離 (→ P. 97)



■ 区間燃費の見方

毎分燃費画面が表示されたときは、「区間燃費」を選択します。

- ① 最高燃費表示
- ② 平均燃費表示
- ③ 過去平均燃費表示
平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。
- ④ 履歴消去
- ⑤ 平均燃費更新



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。



知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

■G-Link センターへ送信する走行情報について

G-Link センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

■Harmonious Driving Navi. 画面について

パソコンや携帯電話のユーザーサイトでもステータスなどをみることができます。

サイド画面の使い方

サイド画面に車両情報を表示して（→ P. 287）、< または > を選択してお好みの画面を表示します。

▶ Harmonious Driving Navi.

現在のエコ運転の状況を表示します。



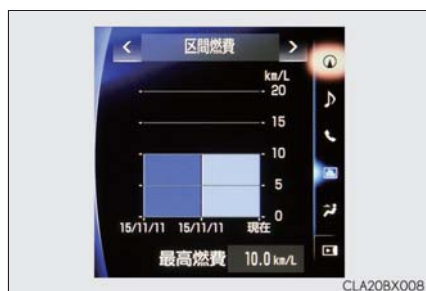
▶ 毎分燃費

過去 10 分間の 1 分ごとの平均燃費と航続可能距離を表示します。



▶ 区間燃費

平均燃費と最高燃費を表示します。



▶ Trip Information

航続可能距離、平均燃費、始動後走行時間を表示します。



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

各部の操作

3

3-1. キー	
キー	102
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
ドア	108
トランク	114
スマートエントリー& スタートシステム	119
3-3. シートの調整	
フロントシート	125
リヤシート	127
運転席ポジションメモリー	129
ヘッドレスト	134
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	137
インナーミラー	139
ドアミラー	141
3-5. ドアガラス・ ムーンルーフの開閉	
パワーウインドウ	145
ムーンルーフ	149

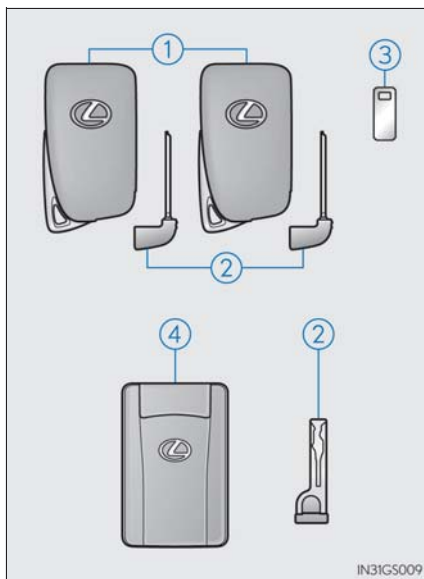
キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

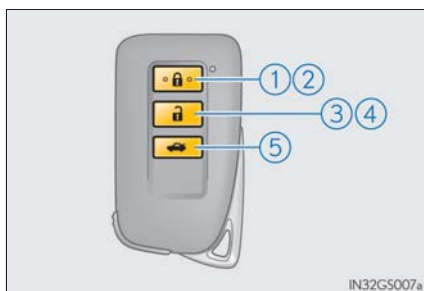
- ① 電子キー
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 119)
 - ・ ワイヤレス機能の作動
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート
- ④ カードキー

スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 119)



ワイヤレスリモコン

- ① ドアの施錠 (→ P. 108)
- ② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※ (→ P. 108)
- ③ ドアの解錠 (→ P. 108)
- ④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く※ (→ P. 108)
- ⑤ トランクを開ける (→ P. 114)



※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。(→ P. 449)

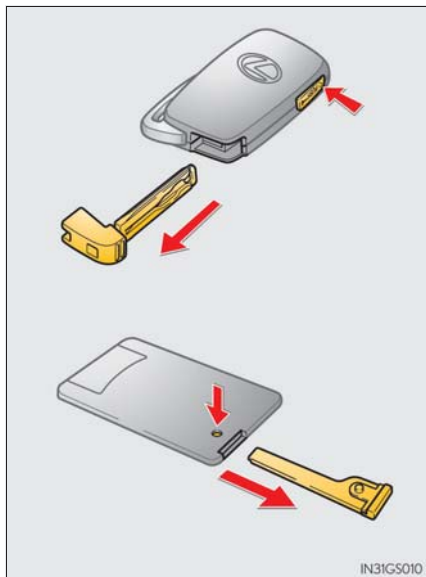
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→ P. 427)

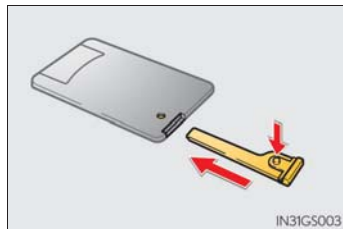




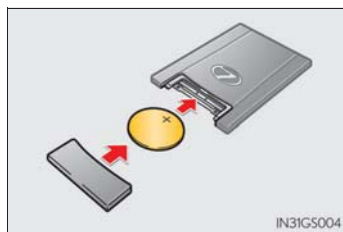
知識

■ カードキーについて

- カードキーは非防水です。
- カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。
- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- 電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の+極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じて、ラゲージセキュリティシステムをセット（→ P. 115）、グローブボックスを施錠（→ P. 306）します。
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。(カードキーの電池は1年半程度で消耗します)
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
(→ P. 394)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーのLEDが点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電池の交換方法

→ P. 341

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

**注意****■ キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ 電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。



注意

■ カードキーの取り扱いについて

- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

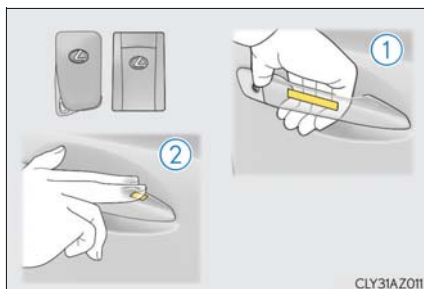
- ① フロント席のドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

- ② フロント席のドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



◆ ワイヤレスリモコン

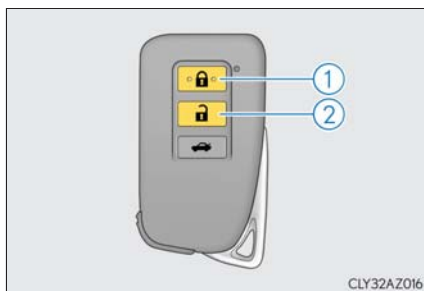
- ① 全ドアを施錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

必ず施錠されたことを確認してください。

- ② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※



※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 449）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。



■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。(→ P. 59)

■ スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

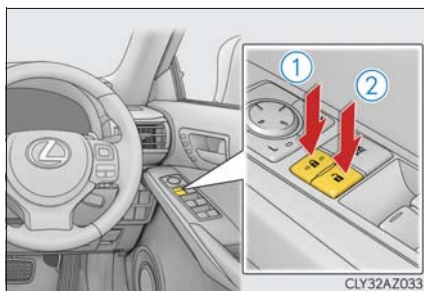
メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 427)

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 341)

車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

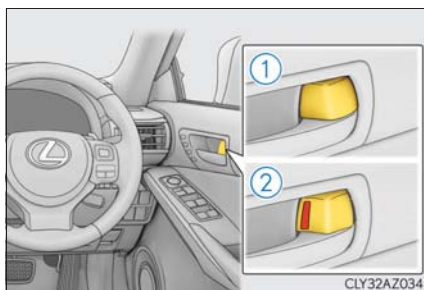
- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からドアを施錠

▶ フロント席ドア

- 1** ロックレバーを施錠側にする
- 2** ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

▶ リヤ席ドア

- 1** ロックレバーを施錠側にする
- 2** ドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

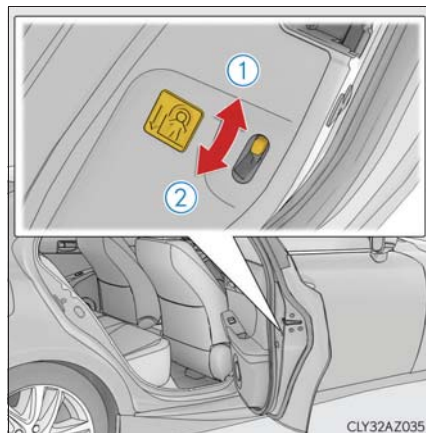
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 449 を参照してください。

機能	作動内容
車速感应オートドアロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

 知識

■ 解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 オートアラームの侵入センサーを停止する
(操作中のオートアラーム誤作動防止：→ P. 62)
- 3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、  または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください)

マルチインフォメーション ディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	
	フロント席のいずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます)
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→ P. 59)

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 427)

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 121

■ カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 449)



警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● すべてのドアを確実に閉め、施錠する

● 走行中はドア内側のドアレバーを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

● お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

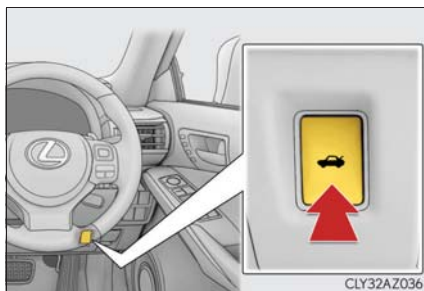
ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

車内からトランクを開ける

トランクオープナースイッチを押す

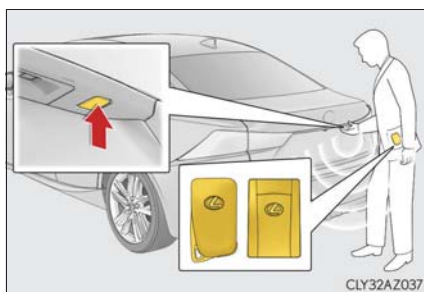


車外からトランクを開ける

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯し、トランクのスイッチを押す

車内のロックレバー以外ですべてのドアが解錠されているときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。



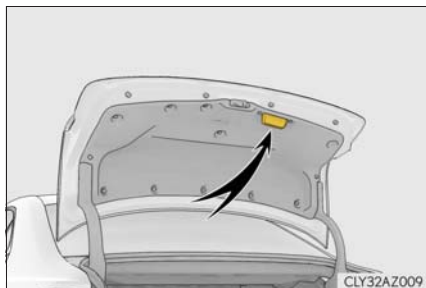
◆ ワイヤレスリモコン

スイッチを押し続ける



トランクを開めるとき

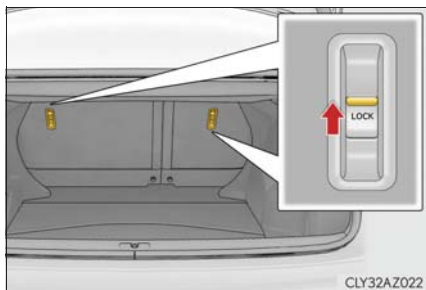
トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。



ラゲージセキュリティシステム

トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、ラゲージセキュリティシステムをセットできます。

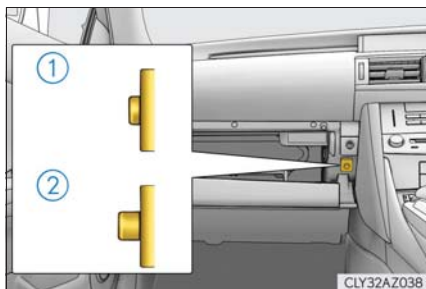
- 1** ラゲージセキュリティシステムレバーを施錠側にする



- 2** グローブボックス内のメインスイッチをOFFにして、トランクオープナースイッチを無効にする

- ① ON
- ② OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー&スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。





知識

■ トランクリンプ

トランクを開けたとき、トランクリンプが点灯します。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いて、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

■ メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。(→ P. 427)

■ スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。(→ P. 427)

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 341)

■ 駐車場などでキーを預けるときは

→ P. 104

■ カスタマイズ機能

トランクの解錠設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 449)

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告**■ トランクの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステム

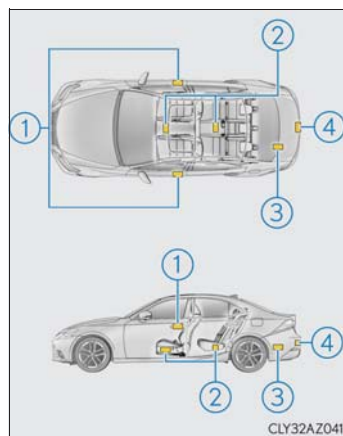
電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する（→ P. 108）
- トランクを開ける（→ P. 114）
- エンジンを始動する（→ P. 166）

知識

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車内アンテナ
- ③ トランク内アンテナ
- ④ トランク外アンテナ



3

各部の操作

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



： ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）



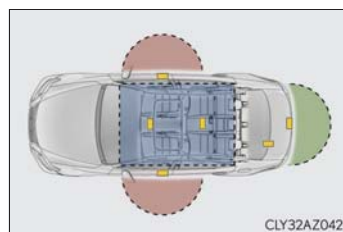
： トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。



： エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

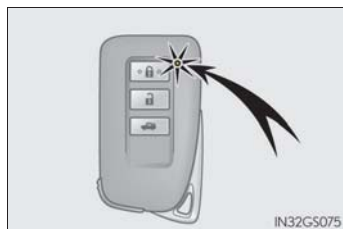
- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・ 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■ 電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→ P. 427)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。
 - ・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・トランクを開けると、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
 - ・エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のバックシートトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、エンジンを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をする、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・キーを車両から 2m 以上離れた場所におく（盗難に注意し保管してください）
 - ・キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→ P. 120）
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーで操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→ P. 449)

■システムを正しく作動させるために

- 電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→ P. 392)
- トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所(応急用タイヤ★付近、トランク内側の端)、状況(金属製のかばんの中、金属製のものの付近など)、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。(→ P. 116)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドア・トランクの施錠・解錠：→ P. 427
- エンジンの始動：→ P. 428

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 449)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。(→ P. 108, 114, 427)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切り替え：→ P. 428
- エンジンの停止：→ P. 166

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■電波がおよぼす影響について**

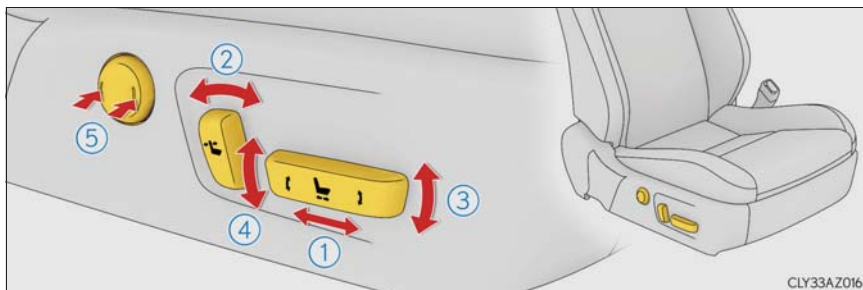
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 119）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。

詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた



- | | |
|----------------|--------------------------------|
| ① 前後位置調整 | ④ クッション後端の上下調整 |
| ② リクライニング調整 | ⑤ 腰部位置調整
(ランバーサポート) (運転席のみ) |
| ③ クッション前端の上下調整 | |



知識

■ パワーイージーアクセスシステム★

エンジンスイッチのモード切り換え・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。(→ P. 129)

■ シートを調整するときは

- ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。
- リヤシートを折りたたんでいるとき、フロントシートの背もたれがリヤシートにあたる場合は、あたらない位置へ調整してください。正しい運転姿勢がとれない場合は、リヤシートを元の位置へもどしてください。(→ P. 127)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告****■ シートを調整するとき**

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

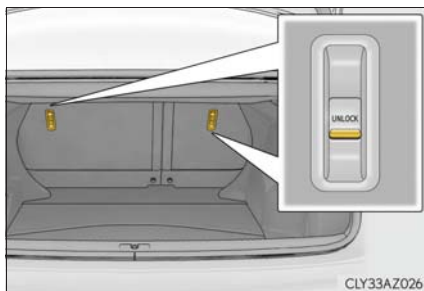
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

リヤシート

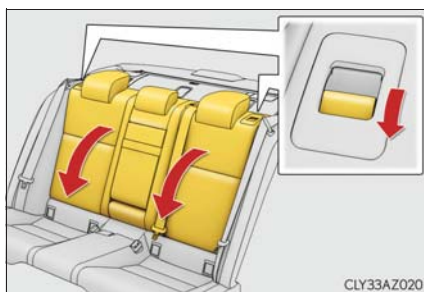
リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを倒す

- 1 ラゲージセキュリティシステムレバーが解除側になっていることを確認する



- 2 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す
もどすときは、背もたれを起こして固定します。



ラゲージセキュリティシステム

→ P. 115

警告

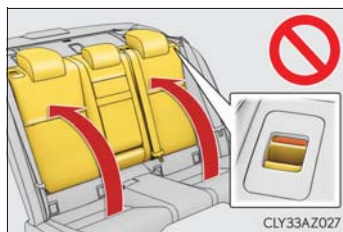
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 背もたれを前倒しするときは

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 倒した背もたれの上やトランクに人を乗せて走行しない
- お子さまがトランクに入らないよう注意する

■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
シートが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトを挟み込まないようにする

運転席ポジションメモリー★

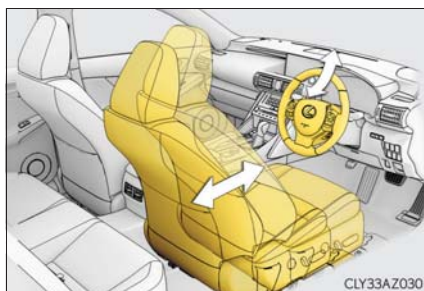
自動でシート・ハンドル・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、好みのドライビングポジションに調整したりします。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- ・ シフトレバーを P に入れる
- ・ エンジンスイッチを OFF にする
- ・ シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- ・ エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにする
- ・ シートベルトを着用する

知識

■ パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■ カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 449)

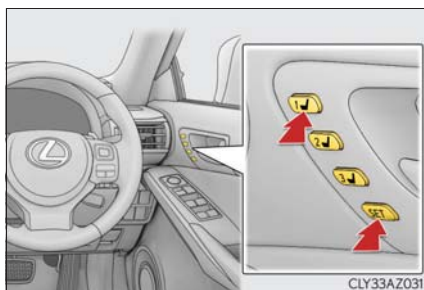
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（運転席の位置・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

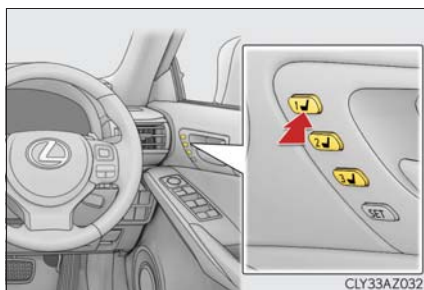
■ 登録方法

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する
- 4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す
すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



■ 呼び出し方法

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す





知識

■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■ 登録できるシート位置（→ P. 125）

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■ エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。ハンドルの位置は、エンジンスイッチを押すと調整されます。

■ ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能

お好みのドライビングポジションに電子キー（カードキーを含む）を登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

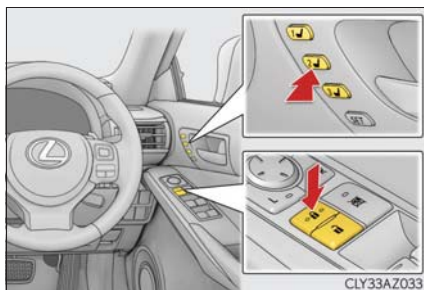
■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを開めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す
- 4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

- 1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

- 2 エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするか、シートベルトを着用する

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが2つ以上あると、正確に解除できません。

- 1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
 - 2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す
- 解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 449)

警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

フロント席

◆ 上下調整

① 上げる

② 下げる

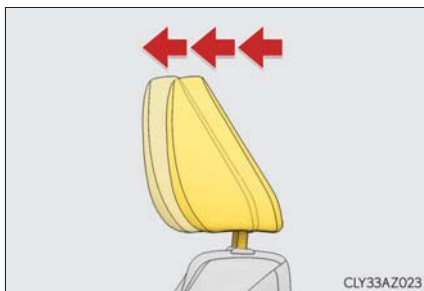
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



◆ 前後調整

ヘッドレストの前後位置を、4段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。

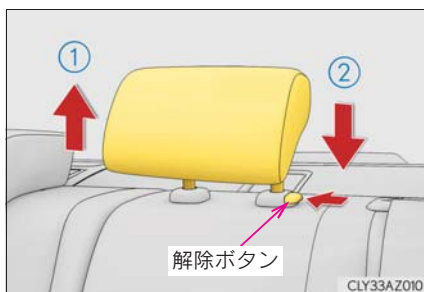


リヤ席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。





知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。(→P. 125)

■ヘッドレストを取り付けるとき

▶フロントシート

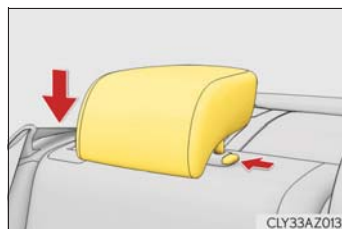
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



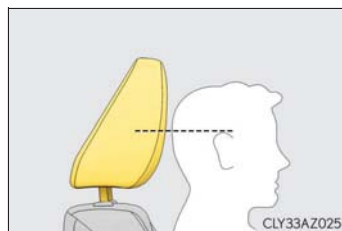
▶リヤシート

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、解除ボタンを押しながら最下部のロック位置まで押し下げてください。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

**警告****■ ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

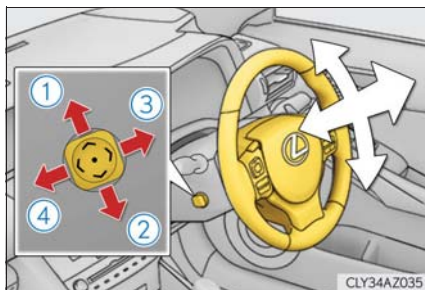
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

- ① 上方へ
- ② 下方へ
- ③ 手前へ
- ④ 前方へ



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すと
ホーンが鳴ります。





知識

■ ハンドル位置調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき ※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ ハンドル位置の自動調整★

好みのハンドル位置を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→ P. 129)

■ パワーイージーアクセスシステム★

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→ P. 129)



警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

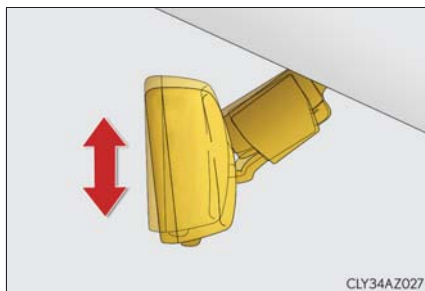
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



自動防眩機能

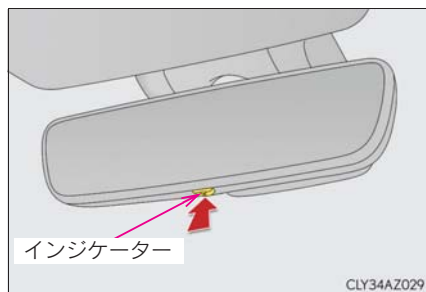
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ

ON / OFF

ON のときはインジケータが点灯します。

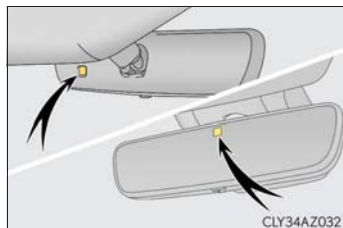
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。ボタンを押すと OFF になりインジケータが消灯します。





■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



⚠ 警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

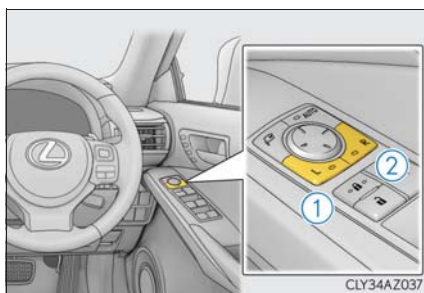
ドアミラー

調整のしかた

- 1** 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

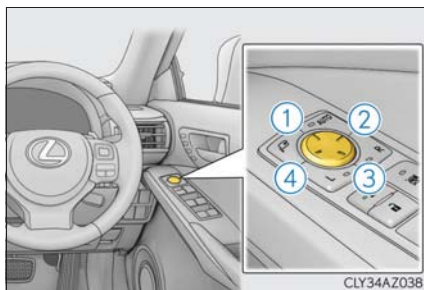
- ① 左
- ② 右

もう一度押すと、選択が解除されます。



- 2** ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左

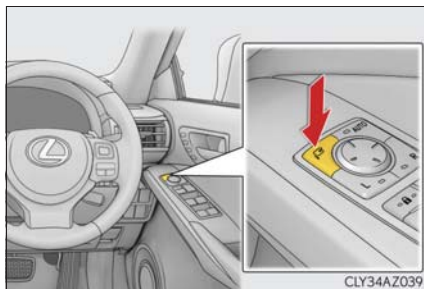


ドアミラーを格納する

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



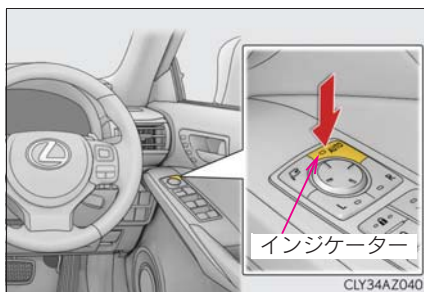
■ オート作動での格納・復帰のしかた

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーターが点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



リバース連動機能について

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーを R に入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。



知識

■ 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFF の状態にもどります。機能を ON にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 293）

■ ミラー角度の自動調整★

お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 129）

■ 自動防眩機能

インナーミラーの自動防眩機能を ON にしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。（→ P. 139）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■ カスタマイズ機能

オート格納の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 449)

警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウィンドウ

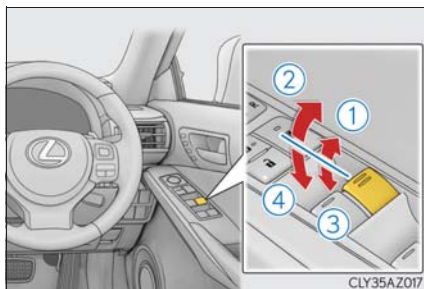
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉 ※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開 ※

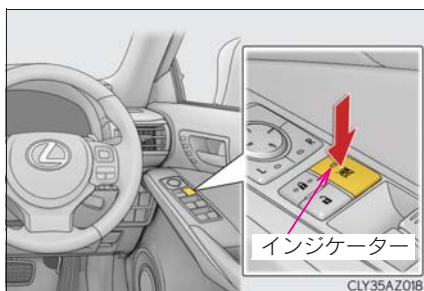
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、インジケーターが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動なくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあとと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※ (→ P. 427)
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※ (→ P. 108)
- ※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。(→ P. 449)

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→ P. 60)

■ バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

■ 窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 449)

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P. 145)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはエンジンスイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 警告**■ 挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

ムーンルーフを開閉する

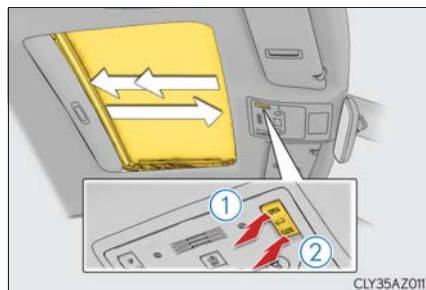
① ムーンルーフを開く ※

全開の手前の位置で止まります。(風切り音の低減機能)

全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② ムーンルーフを閉める ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

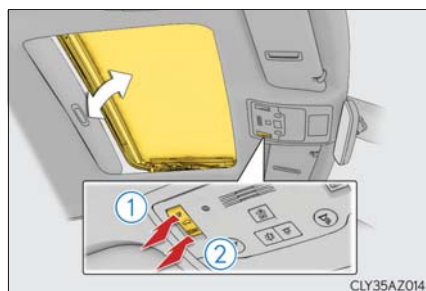


チルトアップ／ダウンする

① チルトアップ ※

② チルトダウン ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しくなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※ (→ P. 427)
 - ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※ (→ P. 108)
- ※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。(→ P. 449)

■ オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→ P. 60)

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

- 1 車を停止する
- 2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける ※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

- 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

- 1 車を停止する
- 2 スイッチの“UP”側を押し続け ※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする
- 3 スイッチから一度手を離し、再度“UP”側を押し続ける ※1

ムーンルーフがチルトアップの状態に 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

- 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“UP”、または、“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 449)

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

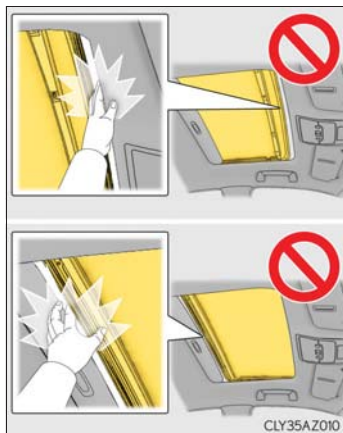
- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。



- 車から離れるときはエンジンスイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	154
荷物を積むときの注意	164

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	166
オートマチック トランスミッション	171
方向指示レバー	178
パーキングブレーキ	179

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	180
オートマチックハイビーム	183
フォグランプスイッチ	187
ワイパー & ウォッシャー	188

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	194
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System+	198
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	204
LDA（レーンディパーチャー アラート [ステアリング 制御機能付き]）	214
レーダークルーズコントロール	223
Stop & Start System	235
BSM（ブラインド スポットモニター）	246
・ BSM 機能	250
・ RCTA 機能	253
クリアランスソナー	258
ドライブモード セレクトスイッチ	267
運転を補助する装置	270

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	278
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 166

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 171)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 179)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→ P. 171)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
Stop & Start システム装着車 : Stop & Start システムが作動可能状態のときは、ブレーキを踏み車両が停止すると、エンジンが自動的に停止します。
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 179)、シフトレバーを P にする (→ P. 171)
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。
※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。
- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する



知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→ P. 270)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき
- スポーツモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき

■ エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）（IS200t）

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。
 - ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は M ポジションを含む）
この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 378）
 - ・ 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。
- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 272）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■Stop&Start システム★作動中のハンドル操作について

→ P. 240

■高摩擦ブレーキパッド装着車について

車速、制動力や車両を取り巻く環境（気温、湿度など）によってはブレーキノイズが発生することがあります。

■エンジン停止前のアイドル運転について (IS200t)

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高負荷走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行（高速道路の法定または制限速度）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびサーキットなどの連続走行	約 1 分

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 360 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能なくなります。(→ P. 172)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意

■ 運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けしないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ターボ装置の故障を防ぐために (IS200t)

- 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。(→ P. 156)
- 排気管・エアクリーナ・スパークプラグなどには純正部品または同等品をお使いください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりとって徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 398, 412, 423 を参照してください。

**注意****■ 冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をささぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- トランクに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ ナビゲーション画面の前
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

**警告****■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがP の位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。

表示されないと、エンジンはかかりません。

- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



エンジンの停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて（→P. 179）、シフトレバーをP の位置にする
- 3 エンジンスイッチを押す
- 4 ブレーキペダルから足を離した状態にしてメーターの表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチ切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

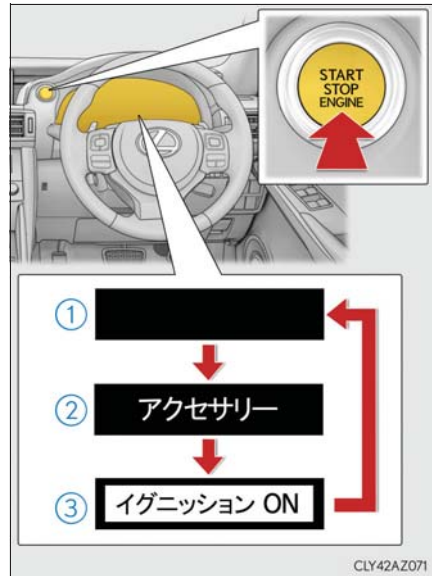
メーターに「アクセサリ」が表示されます。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

メーターに「イグニッション ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外ときはアクセサリモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

- ① パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- ② シフトレバーを P の位置にする
- ③ マルチインフォメーションディスプレイに「電源を Off してください」が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す
- ④ マルチインフォメーションディスプレイの「電源を Off してください」の表示が消灯していることを確認する

 知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリモードか1時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 105

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に動かないおそれのある状況

→ P. 121

■ご留意いただきたいこと

→ P. 122

■エンジンが始動しないとき

●シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとエンジンを始動できないことがあります。マルチインフォメーションディスプレイに「始動時は P レンジに入れてください」が表示されます。

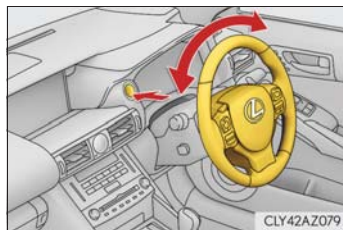
●エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 58)
レクサス販売店へご連絡ください。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 341

■エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 451



警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 360)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

**注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、メーターの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがP 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ エンジンを始動するとき

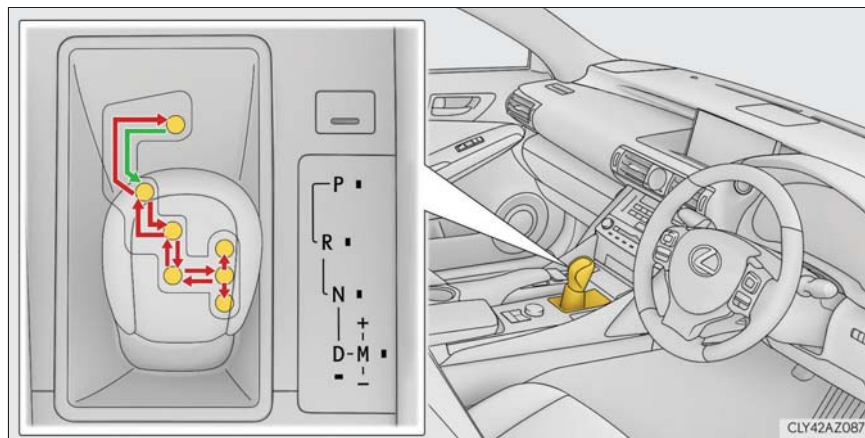
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



← エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	M モード走行 ※2 (→ P. 174)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

走行モードの選択

■ スポーツモード・エコドライブモード

→ P. 267

■ スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに選択してください。

スノーモードスイッチを押す

通常走行モードにもどすときはスイッチをもう一度押します。



D ポジションでのレンジ選択

パドルシフトスイッチの“-”側または“+”側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。

パドルシフトスイッチの“-”側を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンシフトします。パドルシフトスイッチの“+”側を操作したときは、現在のギヤ段より一つ上のレンジにシフトアップします。

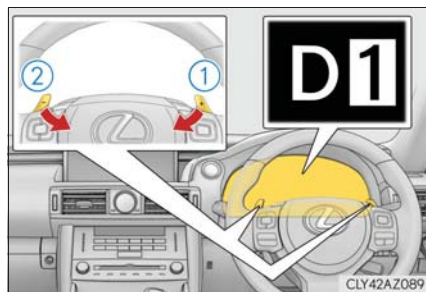
レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえたりすることができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

D1からD8レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上保持します。



■ シフトレンジ機能

メーター表示	機能
D2 ～ D8	スピードや走行条件に応じて、1速から選択したギヤまで自動的にかわります。
D1	ギヤが1速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

M モードでのギヤ段選択

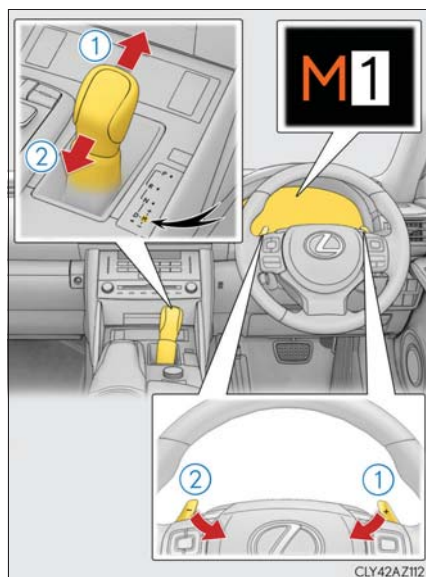
シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

M1 から M8 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。



M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- オートマチックトランスミッションフルードやエンジン冷却水が低温の場合
- オートマチックトランスミッションフルードが高温の場合
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に達した場合

次の場合はシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しても変速しません。

- マルチインフォメーションディスプレイに「滑りやすい路面のためダウンシフトできません」と表示されている場合
- 車速が低い場合（シフトアップのみ）



知識

■ D ポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき

■ オートマチックトランスミッションの保護

トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに「AT オイル高温 取扱書を確認してください」が表示され、自動的にシフトアップします。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

■ スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）(IS200t)

次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

- アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。(D は M ポジションを含む)
この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
(→ P. 378)
- 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

■ Gear Position 表示

マルチインフォメーションディスプレイでドライブインフォメーションの Gear Position を選択していると、シフトレバーが D ポジションまたは M ポジションのときに、現在選択されているギヤ段を表示します。(シフトレバーのポジションや走行状況によって表示が変化します)

■レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- Dポジションでのレンジ選択走行中に7、6、5または4にレンジダウンしたとき（→ P. 223）
- Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→ P. 267）

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチがイグニッションONモードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

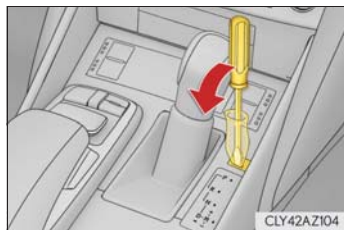
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。ただ一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 エンジンスイッチをOFFにする
- 3 ブレーキペダルを踏む

- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■AI-SHIFT について

- AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションにしているとき自動的に作動します（シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

- G AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的にスポーツ走行に適切なギヤ段に切りかえます。

G AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションでドライブモードセレクトスイッチをスポーツモードにしているとき自動的に作動します（ドライブモードセレクトスイッチをノーマルモードにするか、シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

- NAVI・AI-SHIFT：

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

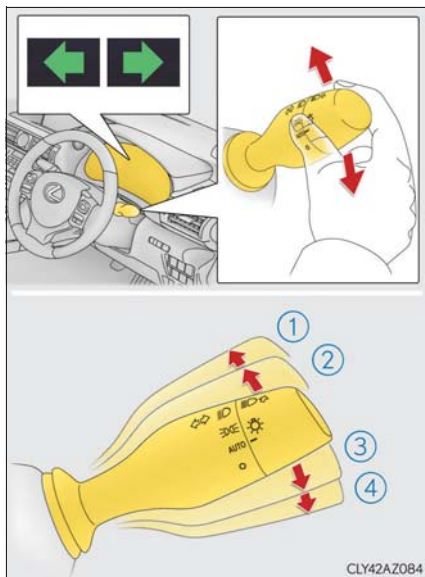
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



- 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の②または③の位置に操作してください。レバーを①または④の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

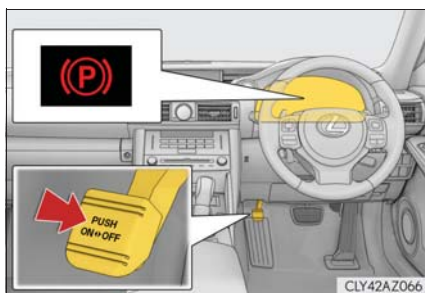
■ カスタマイズ機能

方向指示灯の停止方法の設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 453)

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

- 駐車するとき
→ P. 154
- パーキングブレーキ未解除警告ブザー
→ P. 368, 378
- 冬季のパーキングブレーキの使用について
→ P. 279

注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

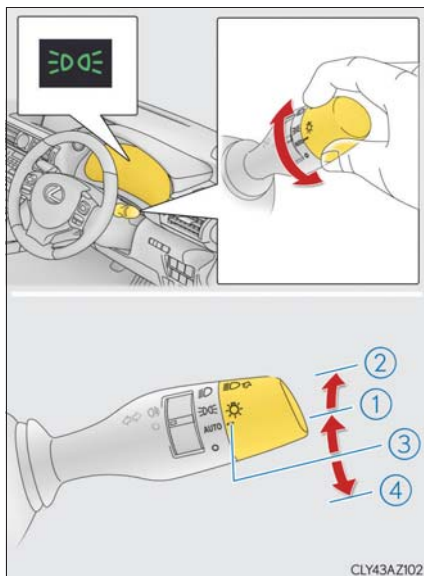
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

- ①  車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- ②  上記ランプとヘッドランプを点灯
- ③ **AUTO** ヘッドランプ・LED デイライト (→P. 181)・車幅灯などを自動点灯・消灯
(エンジンスイッチがイグニッションONモードのとき)
- ④  消灯



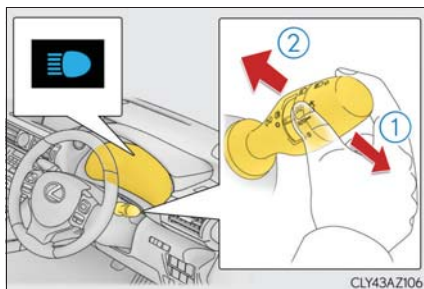
ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



知識

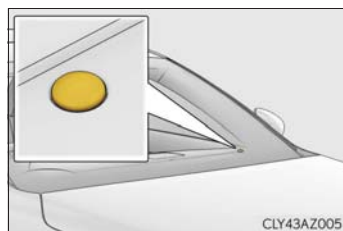
■ LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見えやすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します。)

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリモードまたはOFFにして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度  または  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 453)



注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■ 安全にお使いいただくために

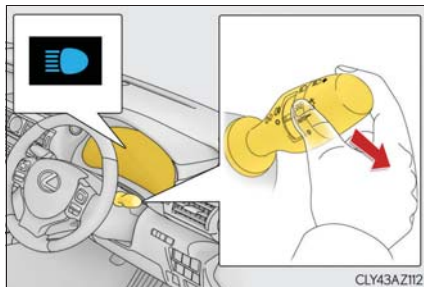
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

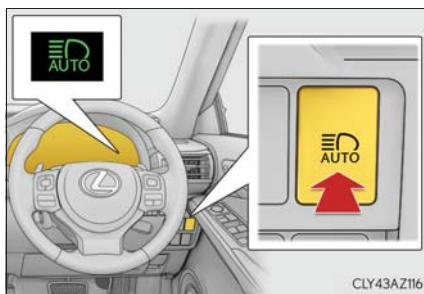
荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームの使い方

- 1 ランプスイッチを $\equiv$ または
AUTOにし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す
オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



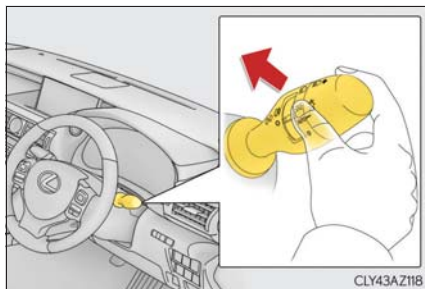
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押します。

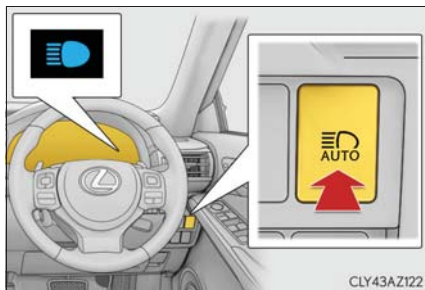


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッ
チを押す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度スイッチを押します。





知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■カメラセンサーの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ カメラセンサーが極端に高温になっているとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ 先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・ カーブが多い道路を走行しているとき
 - ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - ・ コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
 - ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
 - ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
 - ・ ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
 - ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

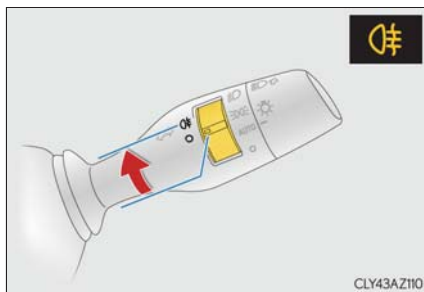
フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

リヤフォグランプを点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。



知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。

視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。

必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。

- ①

○

レバーを2段階上げる
- ②

△

レバーを1段階上げる
- ③

▽

レバーを1段階下げる
- ④

≡

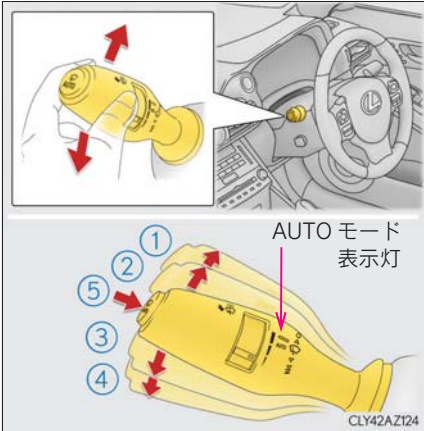
レバーを2段階下げる
- ⑤

AUTO

AUTOモードON/OFFスイッチ

雨滴量や車速に応じてワイパーが作動するAUTOモードのON/OFFを切りかえます。

AUTOモードのときは、AUTOモード表示灯が点灯します。



操作 操作前 の状態		○	△	▽	≡
停止		一時作動	一時作動	低速作動	高速作動
低速作動		停止	停止	高速作動	高速作動
高速作動		停止	低速作動	変化なし	変化なし
AUTO モード	間欠 作動	停止	一時作動 ※1	低速作動 ※2	高速作動 ※2
	連続 作動		変化なし		

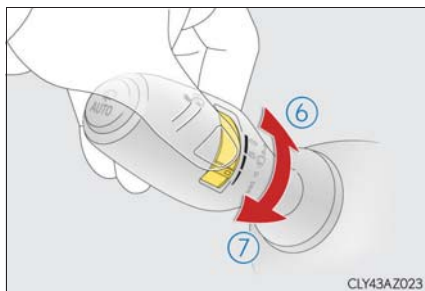
※1：一時作動後、AUTOモードにもどります。

※2：AUTOモードは解除されます。

AUTO モードのときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：
エンジンスイッチが ON モードの状態
でヘッドランプが点灯しているとき、
5回連続で手前に引くごとにヘッドラ
ンプクリーナーが作動します。

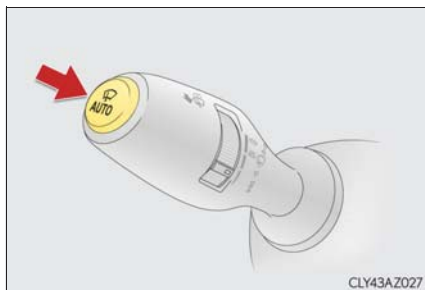


間欠時間調整式ワイパーへの切りかえ

雨滴量や車速に関係なく間欠作動する、間欠時間調整式ワイパーとして使用することができます。停車中で、ワイパーが停止状態のときに切りかえることができます。AUTO モードのとき、または間欠作動中は切りかえることができません。

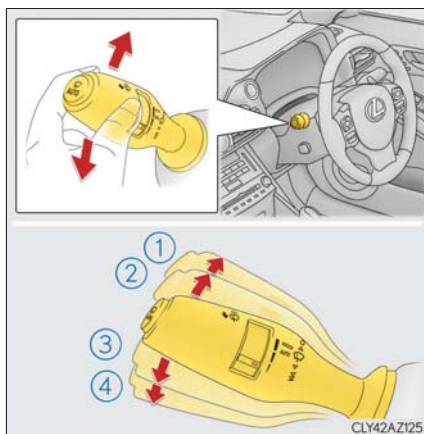
 ボタンを AUTO モード表示灯の
点滅が終わるまで押し続ける

もう一度 AUTO モード表示灯の点滅が
終わるまで押し続けるともとにもど
ります。



■ 間欠時間調整式ワイパーの作動

- ① ○ レバーを 2 段階上げる
- ② △ レバーを 1 段階上げる
- ③ ▽ レバーを 1 段階下げる
- ④ ≡ レバーを 2 段階下げる



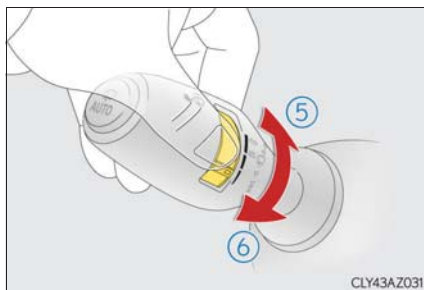
操作 操作前 の状態	○	△	▽	≡
停止	一時作動	一時作動	間欠作動	高速作動
間欠作動	停止	停止	低速作動	高速作動
低速作動	停止	間欠作動	高速作動	高速作動
高速作動	停止	低速作動	変化なし	変化なし

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。

⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（減）

車速が高くなると、作動頻度が増えます。



⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：
エンジンスイッチが ON モードの状態
でヘッドランプが点灯しているとき、
5回連続で手前に引くごとにヘッドラ
ンプクリーナーが作動します。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。

ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■ 車速による作動への影響

- 停車中は間欠時間調整式ワイパーの間欠時間がかわります。
- 低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
(雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます)

■ 雨滴感知センサー

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- エンジンスイッチがイグニッションONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが1回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が85℃以上または-30℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTOモード以外でワイパーを使用してください。

■ ワイパーが一時作動しているとき

 を押しても AUTO モードに切りかわりません。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告**■ AUTO モード時のワイパー作動について**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。



知識

■ 燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）



警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

**注意****■ 給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

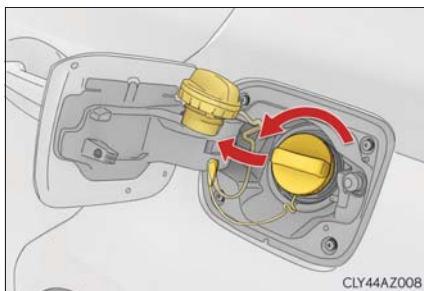
給油口の開け方

- 1** ドアが解錠された状態で、給油扉の車両後端の中央部分を押す

“カチッ”と音がするまで押し、手を離すと給油扉が少し開きます。その後、手で全開にします。



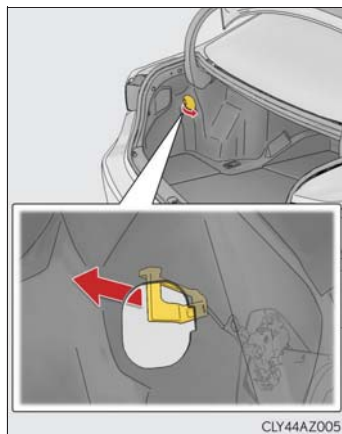
- 2** キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



知識

給油扉が開かないとき

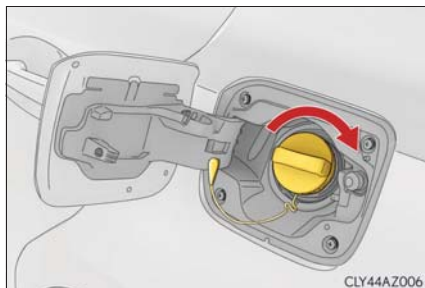
ドアが解錠されている状態で給油扉の車両後端の中央部分を押しても給油扉が開かないときは、トランク内のカバーを取りはずし、レバーを引くことで、給油扉を開けることができます。



給油口の閉め方

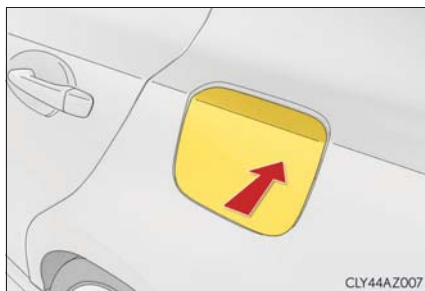
- 1** キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



- 2** 給油扉を閉め、給油扉の車両後端の中央部分を“カチッ”と音がするまで押す

ドアを施錠すると給油扉も施錠されます。



知識

■ 給油扉の施錠について

次の場合、ドアが施錠されても給油扉は施錠されません。

- 室内のドアロックスイッチで施錠したとき
- シフト操作連動ドアロックまたは車速感应オートドアロックで施錠されたとき (→ P. 111)
- ドアを施錠したあとに給油扉を閉めたとき

警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Lexus Safety System+

Lexus Safety System+ は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 204

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）

→ P. 214

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 183

◆ レーダークルーズコントロール

→ P. 223



警告

■ Lexus Safety System+ について

Lexus Safety System+ は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
- ・ 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ・ カメラセンサーの画像情報（プリクラッシュブレーキまたはプリクラッシュブレーキアシスト作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

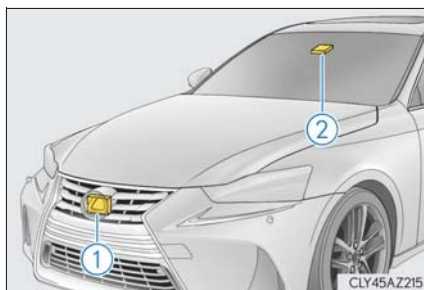
● 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

- ① レーダーセンサー
- ② カメラセンサー



警告

■ レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

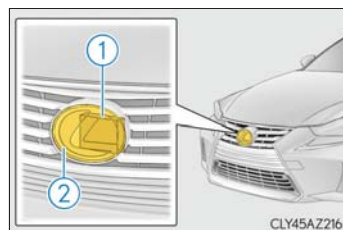
お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダーセンサーとフロントグリルエンブレムは常にきれいにしておく

- ① レーダーセンサー
- ② フロントグリルエンブレム

レーダーセンサー前面やフロントグリルエンブレム前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



- レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- レーダーセンサーを分解しない
- レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを改造したり、塗装したりしない
- レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告**■ カメラセンサーの故障や誤作動を防ぐために**

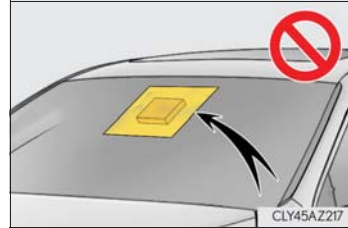
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、カメラセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用している場合、カメラセンサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウインドウガラス内側のカメラセンサー取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

● カメラセンサー前部のフロントウインドウガラス（図に示す範囲）にアンテナを取り付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない



- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く（→ P. 293）
- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

 警告

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーに強い光を照射しない
- カメラセンサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに強い衝撃を加えない
- カメラセンサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラセンサーを分解しない
- カメラセンサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- インナーミラーなどのカメラセンサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、カメラセンサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、カメラセンサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない



知識

■ レーダーセンサーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 207）

◆ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

◆ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→ P. 271）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティシステムは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→ P. 209
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 211
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

 警告**■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

■ プリクラッシュセーフティシステムの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→ P. 86) から、プリクラッシュセーフティシステムの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたびシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

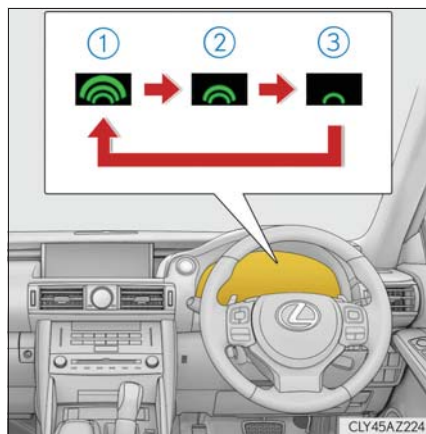


■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→ P. 86) から、プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更することができます。

エンジンスイッチを OFF にしても選択した警報タイミングは継続します。

- ① 遠い
「中間」より警報タイミングが早くなる
- ② 中間
初期設定
- ③ 近い
「中間」より警報タイミングが遅くなる





知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性がある高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

- ・ 自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

- ・ 自車速度約 30 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 30 ～ 80km/h）
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

- ・ 自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

● バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

● シフトレバーが R のとき

● VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

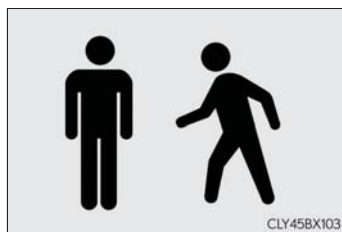
● PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

■ 歩行者検出について

対象となる歩行者の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き・姿勢・角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

（→ P. 212）



■ プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

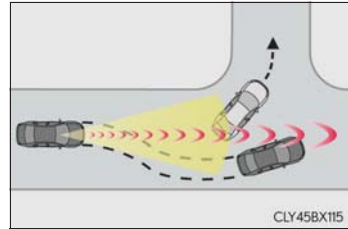
● アクセルペダルを強く踏み込む

● ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

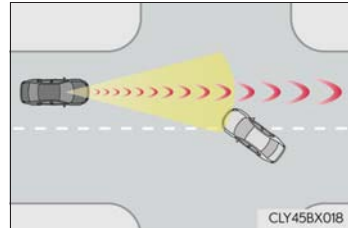
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

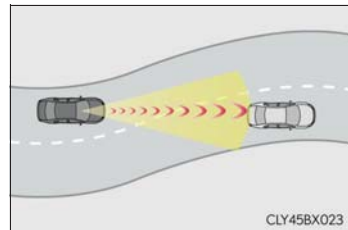
- ・車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
- ・車線を変更して先行車を追いこすとき
- ・車線変更している先行車を追い抜くとき
- ・右左折する先行車を追いこすとき



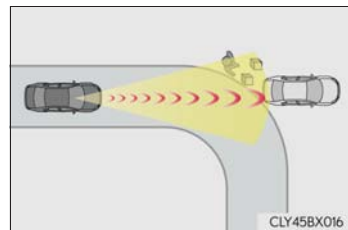
- ・右左折待ちの対向車とすれ違うとき



- ・隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

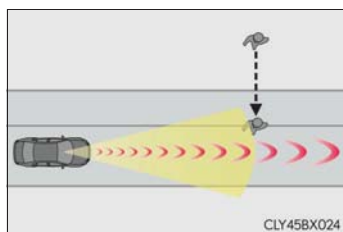


- ・前方車両に急接近したとき
- ・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき

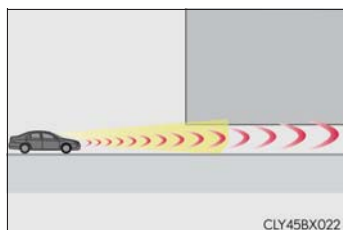


- ・道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
- ・路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき

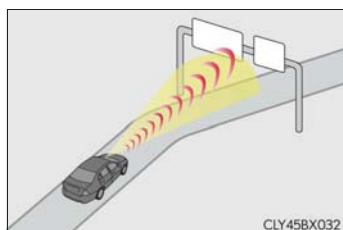
- ・ 横断する歩行者が車両のすぐそばに近付いたとき



- ・ 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき

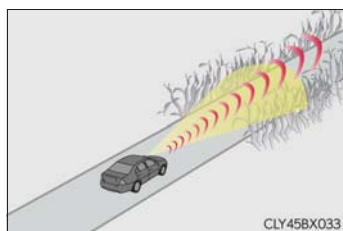


- ・ 上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき

- ・ 車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

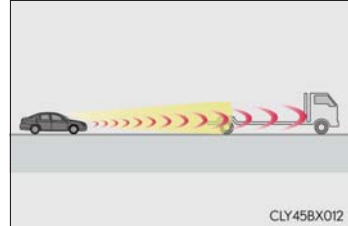


- ・ 前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・ 車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 路面または壁面に車両や歩行者との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

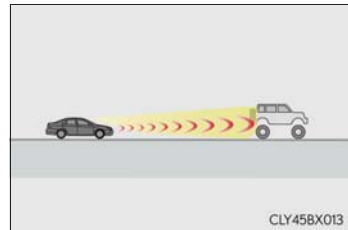
■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

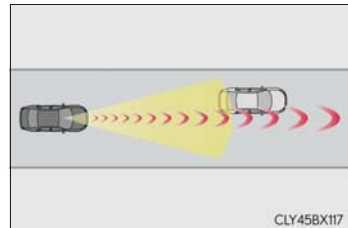
- ・ 前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
- ・ 前方車両がオートバイ・自転車のとき
- ・ 車両の側面または前面に近付いたとき
- ・ 先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき

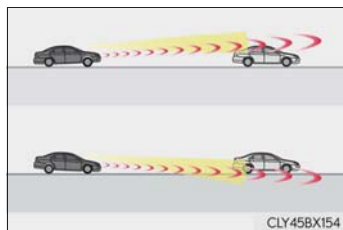


- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- ・ 車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
- ・ 前方車両と自車の中心がずれているとき



- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・ 車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）がカメラセンサーに直接あたっているとき

- ・ 薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
- ・ エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
 - ・ ワイパーブレードがカメラセンサーの視界をさえぎっているとき
 - ・ ふらつき運転をしているとき
 - ・ 過度な高速走行をしているとき
 - ・ 坂道を走行しているとき
 - ・ 前方センサーの向きがずれているとき
- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
- ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
 - ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
 - ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
- 例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 身長が約 1m 以下、または約 2m 以上の歩行者
 - ・ 合羽・ロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
 - ・ 大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
 - ・ 前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
 - ・ ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
 - ・ 集団でいる歩行者
 - ・ 白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
 - ・ 夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
 - ・ 服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
 - ・ 壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
 - ・ 路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者
 - ・ 歩く速度が速い歩行者
 - ・ 歩く速度を急激に変化させている歩行者
 - ・ 物陰から飛び出してきた歩行者
 - ・ 車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者

■ PCS 警告灯が点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

- 次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
 - ・ 炎天下などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が高いとき
 - ・ 極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
 - ・ レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺に雪や汚れなどが付着しているとき
 - ・ カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 293）
 - ・ ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスのカメラセンサー付近にシールが貼り付けられているときなど、カメラセンサーの前方がさえぎられているとき
- PCS 警告灯が点滅したままのとき、および警告メッセージが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ VSC を停止したとき

- VSC の作動を停止（→ P. 273）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA（レーンディパーチャーアラート※[ステアリング制御機能付き]）

機能概要

白（黄）線が整備された、高速道路または自動車専用道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告するとともに、逸脱を回避するためのハンドル操作の一部を支援します。

LDA は、フロントウインドウガラス上部のカメラセンサーで、白（黄）線を認識します。

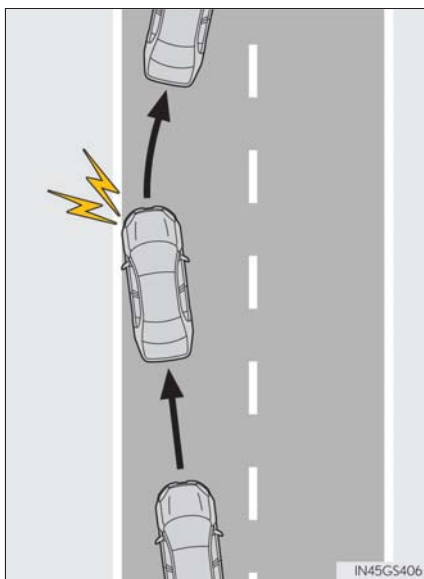


LDA に含まれる機能

◆ 車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴った、またはハンドルに振動があったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。

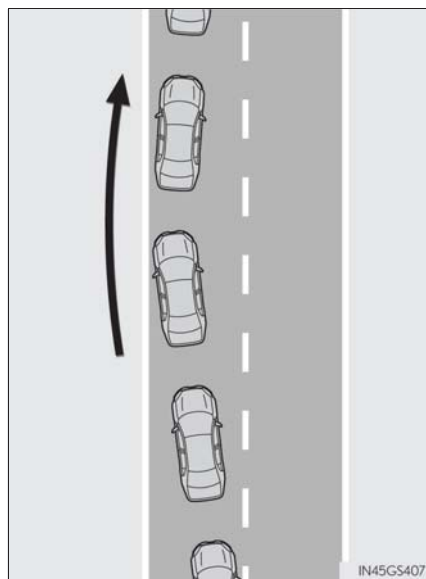


※：車線逸脱警報

◆ ステアリング制御機能

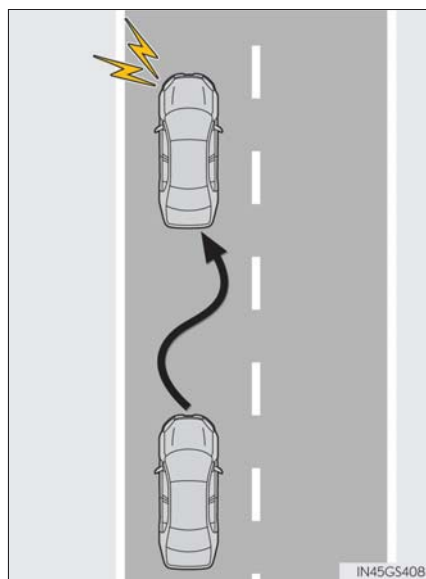
車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるのに必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定のあいだハンドルを操作しなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。



◆ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度かはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



 警告**■ LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。

システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行しているとき
- 雨・雪・霧・砂ほこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 車両けん引時

警告**■ LDA の故障、または誤作動を防ぐために**

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

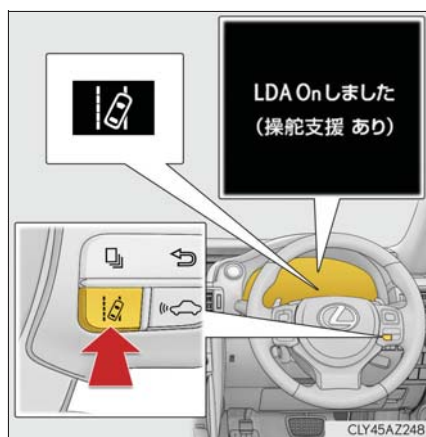
設定のしかた

LDA を ON にするには LDA スイッチを押す

LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON / OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示

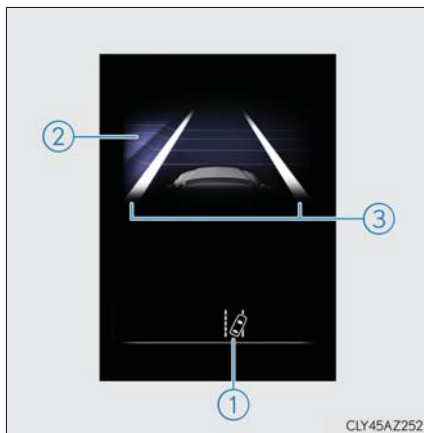
① LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：ステアリング制御機能の
ハンドル操舵支援が作動
中

橙色に点滅：車線逸脱警報中



② ハンドル操舵支援の作動表示

ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。



知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LDA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ システムが白（黄）線を認識しているとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 368）

● ステアリング制御機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイので「操舵支援」を「有」に設定しているとき（→ P. 86）
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を停止していないとき
- ・ 手放し運転警告（→ P. 220）が表示されていないとき

● ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイので「ふらつき検知」を「有」に設定しているとき（→ P. 86）
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 368）

■機能の一時解除

- 作動条件（→ P. 219）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- ステアリング制御機能作動中に、作動条件（→ P. 219）が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音が鳴り、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■ステアリング制御機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、ステアリング制御機能の作動を感じなかったり、ステアリング制御機能が作動しなかったりすることがあります。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。

■手放し運転警告について

ステアリング制御機能の作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたときも同様です。ただし路面状況などにより、作動が中断しない場合があります。

■白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カメラセンサーが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鉄）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ほこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 冬用タイヤなどを装着しているとき

■ 警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。(→ P. 374)

■ カスタマイズ機能

→ P. 86

レーダークルーズコントロール

機能概要

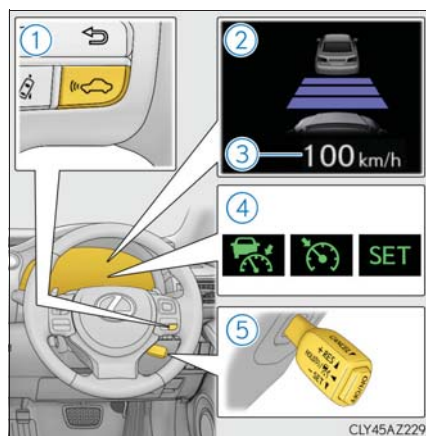
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行い、自動的に加速・減速をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

● 車間制御モード (→ P. 226)

● 定速制御モード (→ P. 231)

- ① 車間距離切りかえスイッチ
- ② マルチインフォメーションディスプレイ
- ③ 設定速度
- ④ 表示灯
- ⑤ レーダークルーズコントロールスイッチ



 警告**■ 安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

 警告**■ 誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

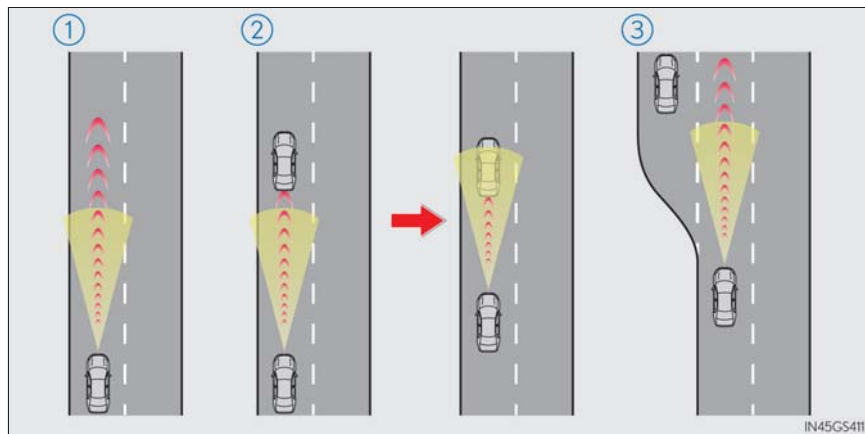
次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダーセンサー前面または、カメラセンサー前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- 頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーセンサーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



- ① 定速走行：
先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

- ② 減速走行－追従走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化にあわせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

- ③ 加速走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

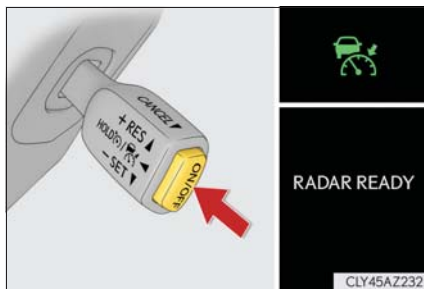
速度を設定する（車間制御モード）

- 1 ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには再度スイッチを押します。

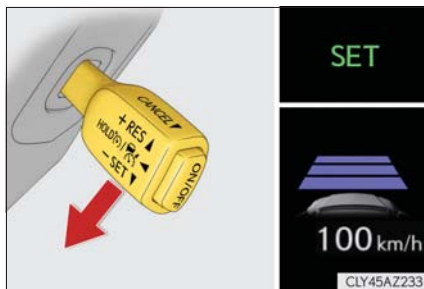
ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→ P. 231）



- 2 希望の车速（約 50 ～ 約 100km/h）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの车速で定速走行できます。



設定速度をかえる

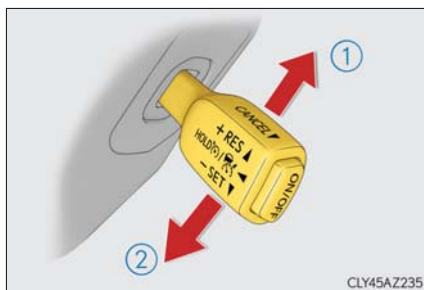
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 231）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

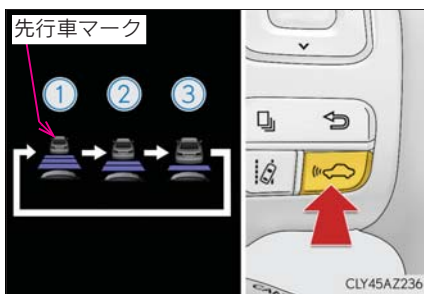
スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

① 長い

② 中間

③ 短い

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするたびに車間距離は ① にもどります。



先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

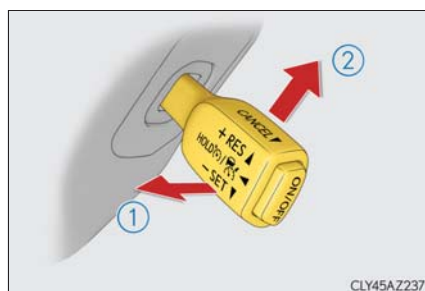
制御を解除する・復帰させる

- ① 制御を解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

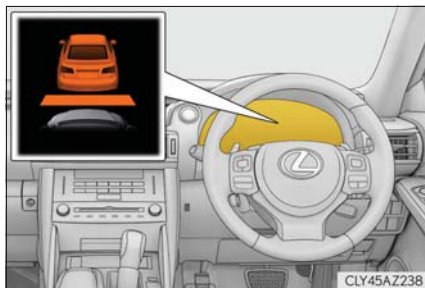
- ② 制御を復帰させるには、レバーを上げる

ただし、車速が約 40km/h 以下のときは復帰しません。



接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

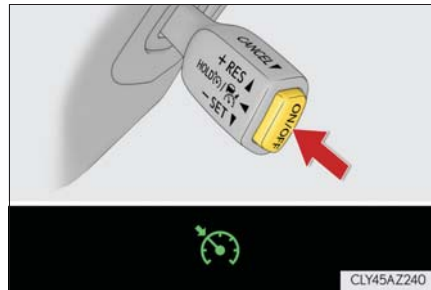
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON/OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

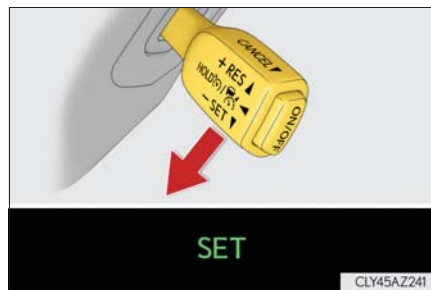
システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切り替えが可能です。



- 2 希望の車速(約 50 ～約 100km/h)までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

→ P. 228

制御を解除する・復帰させる

→ P. 229



知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。
- パドルシフトスイッチで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
- 車速は約 50 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■ 速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 車速が約 40km/h 以下になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- 走行モードをスノーモードにセットしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- ブリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 40km/h 以下になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- プリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

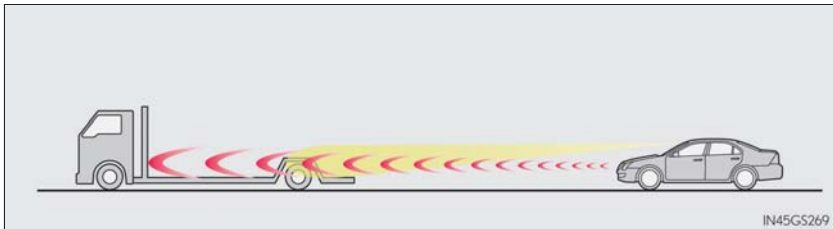
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

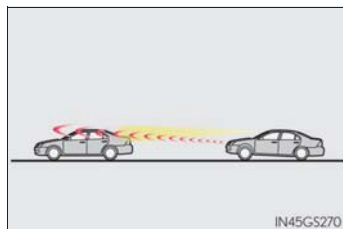
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 230）も作動しないおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

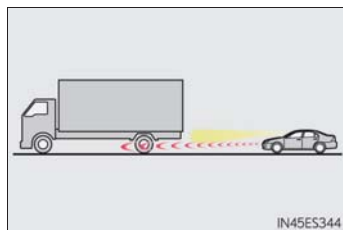


- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合

- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

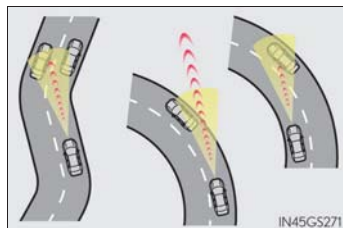


■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

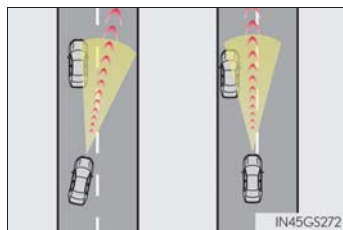
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



- 先行車が急ブレーキをかけた場合

Stop & Start System ★

赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルまたはシフトレバーの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

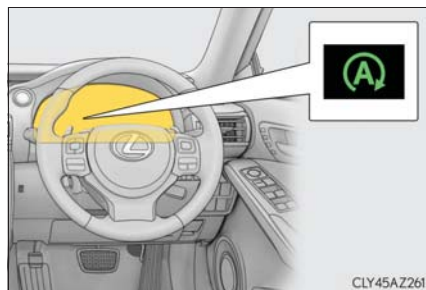
Stop & Start システムの操作

◆ Dレンジアイドリングストップ

■ エンジンが停止する

シフトレバーをDで走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させる

Stop & Start 表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離す

Stop & Start 表示灯が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ Pレンジアイドリングストップ

■ エンジンが停止する

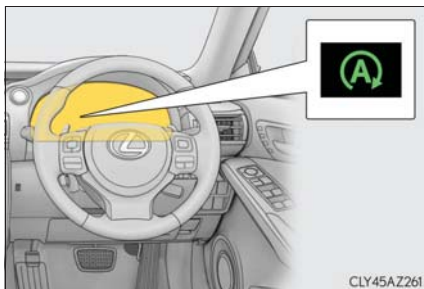
- 1 シフトレバーを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させる

Dレンジアイドリングストップによりエンジンが停止し、Stop & Start 表示灯が点灯します。

- 2 シフトレバーを P にする
(→ P. 171)

エンジンの停止状態が継続します。

Dレンジでアイドリングストップした直後にシフトレバーを P にすると、エンジンが再始動することがあります。また、Dレンジアイドリングストップしていても、シフトレバーを P にするとアイドリングストップすることがあります。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトレバーを P 以外にする
(→ P. 171)

Pレンジアイドリングストップ後、ブレーキペダルから足を離していたときは、再びブレーキペダルを踏んだときにエンジンが再始動します。Pレンジアイドリングストップ後、ブレーキペダルを踏んだままのときは、シフトレバーを P 以外にしたときにエンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからイグニッション ON モードにすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますがエンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに、Stop & Start システムによってエンジンが停止します。

坂道発進補助機能（Dレンジアイドリングストップ）

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。



知識

■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
 - ・ ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき
 - ・ シフトレバーが D または P のとき
 - ・ ドライブモードをノーマルモードまたはエコドライブモードにセットしているとき
 - ・  が OFF のとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ エンジンが十分暖まっているとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・ 外気温が -5°C 以上のとき
 - ・ ボンネットが閉まっているとき
- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用しているとき
 - ・ バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー温度が低い、バッテリーが劣化）、および定期的な充電中のとき
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
 - ・ ハンドル操作をしているとき
 - ・ 渋滞などで、断続的に停車するとき
 - ・ 標高が高いとき
 - ・ エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎる時
 - ・ バッテリー温度が低いとき、または高すぎる時
 - ・ バッテリーを交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくの期間

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ エアコンを ON にしたとき
 - ・ 花粉除去モードを ON にしたとき
 - ・  を ON にしたとき
 - ・ ハンドルを操作したとき
 - ・ D レンジアイドリングストップ中に、シフトレバーを M・N・R のいずれかにしたとき
 - ・ P レンジアイドリングストップ中に、シフトレバーを P 以外にしたとき
 - ・ ドライブモードをスポーツモードまたはスノーモードにセットしたとき
 - ・ 運転席シートベルトをはずしたとき
 - ・ 運転席ドアを開けたとき
 - ・ アクセルペダルを踏んだとき
 - ・ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
 - ・ 坂道などで車両が動き出したとき
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
 - ・ エアコンを使用しているとき
 - ・ バッテリーの充電量が低下しているとき

■ ボンネットを開けたとき

- D レンジアイドリングストップ中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作 (→ P. 166) でエンジンを始動してください。
- P レンジアイドリングストップ中にボンネットを開けたときは、エンジンが自動的に再始動します。
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ Stop & Start システムについて

- Stop & Start システムが作動しないときやキャンセルされたとき、または Stop & Start システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意を促します。(→ P. 385)
- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押すと、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作 (→ P. 166) でエンジンを始動してください。
- Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリソケットやアクセサリコンセントなどが使用できないことがあります但し異常ではありません。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ 発進時のハンドル操作について

Stop&Start システムによりエンジンが停止した状態からエンジンが再始動するときハンドル操作を行うと、一時的にハンドルが重く感じる場合があります。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき



を ON にしてください。(エンジンが自動的に再始動します) : → P. 293

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコンについて

- オート設定で空調システムを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。
- 空調の効きをより良くしたいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ Stop&Start システムによるエンジン停止中に、エアコン吹き出し口から臭いが発生したときは

Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を停止してください。

■ エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間の長さの切りかえについて

次の操作により、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることができます。(エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません)

- Stop & Start キャンセルスイッチの長押し操作
Stop & Start キャンセルスイッチを 3 秒以上押し続けるごとに、「Normal」(通常)・「Long」(長め) が切りかわります。(マルチインフォメーションディスプレイの「Stop & Start システム情報」画面で確認できます) (→ P. 85)
- マルチインフォメーションディスプレイの  (→ P. 85)、または  (→ P. 86) からのメーター操作

■ Stop & Start システム保護機能

- バッテリーの急な消費を抑えるために、オーディオを大音量で使用していると、突然音が停止することがあります。オーディオ停止を防ぐには、音量を下げて使用してください。
止まってしまったオーディオを再開するには、いったんエンジンスイッチを OFF にし、3 秒以上たってから、再度アクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしてください。
- バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオ（メーカーオプションのナビゲーションシステムを除く）が作動しないことがあります。この場合、いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。
 - ・ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチを OFF にする

■ ターボ装置の損傷を防ぐために

高速走行・登坂走行の直後に長時間エンジンを停止するときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押してシステムを非動作にし、アイドル運転を行ってください。
(→ P. 156)

■ バッテリーを交換するとき

→ P. 432

■ アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→ P. 85

■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

次のとき、マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されることがあります。

● Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

メッセージ	状況
 ブレーキをもう少し踏み込んでください	ブレーキペダルを踏む力が足りない ブレーキペダルを踏み足すと作動します。
 エアコン優先	・ 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している ・ エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。 ・  を ON にしている

メッセージ	状況
 バッテリー充電	・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある バッテリーの充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 ・ リフレッシュ充電中の可能性がある（参考シーン：定期的な充電中、バッテリー交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくの期間など） 5分～60分間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。 ・ ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある ボンネットを閉め一度エンジンスイッチをOFFにして、30秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。 ・ バッテリーが冷えている可能性がある エンジンをはしばらく作動させることでエンジンルーム内の温度が上昇すると作動可能状態になります。 ・ バッテリーが非常に熱くなっている可能性がある エンジンルーム内の温度が十分に下がると作動可能状態になります。 長期間（60分以上）にわたって継続的に表示される場合バッテリー劣化の可能性がありますので販売店に相談してください。
 ブレーキシステム	・ 標高が高い ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下した ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
 シートベルト非装着	運転席のシートベルトをはずしている
 専用バッテリー非装着	Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある Stop & Start システムが作動しません。 レクサス販売店で点検を受けてください。

● Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

メッセージ		状況
 エアコン優先	・ エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している ・  を ON にした	
 ブレーキシステム	ブレーキペダルをさらに踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。	
 バッテリー充電	バッテリーの充電量が低下している可能性がある バッテリーの充電を優先させるため、エンジンが再始動しました。エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。	
 ハンドル操作	ハンドルを操作した	
 シートベルト非装着	運転席のシートベルトをはずした	

■ Stop & Start システムの警告メッセージ

システムに異常が発生したときは、警告メッセージで注意をうながします。
(→P. 242)

■ Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ Stop & Start システムが作動しているとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。
エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはインテリアランプスイッチがドアポジションのときにインテリアランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはインテリアランプスイッチがドアポジションのときにインテリアランプが点灯しないとき

BSM（ブラインドスポットモニター）★

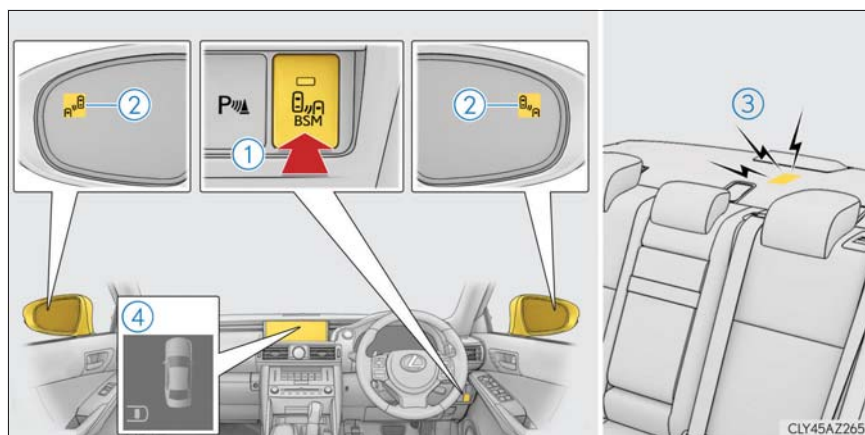
ブラインドスポットモニターの概要

ブラインドスポットモニターには 2 つの機能があります。

- BSM（ブラインドスポットモニター）機能
運転者による車線変更時の判断を支援します。
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能
後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① BSM メインスイッチ

押すごとに ON / OFF が切りかわり、ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

RCTA 機能は、BSM 機能と同時に ON/OFF が切り替わります。

② ドアミラーインジケーター

BSM 機能：

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能：

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

③ RCTA ブザー（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

BSM 機能を ON にした直後の約 1 秒間はブザーが鳴ります。

④ モニター画面の表示（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、モニター画面に検知した側の RCTA アイコン（→ P. 254）が点灯します。

イラストは左後方から車両が接近している例です。



■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がある場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ システムに異常があるときは

次のような原因で異常が検知されたときは、警告表示でお知らせします。
(→ P. 374)

- センサーが故障しているとき
- センサーが汚れているとき（着雪、ステッカー貼り付けなどを含む）
- 極めて高温または低温の環境での使用
- センサーの電圧異常
- センサーの位置や向きがずれているとき

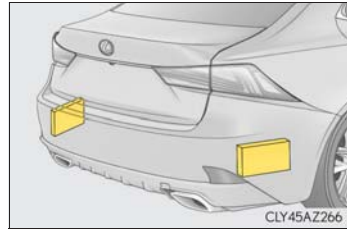
警告

■ レーダーセンサーの取り扱い

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→ P. 374）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、BSM機能の作動条件（→ P. 251）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。

次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

- ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

- センサーを分解しない

- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼らない

- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

- リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください。

- 本製品は各国の電波法に適合しています。製品に貼られているシールはその証明ですので、剥がさないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



202-LSC077

BSM 機能

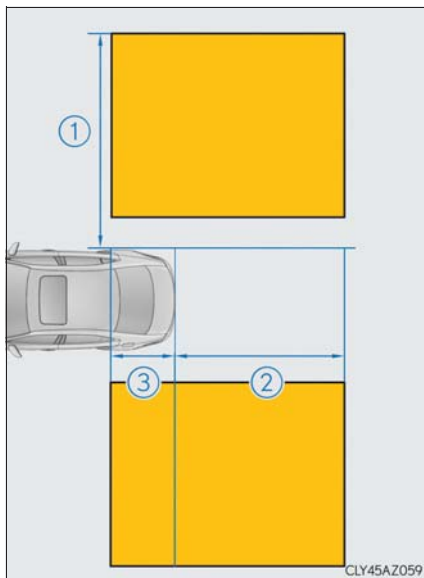
BSM 機能はレーダーセンサーにより、隣の車線のドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによって車両の存在を運転者に知らせます。

BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

検知できる範囲：

- ① 車両の両側面について、側面から約 0.5 m 離れた面から約 3.5 m の領域 ※
- ※ 車両側面から外側に約 0.5 m は検知しません。
- ② リヤバンパーから約 3 m 後方の領域
- ③ リヤバンパーから約 1 m 前方の領域



警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると考えぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。



■ BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- BSM メインスイッチが ON のとき
- シフトレバーが R 以外の位置のとき
- 車速が約 16 km/h 以上のとき

■ BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ BSM 機能が車両を検知しない状況

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型の二輪車、自転車、歩行者など ※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 同じ車線を走行する後続車 ※
- 2 つ隣の車線を走行する他車 ※

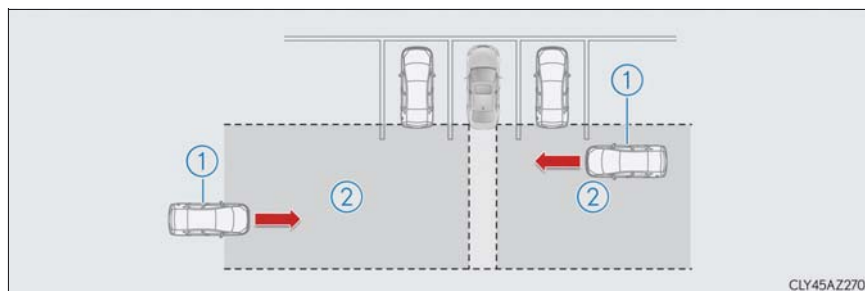
※ 状況によっては検知をすることがあります。

■BSM 機能が有効に作動しないおそれがある状況

- BSM 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
 - ・ BSM メインスイッチを ON にした直後
- BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき

RCTA 機能

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- ① 接近車両
- ② 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、モニター画面上に次の表示をします。

画面表示	表示内容
	左後方から車両が接近しているとき
	右後方から車両が接近しているとき
	両方向から車両が接近しているとき
	RCTA 機能に異常があるとき (→P. 248)

 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

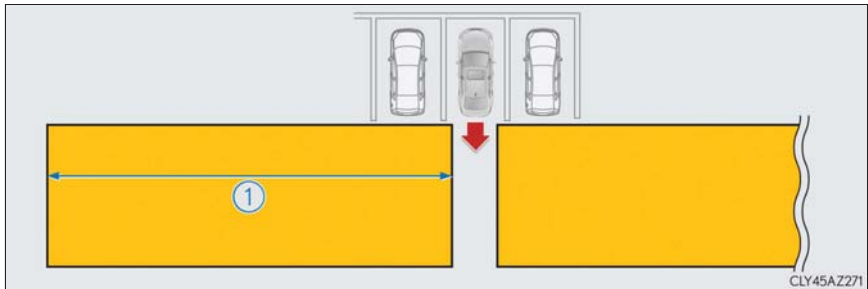
RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	① 警報距離（概算）
速い	28 km/h	20 m
遅い	8 km/h	5.5 m



知識

■ RCTA 機能の作動条件

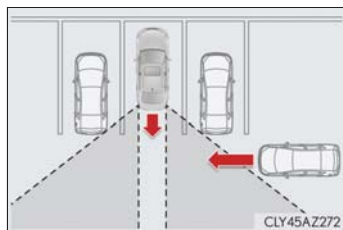
RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- BSM メインスイッチが ON のとき
- シフトレバーが R のとき
- 自車の車速が約 8 km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8 km/h ～ 28 km/h の間のとき

■ RCTA 機能が車両を検知しない状況

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



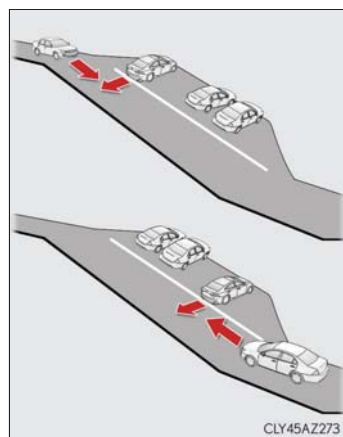
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 小型の二輪車、自転車、歩行者など ※
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

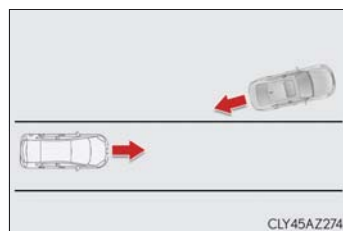
■ RCTA 機能が有効に作動しないおそれがある状況

- RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 高速で接近する車両

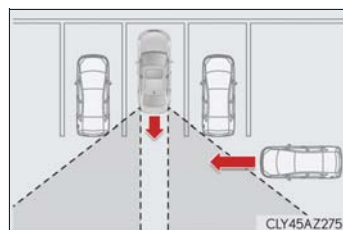
- ・ 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



- ・ 浅い角度での駐車

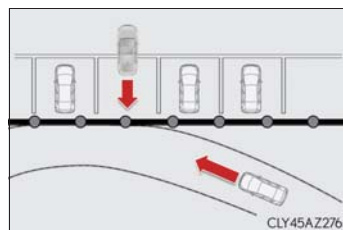


- ・ 障害物のためにセンサーが検知できない車両



● RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- ・ 自車の横を通過する車両
- ・ 駐車場に面した道を走行する車両



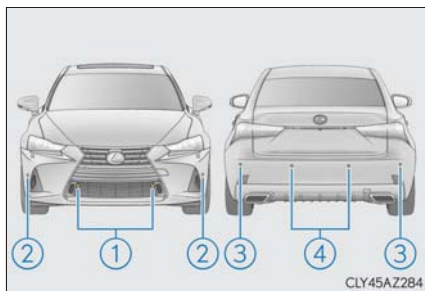
- ・ 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面の距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

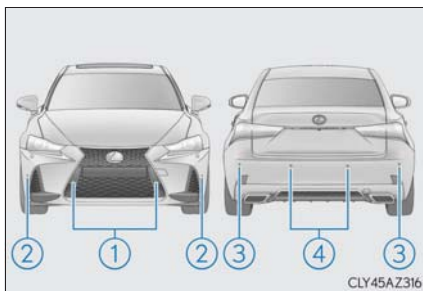
センサーの位置・種類

▶ F SPORT 以外



- ① フロントセンターセンサー
- ② フロントコーナーセンサー

▶ F SPORT

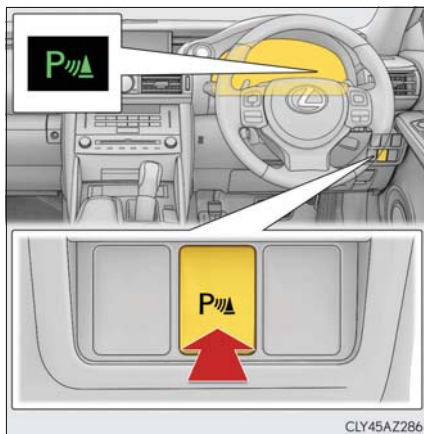


- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ バックセンサー

クリアランスソナーの切りかえ

ON / OFF

スイッチを押すとクリアランスソナーは ON になり、表示灯が点灯します。

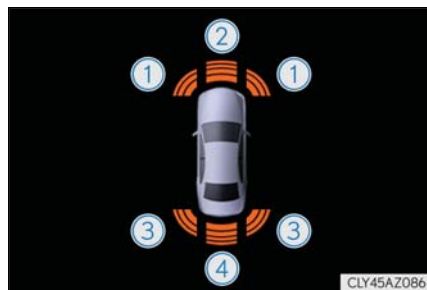


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの表示のしかた

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

- ① フロントコーナーセンサー作動表示
- ② フロントセンターセンサー作動表示
- ③ リヤコーナーセンサー作動表示
- ④ バックセンサー作動表示



■ ナビゲーション画面（サイド画面）の表示

障害物を検知すると自動的に表示されます。

- ① クリアランスソナー表示

表示されないように設定することができます。（→P. 262）



: ブザー音ミュート（消音）スイッチ（前進時のみ表示されます）

ブザー音を一時的に消すことができます。



- ② リヤクロストラフィックアラート表示★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

距離表示の見方

通常表示 ※1	障害物までのおおよその距離		
	—	フロントコーナー&フロントセンターセンサー	リヤコーナー&バックセンサー
 (点灯)	遠い ↑ ↓ 近い	フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 50cm	バックセンサー： 約 150cm ～ 60cm
 (点灯)		約 50cm ～ 40cm	約 60cm ～ 45cm
 (点灯)		約 40cm ～ 30cm	リヤコーナーセンサー： 約 45cm ～ 30cm バックセンサー： 約 45cm ～ 35cm
 (点滅 ※2 または 点灯 ※3)		約 30cm 以下	リヤコーナーセンサー： 約 30cm バックセンサー： 約 35cm

※1 イラストは説明のための例であり、表示により異なります (→ P. 259)

※2 マルチインフォメーションディスプレイ

※3 ナビゲーション画面

音声案内とブザー音

障害物を検知すると、ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を検知しているとき

- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
 - ・ フロントセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
 - ・ コーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
 - ・ バックセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
- 複数のセンサーが同時に障害物を検知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

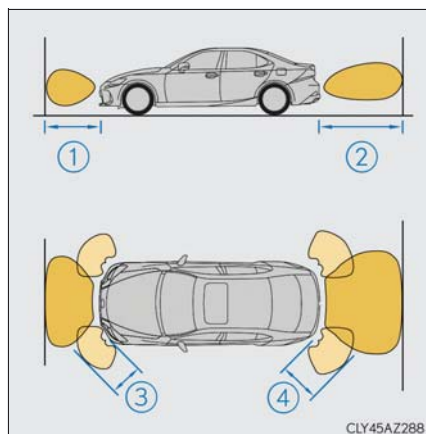
■ 障害物を車両の前後で同時に検知したとき

- フロント側、またはリヤ側で障害物を検知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を検知すると、ブザー音は「ピピピピピピ ピー」をくり返します。
- フロント側、またはリヤ側で障害物を検知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を検知すると、ブザー音は「ピピピ ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。（→ P. 262）

障害物を検知できる範囲

- ① 約 100cm（約 1.0m）
 - ② 約 150cm（約 1.5m）
 - ③ 約 50cm（約 0.5m）
 - ④ 約 60cm（約 0.6m）
- ・ 検知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると検知できません。
 - ・ 障害物の形状・条件によっては検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



障害物を検知できる範囲を変更することができます。（→ P. 262）

音声案内・ナビゲーション画面表示・ブザーの設定

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

- 1** リモートタッチの MENU スイッチを押し、「設定・編集」を選択する
- 2** 「運転支援」を選択する
- 3** 「クリアランスソナー設定」を選択する

■ ブザー音量設定

設定したい音量を選択する

ブザー音量を調整することができます。

■ 画面表示の ON/OFF（ソナー表示）

「ソナー表示なし」を選択する

- 選択するごとに、表示する／しないが切りかわります。
- 作動表示灯が点灯しているときはソナー表示されません。

障害物が検知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

「切替え」を選択する

- フロントセンターセンサー：
選択するごとに、検知範囲が「遠」（緑色）と「近」（黄色）に切りかわります。
- バックセンサー：
選択するごとに、検知範囲が「遠」（緑色）と「近」（黄色）に切りかわります。

フロントセンターセンサー・バックセンサーの割り込み表示が表示される検知範囲と、ブザーが出力される検知範囲を調整することができます。



知識

■ クリアランスソナーの作動条件

- フロントコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが P 以外にあるとき
- フロントセンターセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが P・R 以外にあるとき
- リヤコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが R にあるとき
- バックセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが R にあるとき

■ クリアランスソナーの警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。(→ P. 374)

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 262, 453)

 警告**■ クリアランスソナーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車速が約 10km/h をこえないようにしてください
- センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー検知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが検知する範囲にはアクセサリ用品などを取り付けないでください

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 障害物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが障害物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 障害物を検知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 35cm 以内に接近するおそれがあります。

 警告**■ センサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても検知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては検知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は検知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

 警告**■ 正確に検知できないことがある障害物**

次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの
- 人・動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

 注意**■ クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

- 障害物を検知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

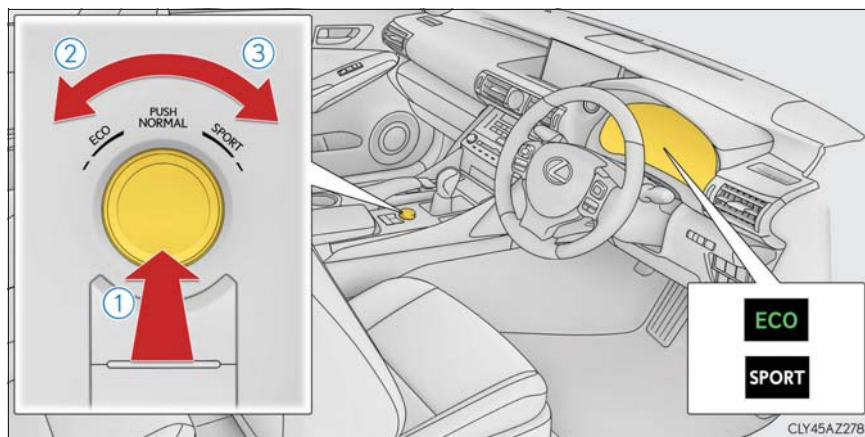
■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



① ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

エコドライブモードまたはスポーツモード時にスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

② エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

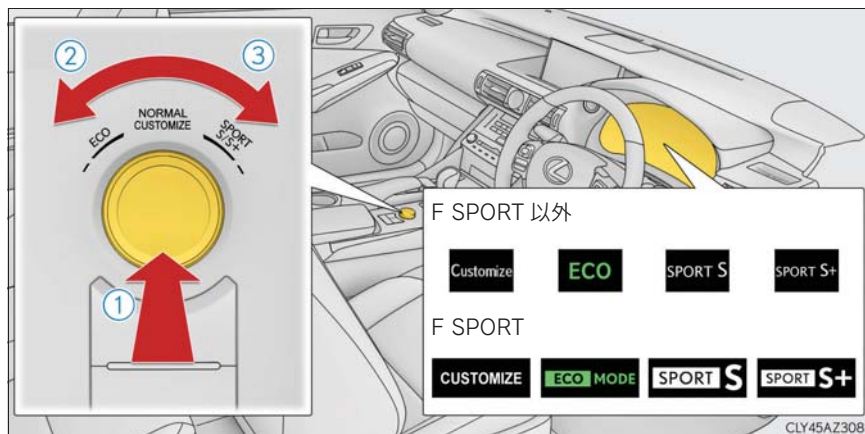
エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

③ スポーツモード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。また、ステアリングのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツモードに切りかわり、SPORT 表示灯が点灯します。

▶ NAVI・AI-AVS 装着車



① ノーマルモード／カスタマイズモード

ノーマルモード / カスタマイズモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押すごとに、ノーマルモード / カスタマイズモードが切りかわります。カスタマイズモードのとき、“Customize/CUSTOMIZE” 表示灯が点灯します。

エコドライブモードまたはスポーツモードのときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

・ ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

・ カスタマイズモード

以下の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタマイズモードは、ナビゲーション画面で設定します。

(ドライブモード設定画面を表示させる：→ P. 449)

機能	設定
パワートレイン制御	Normal
	Power
	Eco
シャシー制御	Normal
	Sport
エアコン作動	Normal
	Eco

② エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房 / 冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

③ スポーツモード

・ スポーツ S モード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、SPORT S 表示灯が点灯します。

・ スポーツ S +モード

トランスミッションとエンジンに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、よりスポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを右へまわすとスポーツ S +モードに切りかわり、SPORT S +表示灯が点灯します。



知識

■ エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房 / 冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

■ スポーツモード / カスタマイズモードの自動解除

スポーツモード / カスタマイズモードは、エンジンスイッチを OFF にするとノーマルモードにもどります。

■ サイド画面の割り込み表示

モードを切り替えるごとに、選択したモードがサイド画面に表示されます。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを 방지、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC （ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などでの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）★

車速やハンドルの動きに合わせて、フロントホイールが切れる角度を調整します。

◆ DRS（ダイナミックリヤステアリング）★

ハンドル操作に応じて後輪もわずかに切れることより、車両の旋回性や応答性に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ NAVI・AI-AVS

（AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、優れたフラット感（安定感）と快適な乗り心地の確保に貢献します。

また、ドライブモードセレクトスイッチでスポーツS+モードを選択したときには、スポーツ走行に適した減衰力に切りかわります。

（→ P. 268）

◆ LDH（レクサスダイナミックハンドリングシステム）★

VGRS・DRS・EPSを総合的に制御します。ハンドル操作と車速に応じて、前輪・後輪の切れる角度を制御することで、低速では旋回性、中速では応答性、高速では安定性の向上に寄与します。

◆ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS・VGRS★・DRS★を総合的に制御します。

すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

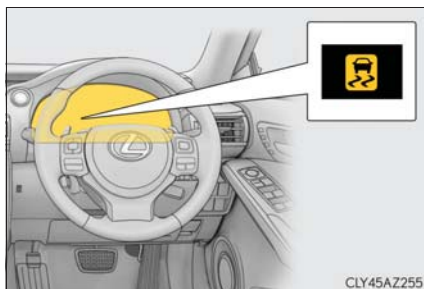
◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



CLY45AZ255

TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  または  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

▶ Stop & Start システム非装着車

▶ Stop & Start システム装着車



CLY45AZ304



CLY45AZ303

TRC を停止するには  または  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Offしました」と表示されます。

もう一度  または  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に  または  を押し 3 秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。※

もう一度  または  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P. 213)

■ VSC OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されたとき

TRC が作動できない状態になっています。レクサス販売店にご相談ください。

■ VGRS の作動が停止する場合

次の状況では VGRS が作動を停止することがあります。この場合、直進のハンドル位置がずれることがあります。システムの復帰と共にもとにもどります。

- 停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき
(LDH 装着車は、DRS も停止します)
 - ハンドルをいっぱいに切った状態で、長く力をかけ続けたとき
- これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■ バッテリー端子の脱着をしたときは

ハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、そのまま走行することで自動的に修正されます。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・VGRS の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS・VGRS・DRS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- （TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■NAVI・AI-AVS の NAVI 協調機能について

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

 警告**■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロブレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているとき

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

 警告**■ TRC や VSC を OFF にするとき**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 447）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。※

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。

（タイヤについて：→ P. 329）

※ 18 インチタイヤには、タイヤチェーンを取り付けしないでください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落とししてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。

※¹ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ タイヤチェーンについて（18 インチタイヤ装着車を除く）

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 警告**■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する
- LDA(レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き])を使用しない

■ タイヤチェーン装着時の警告（18 インチタイヤ装着車を除く）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**注意****■ タイヤチェーンの使用について（18 インチタイヤ装着車を除く）**

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ タイヤを修理・交換するとき

レクサス販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
（タイヤについての詳しい説明は P. 329 を参照してください）

■ タイヤチェーンの装着（18 インチタイヤ装着車を除く）

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。

ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. リモートタッチ

リモートタッチ	284
10.3 インチディスプレイ	287

5-2. エアコンの使い方

オートエアコン	289
ステアリングヒーター／ シートヒーター／ シートベンチレーター	299

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	302
・ インテリアランプ	303
・ パーソナルランプ	303

5-4. 収納装備

収納装備一覧	305
・ グローブボックス	306
・ コンソールボックス	306
・ カップホルダー／ ボトルホルダー	307
トランク内装備	309

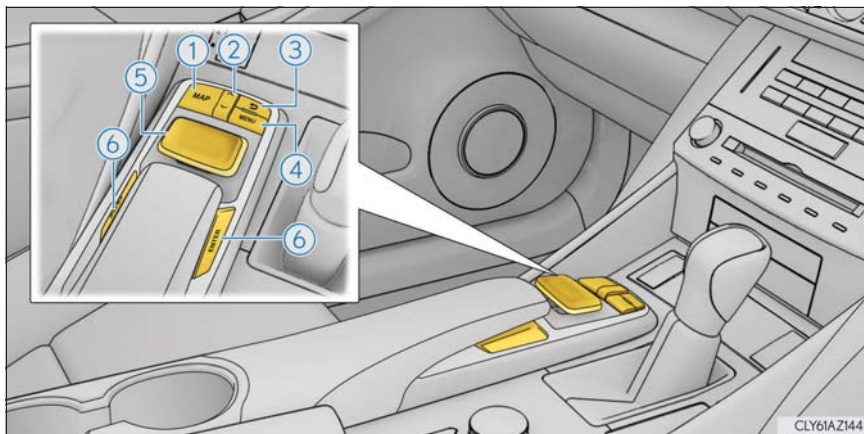
5-5. その他の室内装備の
使い方

その他の室内装備	312
・ サンバイザー	312
・ バニティミラー	312
・ 時計	312
・ アクセサリーソケット	313
・ リヤアームレスト	314
・ リヤサンシェード	314
・ アシストグリップ	316
・ コートフック	316

リモートタッチ

リモートタッチを使って、ナビゲーション画面の操作・設定ができます。

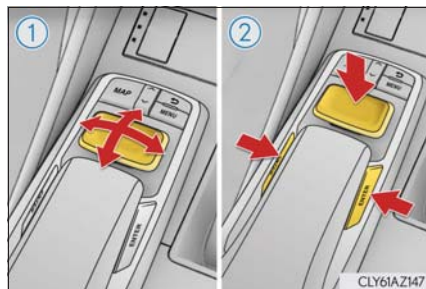
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



- ① MAP スイッチ
ナビゲーション画面で現在地を表示します。
- ② ハ・Vスイッチ
地図縮尺やリスト画面を切りかえます。
- ③  (戻る) スイッチ
ひとつ前の画面に戻ります。
- ④ MENU スイッチ
メニュー画面を表示します。(→ P. 286)
- ⑤ リモートタッチノブ
画面上のスイッチを選択または決定します。
- ⑥ ENTER スイッチ
画面上のスイッチを決定します。

リモートタッチの操作について

- ① 選択する：リモートタッチノブを操作して、ポインタをスイッチに合わせる。
- ② 決定する：リモートタッチノブが ENTER スイッチを押す



知識

■ 低温時の画面表示について

外気温が極めて低いときは、リモートタッチを操作しても画面の反応が遅れることがあります。

警告

■ リモートタッチを操作するとき

- リモートタッチノブに指をはさんだり髪の毛を引っかけるなどして、思わぬけがをするおそれがあります。
- 環境によってリモートタッチが熱くなる、または冷たくなり、持てなくなることがあります。

注意

■ リモートタッチの故障を防ぐために

- リモートタッチに食べ物や飲み物などをこぼさないでください。変色の原因になります。
- リモートタッチの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。ノブが曲がったり、折れたりするおそれがあります。
- リモートタッチにコインやコンタクトレンズなどの異物が挟まると、操作できなくなります。
- リモートタッチノブに衣服などを挟んだり、巻き込んだりするおそれがあります。
- エンジンスイッチをアクセサリモードにしたとき、リモートタッチノブの上に手またはものが置かれていると、正しく作動しないおそれがあります。

メニュー画面

リモートタッチの MENU スイッチを押すと、メニュー画面が表示されます。

分割画面表示にしているとき、メニュー画面はメイン画面に表示されません。(→ P. 287)



スイッチ	機能
	目的地を設定する。※
	オーディオ操作画面を表示する。※
	デジタルテレビを表示する。※
	電話画面を表示する。※
	情報画面を表示する。※
	エアコン操作画面を表示する。(→ P. 289)
	設定・編集画面を表示する。※
「画質・消」	画質調整画面を表示する。※

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

10.3 インチディスプレイ

画面表示について

■ 全画面表示

以下の画面は、表示エリアの全てに一画面で表示することができます。

- オープニング画面
- メニュー画面 (→ P. 286)
- ナビ※
- オーディオ※
- 燃費、Harmonious Driving Navi (→ P. 93)
- TV※
- エアコン (→ P. 289)

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ 分割画面表示

異なる情報を左右に並べて表示します。たとえば燃費情報画面を表示したまま、オーディオ画面を並べて表示したり操作することができます。

画面左側の広い表示エリアをメイン画面、右側の狭い表示エリアをサイド画面と呼びます。



分割画面の操作

■ 操作したい画面の選択

メイン画面を選択するには、リモートタッチノブを左に操作します。

サイド画面を選択するには、リモートタッチノブを右に操作します。

■ メイン画面

メイン画面の表示や操作、および各機能の詳細については、それぞれの項目および、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ サイド画面

▶ 基本画面

右端のスイッチから各画面をサイド画面に表示し操作することができる

- ① ナビ※
- ② オーディオ※
- ③ ハンズフリー※
- ④ 車両情報 (→ P. 98)
- ⑤ エアコン (→ P. 292)
- ⑥ 全画面表示切替スイッチ

サイド画面を非表示にします。

メイン画面に表示中の画面が全画面表示に対応している場合 (→ P. 287)、その画面が全画面表示となります。



▶ 割り込み画面

次の各画面は状況に応じて自動的に表示される

- クリアランスソナー★ (→ P. 259)
- ハンズフリー※
- オーナーズデスク※
- ドライブモード (→ P. 267)

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

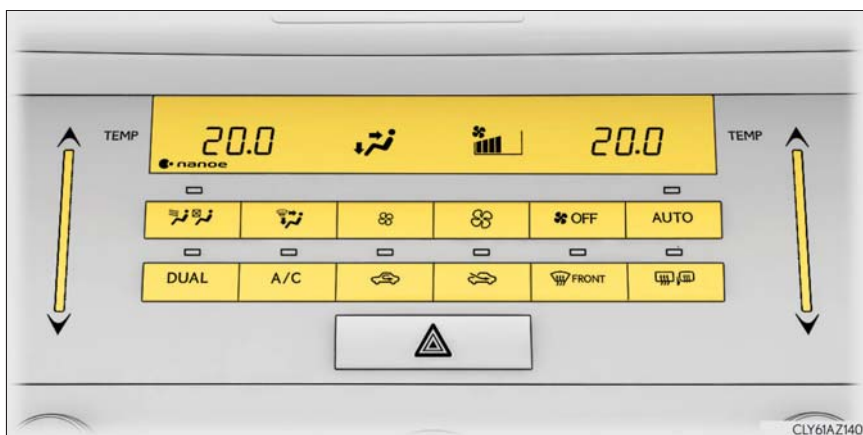
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチのMENUスイッチを押して、を選択するとエアコン操作画面が表示されます。エアコン操作画面は、サイド画面に表示し操作することもできます。(→ P. 288)

エアコン操作スイッチについて

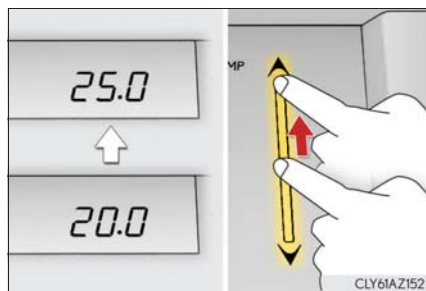


■ 温度を調整する

センサーにタッチしながら、指を上または下にスライドする

センサーにタッチしても温度を調整することができます。

設定温度が変わるとブザーが鳴ります。



■ 風量を切りかえる

風量を増やすには：を押す

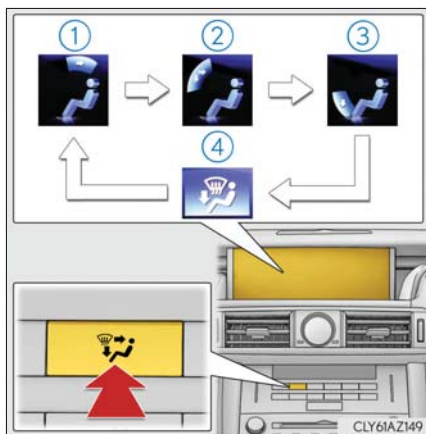
風量を減らすには：を押す

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る



■ S-FLOW モード

リヤ席に乗員がいないとき、フロント席のみの送風に切りかえて、リヤ席の空調の効きを抑えます。

室温や外気温などの条件により、室内の快適性を保つため、リヤ席に送風されることがあります。

を押す

S-FLOW モードがON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

再度 を押すと、リヤ席へ送風を再開します。

■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる (→ P. 293)
- フロントウインドウガラスの曇りを取る (→ P. 293)
- リヤウインドウの曇りやミラーの霜をとる (→ P. 293)

エアコン操作画面について

- ① 助手席側の温度を調整する
- ② 風量を切りかえる
- ③ 吹き出し口を切りかえる
- ④ 運転席側の温度を調整する
- ⑤ オプション操作画面を表示する
(→ P. 291)
- ⑥ 吹き出し口と風量が自動的に調整される
- ⑦ 冷房・除湿する
- ⑧ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する (左右独立モード)
(→ P. 292)
- ⑨ エコモードに設定する (→ P. 296)



■ オプション操作画面

エアコン操作画面で  を選択する。各機能の ON/OFF を切りかえることができます。

- ① 花粉を除去する (→ P. 293)
- ② 「ナノイー」※ を作動する
(→ P. 296)



※ 「nanoe」、 「ナノイー」 および 「nanoe」 マークは、パナソニック株式会社の商標です。

■ エアコン操作画面（サイド画面）

- ① 吹き出し口を切りかえる
- ② 助手席側の温度を調整する
- ③ 風量を切りかえる
- ④ 運転席側の温度を調整する
- ⑤ 吹き出し口と風量が自動的に調整される
- ⑥ 冷房・除湿する
- ⑦ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）
（→ P. 292）



オート設定で使用する

- 1 エアコン操作スイッチの **AUTO** を押す、またはエアコン操作画面で“**AUTO**”を選択する
- 2 温度を設定する
- 3 ファンをとめたいときは、**OFF** を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、**AUTO** スwitchの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードがONになります。

- エアコン操作パネルの **DUAL** を押す、またはエアコン操作画面で“**DUAL**”を選択する
- エアコン操作画面（サイド画面）で“**DUAL**”を選択する
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

左右独立モードのとき、リヤ吹き出し口の設定温度は、運転席側の設定温度になります。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

内気循環に切りかえるには、を押す

外気導入に切りかえるには、を押す

選択されているスイッチの作動表示灯が点灯します。

■ 花粉除去機能を使用するには

オプション操作画面で、を選択する。

花粉除去モードがON のとき、エアコン操作画面の  が点灯します。

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードがOFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■ フロントガラスの曇りをとるには

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

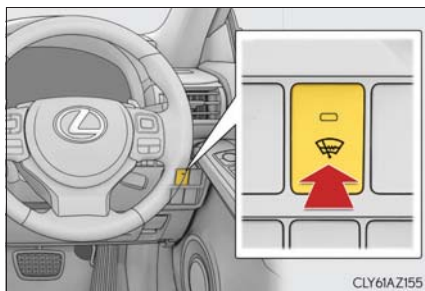
リヤウインドウデフォグガーは、しばらくすると自動的にOFF になります。

■ フロントワイパーデアイサー★

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

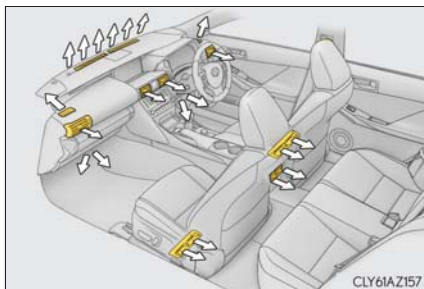


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

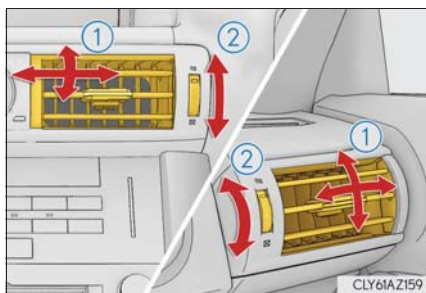
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント

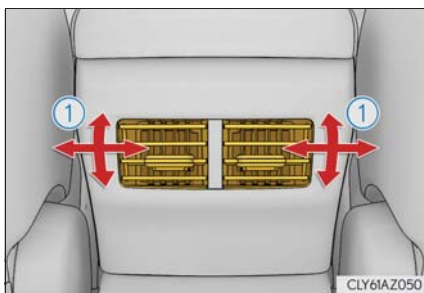


① 風向きの調整

風向きを外側いっぱい調整すると、吹き出し口を閉じることができます。(リヤ吹き出し口のみ)

② 吹き出し口の開閉 (フロント吹き出し口のみ)

▶ リヤ



 知識**■ 電子キーによるエアコン設定の記憶について（ドライビングポジションメモリー装着車）**

- 電子キーでドアを解錠してエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると、その電子キーに対して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。
- エンジンスイッチを OFF にすると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。
- 複数の電子キーを持ってスマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠したり、運転席以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。
- スマートエントリー＆スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、解錠ドアの設定※を変更できます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

※ ドライビングポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、（“AUTO”）を ON にした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、（“A/C”）を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- （“A/C”）を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能について

オート設定時、湿度センサー（→ P. 298）でフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
 - ・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをより良くしたいときは、次の操作をおこなってください。
 - ・風量を調整する。
 - ・エコドライブモードを解除する。

■外気温度が0℃近くまで下がったとき

を押す、または“A/C”を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■「ナノイー」※¹について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席中央側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします※²。

- ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します※³。
- 「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
 - ・吹き出し口が 、または  のとき
 - ・運転席側の吹き出し口が開いているとき
- 「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- 作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※¹「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※² 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

※³「ナノイー」がONのとき。(→ P. 291)

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 339

■ 設定可能な機能

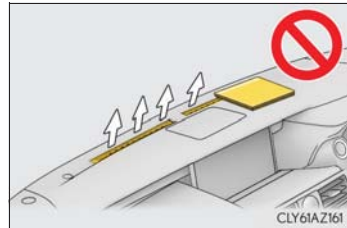
AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 454)



警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー作動中の警告

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ 「ナノイー」について

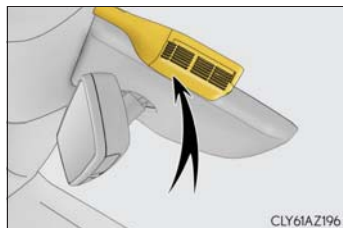
このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

 注意**■ 湿度センサーについて**

フロントウインドウガラスの曇り検知（→ P. 295）のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐため、次のことを守ってください。

- ・ 湿度センサーを分解しない
- ・ ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
- ・ 湿度センサーにシールなどを貼らない

**■ 「ナノイー」の損傷を防ぐために**

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

ステアリングヒーター★／シートヒーター★／シートベンチレーター★

ハンドルの左右のグリップ部やシートを暖めたり、シートから風を出して通気をよくできます。

⚠ 警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたがステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いかた
 - ・ 疲労の激しいかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

⚠ 注意

- シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター

システムの ON / OFF を切りかえる

作動中はインジケーターが点灯します。



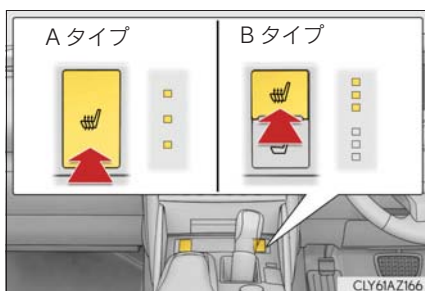
知識

- 作動条件：エンジンスイッチがイグニッション ON モード
- タイマー機能：約 30 分後に自動で OFF になります。

シートヒーター

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわり、レベルインジケーター（橙）が点灯します。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→
弱（1 個点灯）→ OFF



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ タイマー制御について

運転席と助手席のシートヒータースイッチを同時に押し続けると、ブザーが「ピッ」と鳴りタイマー制御が ON になります。

タイマー制御が ON になると、シートヒーターの作動状態が自動で次のように切りかわります。

選択した作動状態	作動状態の切りかわり
強	強→中→弱
中	中→弱
弱	弱

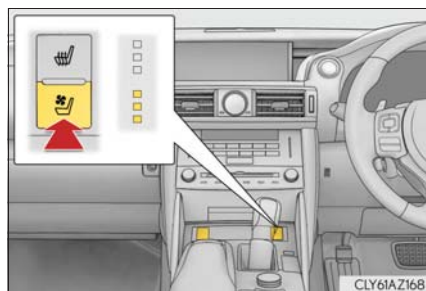
切りかわるまでの時間は、シートヒーターを作動させたときの室内温度などにより異なります。

もう一度上記の操作を行うと、ブザーが「ピッピッ」と鳴り OFF になります。

シートベンチレーター

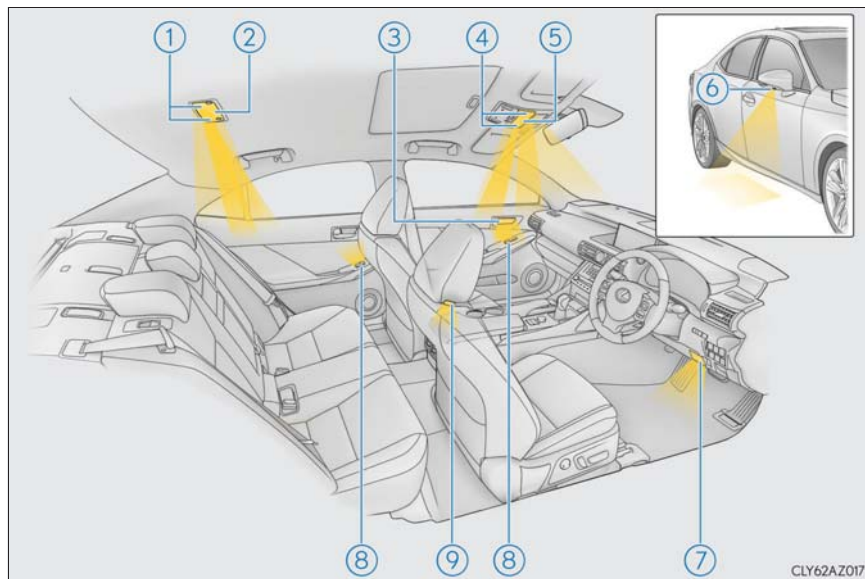
スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわり、レベルインジケーター（緑）が点灯します。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF


 知識

作動条件：エンジンスイッチがイグニッション ON モード

室内灯一覧



① リヤパーソナルランプ
(→ P. 303)

② リヤインテリアランプ
(→ P. 303)

③ ドアハンドル照明

④ フロントパーソナルランプ
(→ P. 303)

⑤ フロントインテリアランプ
(→ P. 303)

⑥ ドアミラー照明

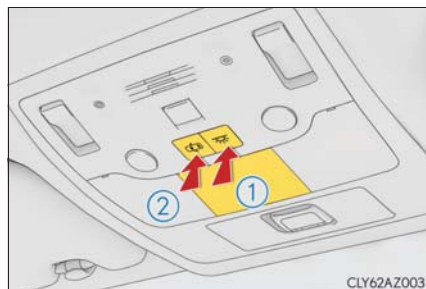
⑦ 足元照明

⑧ パワーウィンドウスイッチ照明

⑨ ドアカーテシランプ

インテリアランプ

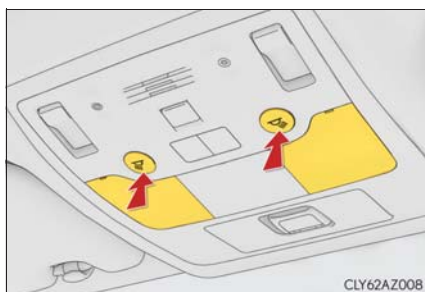
- ① ランプを点灯・消灯する
- ② ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる



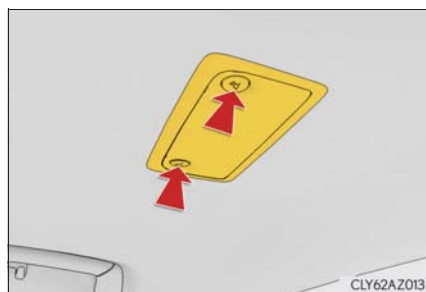
パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する

▶ フロント



▶ リヤ





知識

■ インテリアランプ・パーソナルランプの作動条件

エンジンスイッチがすべてのモードで使用できます。ただしエンジンスイッチが OFF のときは、バッテリー保護機能が作動していないときに使用できます。

■ バッテリー保護機能

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンスイッチが OFF の場合、約 20 分後に室内灯への電源供給が自動で遮断されます。(室内灯が点灯したままのときは、自動消灯します。)

再び点灯したいときは、スイッチを操作してインテリアランプを点灯させるか、エンジンスイッチをアクセサリモード、またはイグニッション ON モードにします。イルミネーテッドエントリーシステムによって、いずれかの照明が自動的に点灯したときは、保護機能は自動で解除されます。

■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ 設定可能な機能

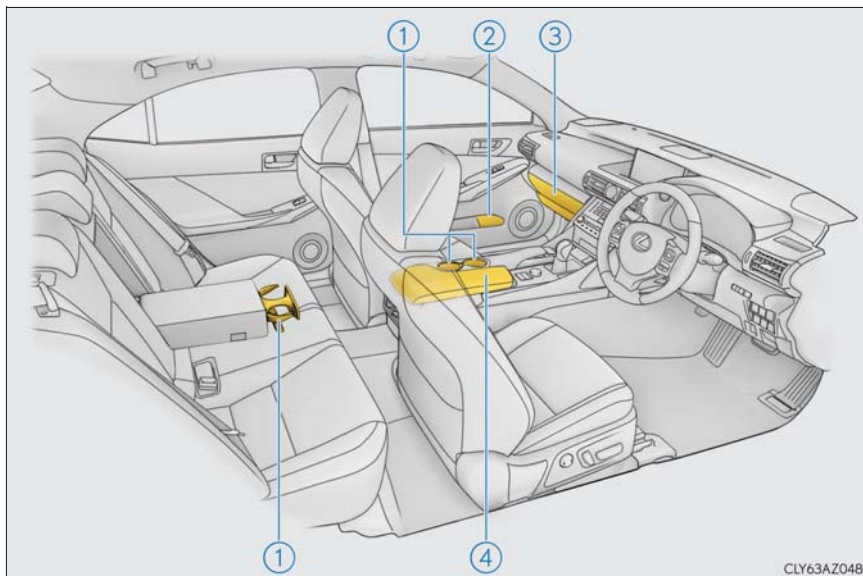
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 449)



注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



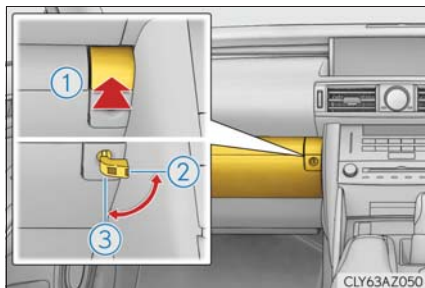
- ① カップホルダー (→ P. 307) ③ グローブボックス (→ P. 306)
 ② ボトルホルダー (→ P. 307) ④ コンソールボックス (→ P. 306)

⚠ 警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままにしていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

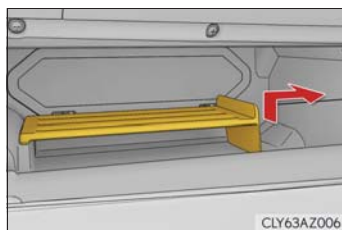
グローブボックス

- ① 開ける (ボタンを押す)
- ② メカニカルキーで解錠
- ③ メカニカルキーで施錠



知識

- エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき、グローブボックス内のランプが点灯します。
- グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。(→P. 115)
- グローブボックス内の仕切りを取りはずして使用することができます。



コンソールボックス

ノブを押す

手動でさらに開くと、全開にすることができます。



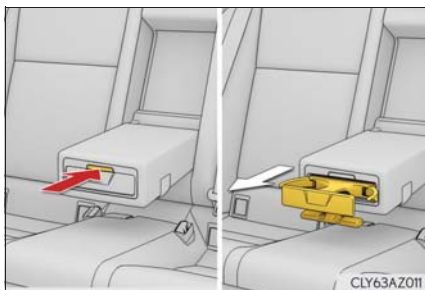
カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー

▶ フロント

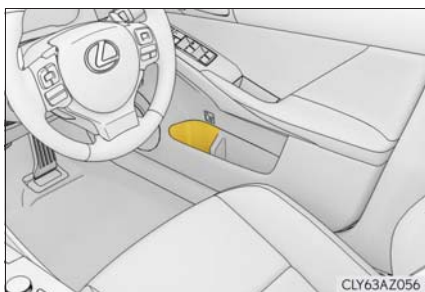


▶ リヤ



リヤアームレストを引き出し、アームレストのボタンを押して開ける

■ ボトルホルダー



知識

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。
- フロントカップホルダーの中敷を取りはずすことができます。

警告

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めてください。

 注意

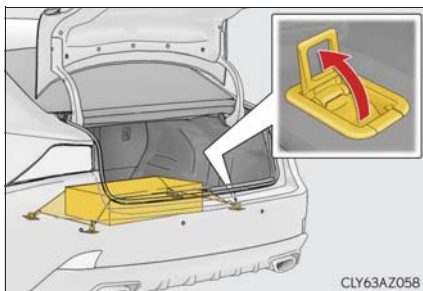
- 破損を防ぐためにリヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。
- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

トランク内装備

荷物固定用フック

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。

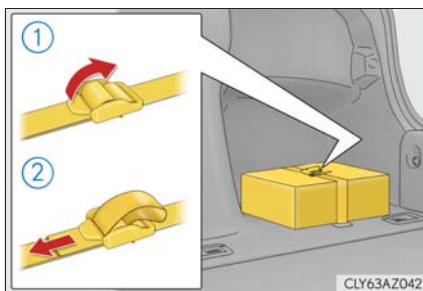


⚠ 警告

荷物固定用フックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

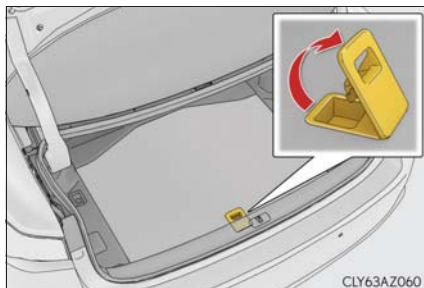
救急箱等固定用バンド

- ① ベルトをゆるめる
- ② ベルトを締める

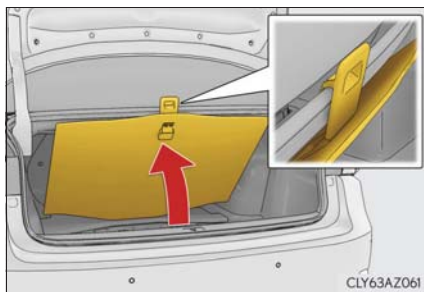


ラゲージマット

- 1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる



- 2 フックを使ってラゲージマットを固定する

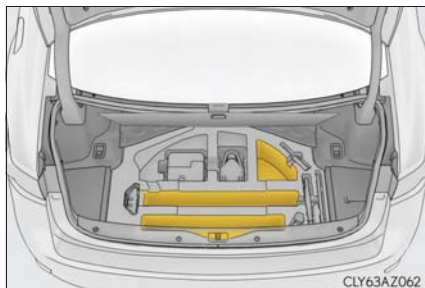


⚠ 注意

トランクを閉めるときは、ラゲージマットのレバーをトランクの端にかけたままにしないでください。ラゲージマットが破損するおそれがあります

ラゲージアンダートレイ（応急用タイヤ非装着車）

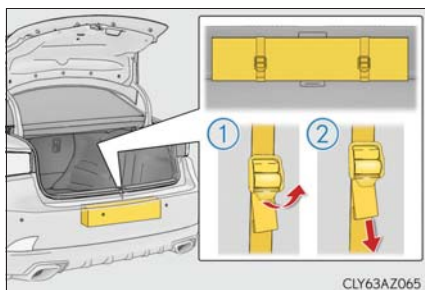
ラゲージマットを取りはずす
（→ P. 310）



三角表示板等固定用バンド

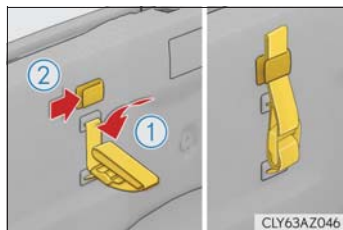
- ① ベルトをゆるめる
- ② ベルトを締める

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。



知識

三角表示灯固定用バンドの損傷を防ぐため、使用しないときは右図のように①ベルトを折りたたみ、②ツメにはさんで収納してください。



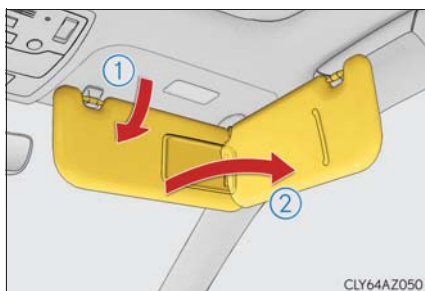
警告

三角表示板を収納するときは、確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

その他の室内装備

サンバイザー

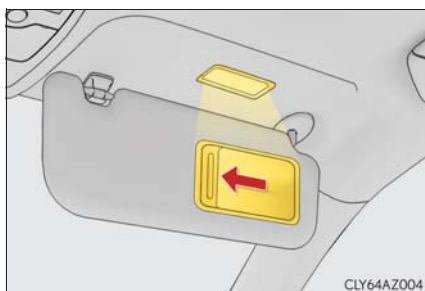
- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

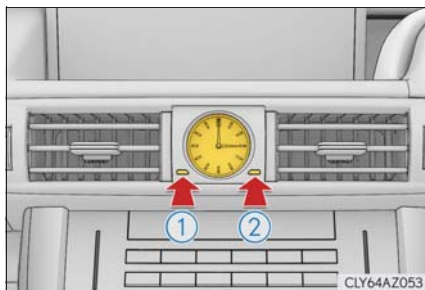
カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

- ① 針をもどす
- ② 針を進める



アクセサリースOCKET

12V 10A 未満の電気製品が使用できます。

フタを開けて使用する



知識

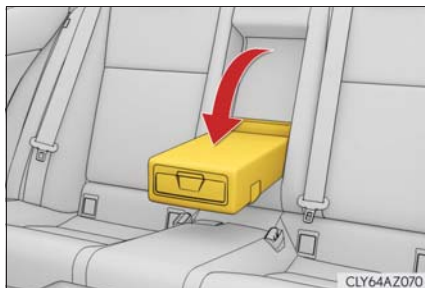
- 作動条件: エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッションONモード
- Stop & Start システム装着車: Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリースOCKETが使用できないことがあります。異常ではありません。

注意

- 異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。
- ヒューズ切れを防ぐために、12V 10A をこえないようにしてください。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリースOCKETを使用しないでください。

リヤアームレスト

手前に倒して使用します。

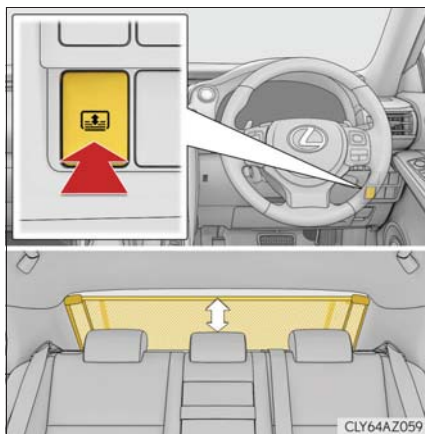


アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

リヤサンシェード★

スイッチ操作でリヤサンシェードが上昇／下降します。

上昇／下降



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

- 作動条件：エンジンスイッチがイグニッション ON モード
- エンジンスイッチを OFF にしたあと、約 1 分間リヤサンシェードを操作できます。
- リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。（リバース連動機能）

ただし、次のいずれかを行うと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- ・ スイッチをもう一度押す ※
- ・ シフトレバーを P に入れる
- ・ シフトレバーを R 以外にし、15km/h 以上で走行する

リバース連動機能により、リヤサンシェードが下降した状態でエンジンを停止した場合は、再びエンジンを始動させて 15km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

※ スイッチ操作後はリバース連動機能が作動しない場合があります。作動可能状態にするには、再度上記の操作を行ってください。

 警告

リヤサンシェード作動中は、リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。巻き込まれてけがをするおそれがあります。

 注意

- バッテリーあがりを防ぐためにエンジンが停止しているときは、リヤサンシェードを操作しないでください。
- 正常に機能させるために次のことをお守りください。
 - ・ リヤサンシェードのモーターや他の部分に負荷をかけすぎない
 - ・ 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
 - ・ リヤサンシェードにものを貼らない
 - ・ 溝をきれいに保つ
 - ・ 長時間リヤサンシェードの操作を続けない

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

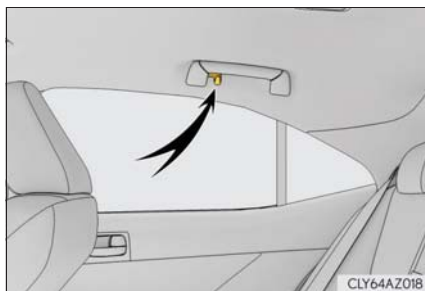
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフック

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



⚠ 警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	318
内装の手入れ	322

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	325
ガレージジャッキ	327
ウォッシュ液の補充	328
タイヤについて	329
タイヤ空気圧について	337
エアコンフィルターの交換	339
電子キーの電池交換	341
ヒューズの点検・交換	343
電球（バルブ）の交換	346

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から5～8年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■ 洗車などで車に水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する
(電子キーの盗難に注意してください)
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー & スタートシステムの作動を停止する (→ P. 120)

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
 - ・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・ 金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

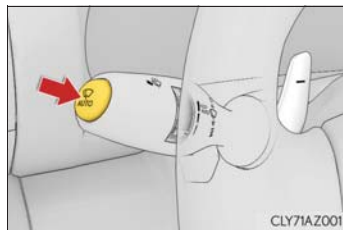
！ 警告**■ 洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパーの AUTO モードを OFF にし、ワイパーが自動で作動しないようにしてください。(→ P. 188)

ワイパーが AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ ブラインドスポットモニター★について

リアバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するとき

ワイパーの AUTO モードを OFF にし、ワイパーが自動で作動しないようにしてください。(→ P. 188)

ワイパーが AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- | | |
|------------|-------------|
| ・ 駆動系部品 | ・ サスペンション部品 |
| ・ ステアリング部品 | ・ ブレーキ部品 |

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れ

- 重曹（炭酸水素ナトリウム）溶液をやわらかい布または合成セーム皮に含ませ、汚れをふき取る
真水に重曹を 10:1 の割合で溶かした溶液を使用してください。
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る



知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV カットガラスについて（フロントサイドガラス）

● ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。

● ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

■ グローブボックス・コンソールボックスなどの植毛部分を掃除する場合

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

**警告****■ 車両への水の浸入**

● 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。

電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

● SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→ P. 32）

電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ ナビゲーション画面：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤やアルカリ性の溶剤・アルコール
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
 - ・ その他の部品：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

カメラセンサーのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。(→ P. 200)

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

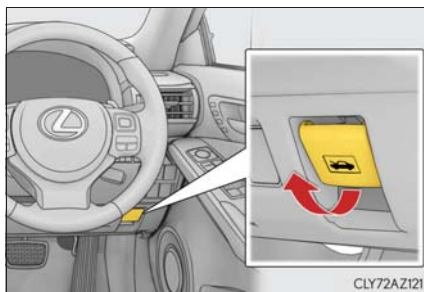
■ スーパー UV カットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

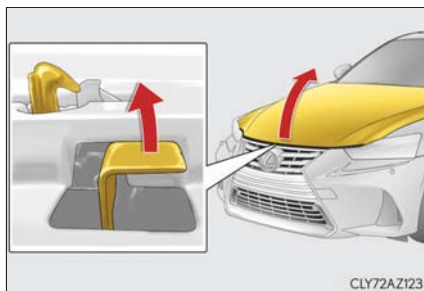
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



警告**■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**注意****■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために**

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などでふれない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

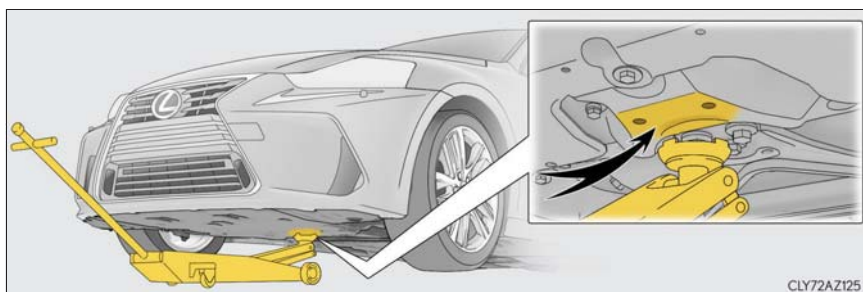
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

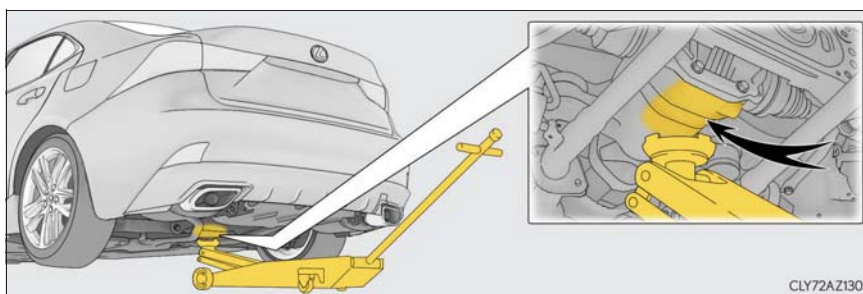
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



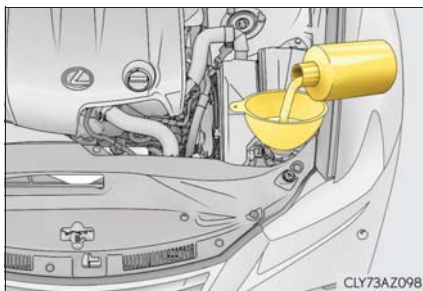
◆ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 10,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

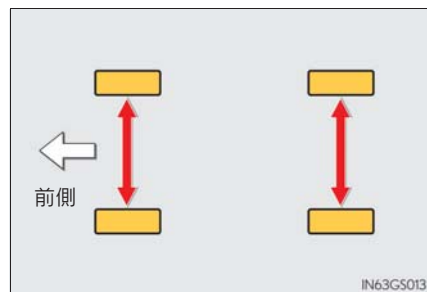
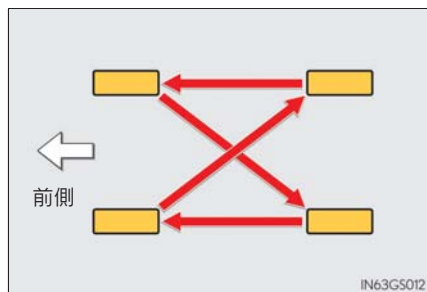
タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

▶ 前後のタイヤサイズが同じ車両

▶ 前後のタイヤサイズが異なる車両



タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

ランフラットタイヤ★

ランフラットタイヤを装着している場合は、タイヤがパンクしても、60 km/h をこえない速度で、約 300 km まで走行することが可能です。(ただし、気候や走行状況などによっては 60 km/h までスピードを出せないこともあります)

ランフラットタイヤには、タイヤの側壁に RFT マークまたは DSST マークが付いています。

300 km 近くまで走行してしまう前に、必ずタイヤを交換してください。また、修理されたタイヤを使用しないでください。



タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。(→ P. 370, 387)
- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。



空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。登録の際は、レクサス販売店へご依頼ください。(→ P. 331)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要な場合

タイヤローテーションを実施したときは、初期化操作を行ってください。

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

- 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する (→ P. 332, 447)

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

- 3 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

- 4 タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける



- 5 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたまま数分※待ち、その後エンジンスイッチを OFF にする

※ 設定が完了するには 2 ～ 3 分かかります。

ID コードの登録について

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されており、タイヤ空気圧バルブ／送信機の交換時は、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

ID コードの登録については、レクサス販売店にご依頼ください。

 知識**■ タイヤ空気圧の数値**

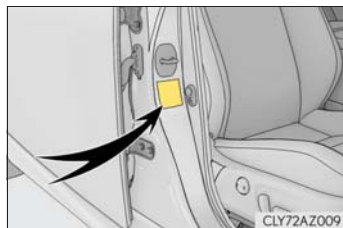
前輪：250 kPa (2.5 kg/cm²) ※

後輪：250 kPa (2.5 kg/cm²) ※

応急用タイヤ★：420kPa (4.2kg/cm²) ※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧

**■ タイヤ関連の部品を交換するとき**

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤローテーションを行うとき

必ずエンジンスイッチが OFF の状態で行ってください。イグニッション ON モードのままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度イグニッション ON モードにするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

■ 低扁平タイヤについて

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーン※を使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

※ 18 インチタイヤには、タイヤチェーンを装着できません。冬用タイヤを使用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■低扁平タイヤの空気圧点検

低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも1ヶ月に1回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■タイヤがパンクした場合の対処法

標準タイヤの場合とランフラットタイヤの場合とでは対処方法が異なります。
(→ P. 398, 412, 423)

■ランフラットタイヤの取り扱いについて

- ランフラットタイヤはこの車専用のため、他の車には使用しないでください。
- ランフラットタイヤと標準タイヤを混ぜて使用しないでください。
- レクサス指定の純正以外のホイールを使用した場合、ランフラットタイヤの高い機能が発揮されないおそれがあります。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
 - ・純正ホイール以外を使用したとき
 - ・純正装着タイヤ以外に交換したとき
 - ・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
 - ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
 - ・中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
 - ・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
 - ・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
 - ・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
 - ・タイヤ空気圧警報バルブ/送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
 - ・タイヤ空気圧警報バルブ/送信機のIDがタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき
- 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
 - ・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいますとき
 - ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。
- 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
- タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■初期化操作について

- 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- 初期化中にエンジンスイッチをOFFにしてしまった場合は、次回イグニッションONモードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためてリセットスイッチを押し直す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押してしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

通常 2、3 分で終了します。ただし、次の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化し直してください。それでもうまくいかないときは、レクサス販売店にて点検を受けてください。

- スイッチ操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません）
- 初期化してから約 20 分走行したあと、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合

■ID コードの登録について

車 1 台に対して、最大 2 セット分のホイールの ID コードを登録することができます。通常使用するタイヤとは別に、冬用タイヤを装着したホイールの ID コードをあらかじめ登録しておけば、冬用タイヤへの交換時に ID コードを登録しなおす必要がなく、便利です。

ID コードの切りかえについては、レクサス販売店にご相談ください。

警告**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスペルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

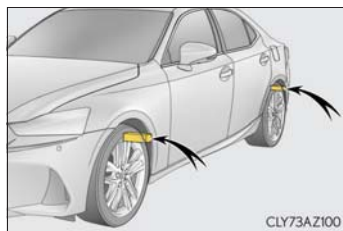
■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押してください。

お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

■電波がおよぼす影響についての警告

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナから約 45cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。



- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

 注意**■ 低扁平タイヤについて**

低扁平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。

タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ バンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低扁平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。(→ P. 447)



知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

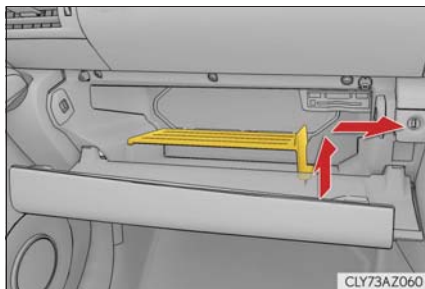
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤがパンクした状態になるおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

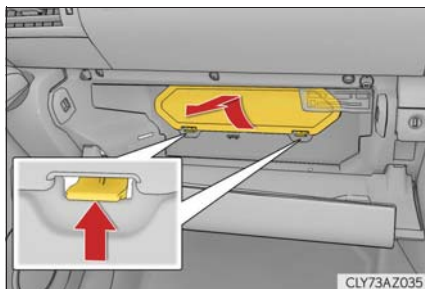
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

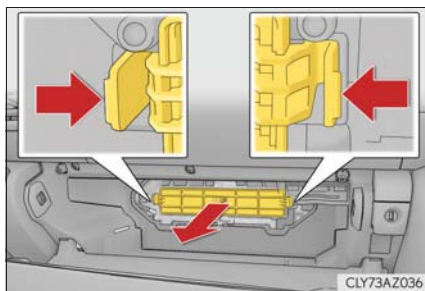
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、仕切り板をはずす



- 3 ツメ（2ヶ所）を押してロックをはずし、フィルターカバーを取りはずす

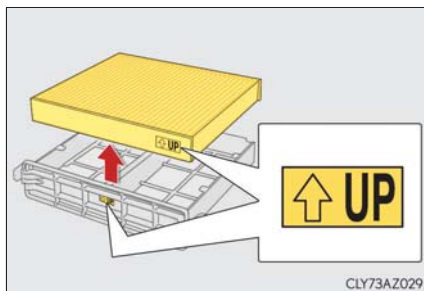


- 4 ツメ（2ヶ所）を押してロックをはずし、フィルターケースを取りはずす



- 5 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15,000 km [7,500 km^{※1}] ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと^{※2}

^{※1} 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

^{※2} 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

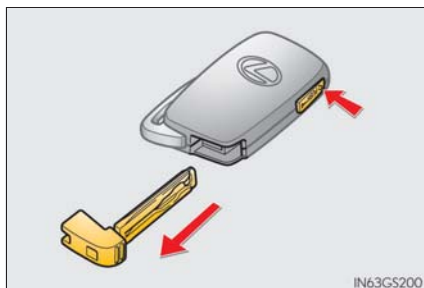
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

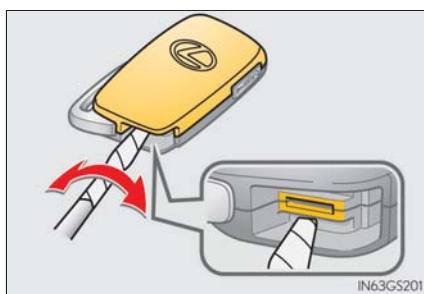
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く



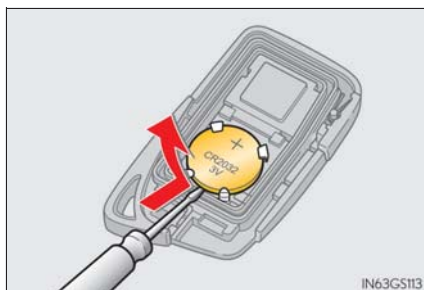
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。





知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる



警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

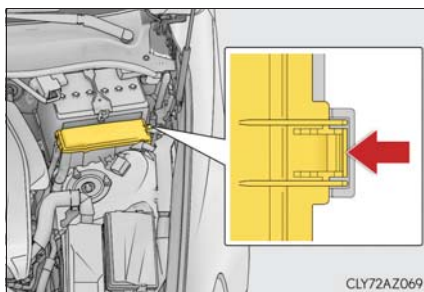
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

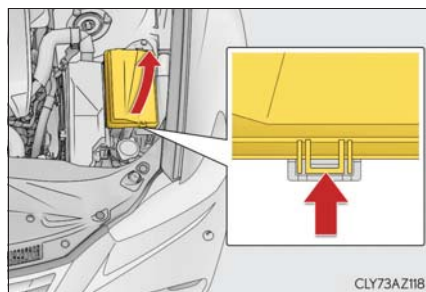
2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム (1)



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ エンジンルーム (2)



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

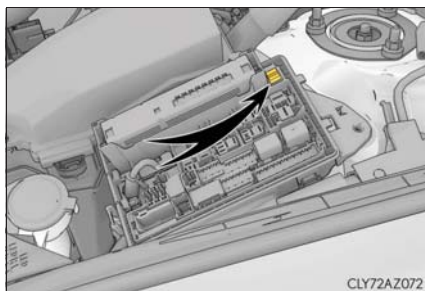
▶ 助手席足元



カバーを取りはずす

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



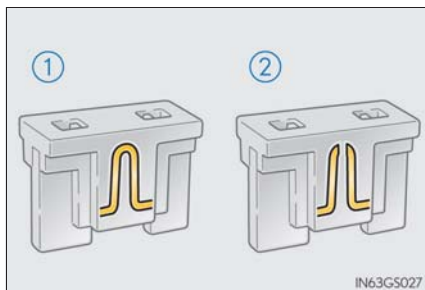
CLY72AZ072

4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



IN63GS072

 知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 346)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

 警告**■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意**■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

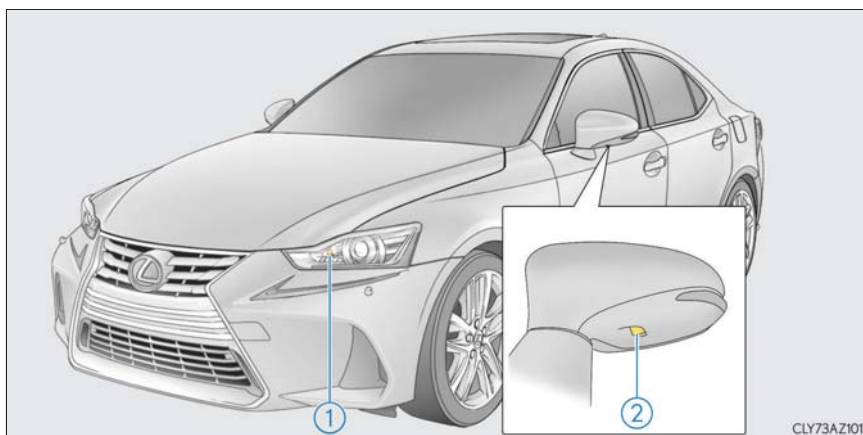
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→ P. 448）

バルブ位置

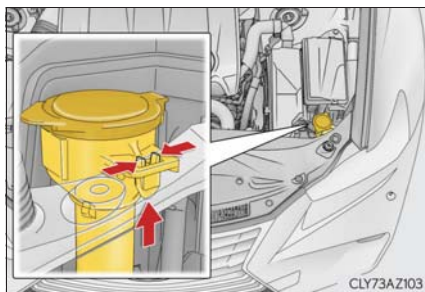


- ① フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）
- ② ドアミラー照明

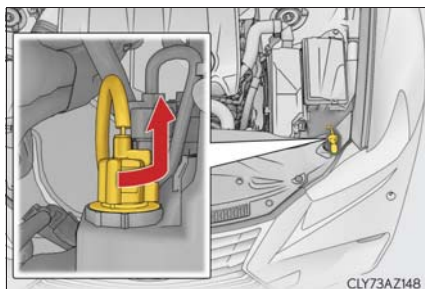
電球交換のしかた

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

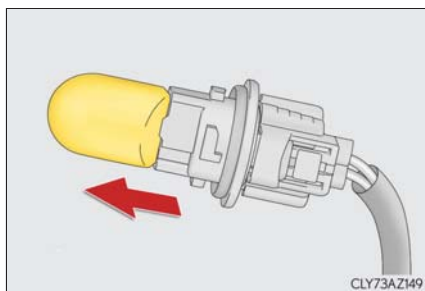
- 1** 助手席側を交換するときは、ツメをはずしてウォッシャー液注入口を取りはずす



- 2** ソケットを左にまわして取りはずす

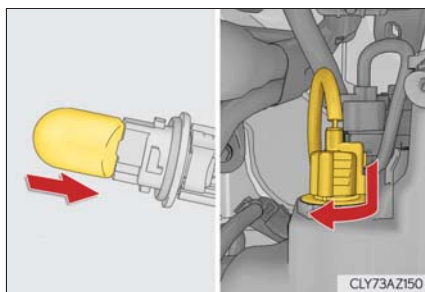


- 3** 電球を取りはずす



- 4** 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

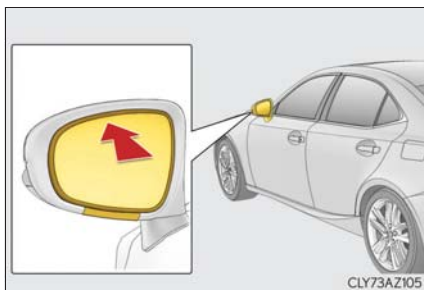
ソケットを取り付けたあとは、いったんフロント方向指示灯／非常点滅灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



- 5** 助手席側の電球を交換したときは、ウォッシャー液注入口をもとどおりに取り付ける

■ ドアミラー照明

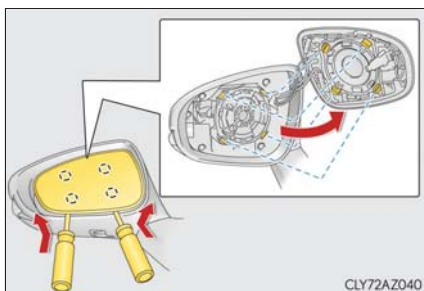
- 1 ミラーの上端を押して鏡面を上向きにし、ミラーのカバー下部に保護テープを貼り付ける



- 2 保護テープを巻いたマイナスドライバー（2本）の先端を挿し込んで、ミラー裏側のツメ（4か所）をはずす

ミラーを手前に引き出すようにして、2か所ずつツメをはずします。

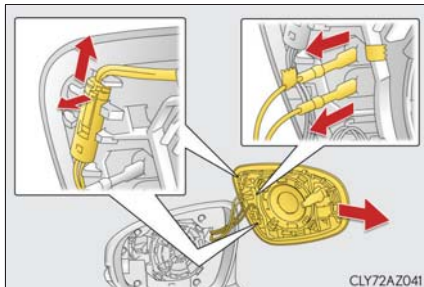
ミラーが急に落下しないよう、慎重に作業してください。



- 3 裏面にあるコネクター類の接続をはずし、ミラーを取りはずす

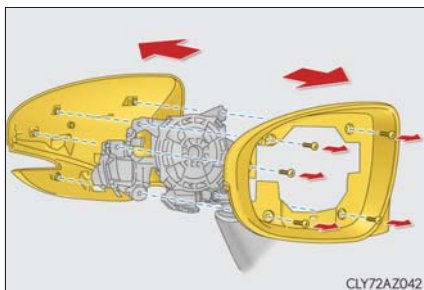
細いコネクターをはずすときは、組み付け時に間違えないよう、いずれかの側にテープなどで印を付けておきます。

ミラーを落とさないように、慎重に作業してください。

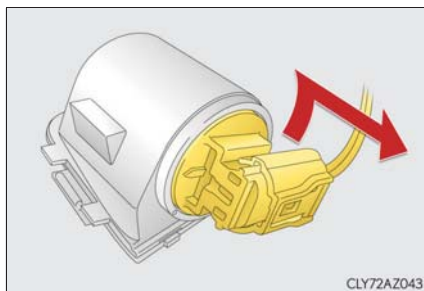


ミラーを持つときは、グリースが塗布してある箇所をつかまないように注意してください。

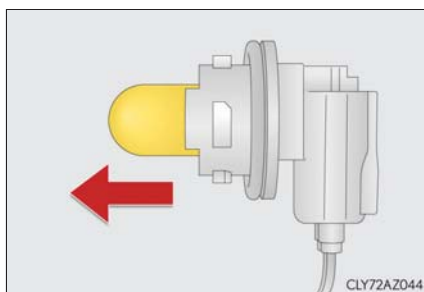
- 4 ネジ（5本）をはずして、ミラーの外側カバーと鏡面側カバーを取りはずす



- 5** ソケットを左にまわして取りはずす

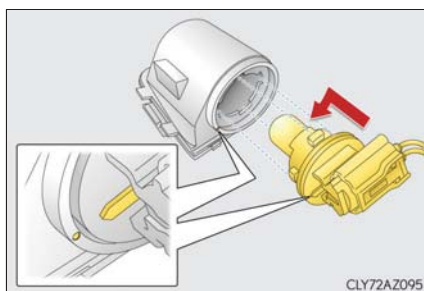


- 6** 電球を取りはずす



- 7** 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして固定する

ソケットを挿し込むときは、ランプ本体・ソケットそれぞれに刻印されているマークの位置を合わせてください。



- 8 鏡面側カバーをミラーのフレームに取り付けてネジ（1 本）で固定し、サイド方向指示灯とドアミラー照明を取り付ける

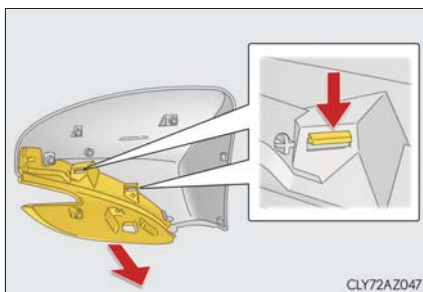
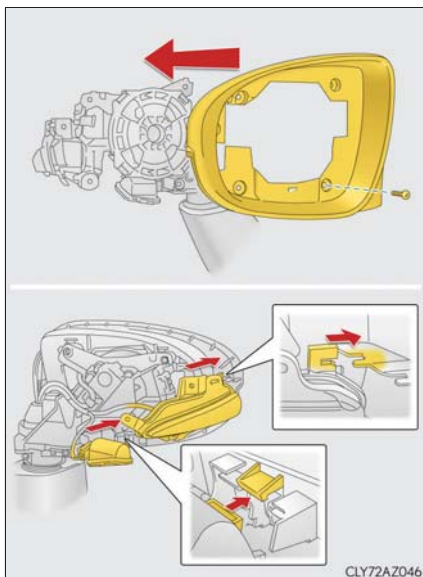
ここでは、図の位置のネジ（1 本）だけを取り付けます。

サイド方向指示灯本体側のツメとカバー側のツメの位置を合わせて取り付けます。

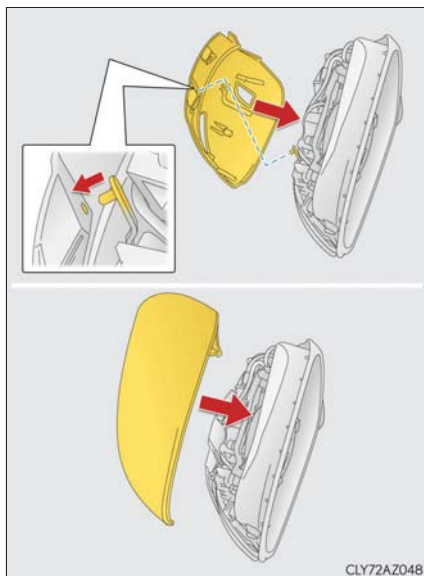
ドアミラー照明本体側の溝とカバー側のツメをかみ合わせて固定します。

ドアミラー照明本体を固定したあと、いったんドアミラー照明を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

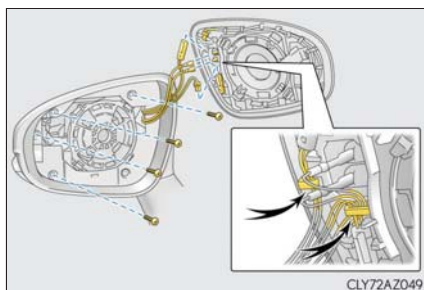
- 9 ツメをはずして、アウターミラーの外側カバーを上下に分離する



- 10** 下側から上側の順にアウターミラーの外側カバーを取り付ける
- 下側のカバーを取り付けるときは、サイド方向指示灯のピンをカバーの穴に挿し込んでください。



- 11** ネジ（4 本）でカバーを固定し、取りはずしたコネクタ類をもとどおりに取り付ける
- コード類はもとどおり鏡面裏フックにかけて固定します。

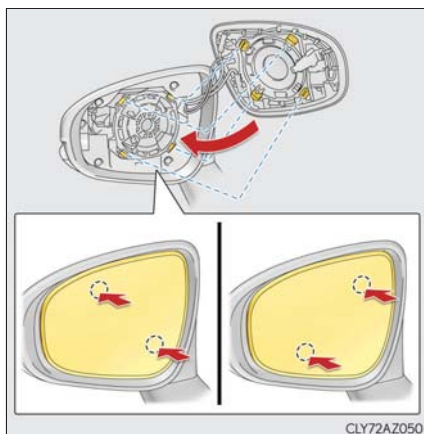


- 12** ツメの位置を合わせ、対角の 2 か所ずつ順番に鏡面を押し込んで、ミラーを固定する

必ず図の順序で 2 か所を同時に押し込み、パチッと音がしてツメが固定されたことを確認してください。

音が確認できないときは、無理に押し込まずにいったんミラーをはずして、ツメの位置が合っているか確認してください。

ミラーを固定したあと、ミラーのカバー下部に貼り付けた保護テープをはがしてください。



■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- 車幅灯／LED デイライト
- フロント方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 尾灯／制動灯
- 後退灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- リヤフォグランプ ★
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯



知識

■ LED ランプについて

フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）とドアミラー照明以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯を交換するとき（バルブタイプ）

ウォッシャー液が多く入っているときは、ウォッシャー液注入口を取りはずした際にウォッシャー液がこぼれ、お車の清掃が必要になる場合があります。

■ 電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 344

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■電球を交換するとき**

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

 注意**■ドアミラー照明を交換するとき**

工具・体がフロントドアガラスにあたって作業しづらい場合は、ドアガラスを開けて作業スペースを広げてください。無理に作業すると、車両に傷が付く原因になります。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは	356
非常点滅灯 （ハザードランプ）	357
発炎筒	358
車両を緊急停止するには	360

7-2. 緊急時の対処法

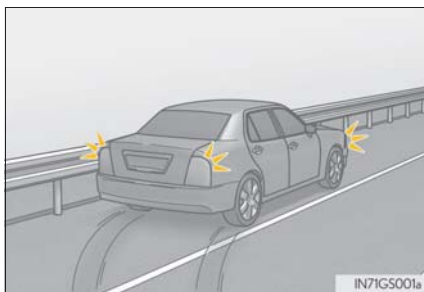
けん引について	361
フューエルポンプ シャットオフシステム	367
警告灯がついたときは	368
警告メッセージが 表示されたときは	374
パンクしたときは （タイヤパンク 応急修理キット装着車）	398
パンクしたときは （応急用タイヤ装着車）	412
パンクしたときは （ランフラットタイヤ 装着車）	423
エンジンが かからないときは	425
電子キーが 正常に働かないときは	427
バッテリーが あがったときは	430
オーバーヒートしたときは	434
スタックしたときは	439

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 357）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m 以上後方に発炎筒（→ P. 358）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

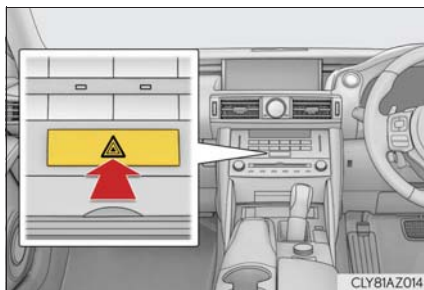


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



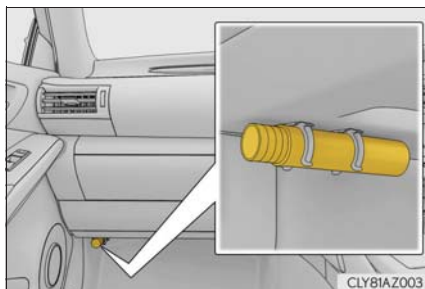
■ 非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

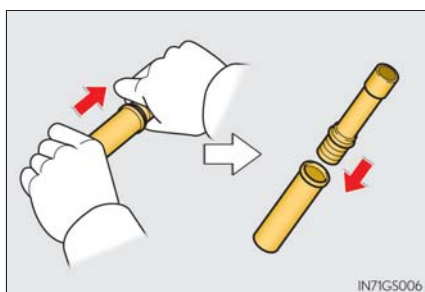
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

- 1** 助手席足元の発炎筒を取り出す

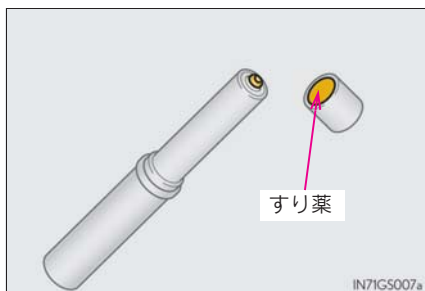


- 2** 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3** 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けてください。





■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付いたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
 - 2 シフトレバーを N に入れる
▶ シフトレバーが N に入った場合
 - 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
 - 4 エンジンを停止する
▶ シフトレバーが N に入らない場合
 - 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
 - 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する
- 

2 秒以上押すまたは
3 回以上連続で押す

CLY81BX003
- 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

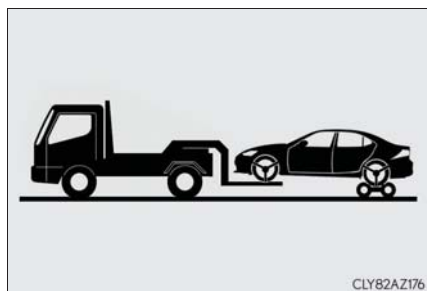
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

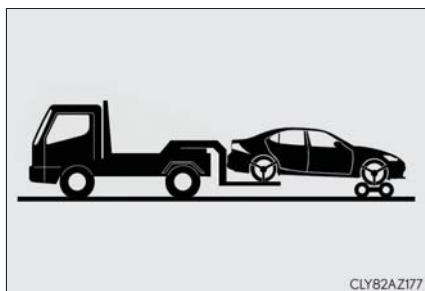
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

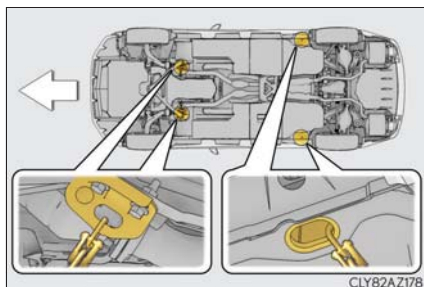
▶ うしろ向きにけん引するときは



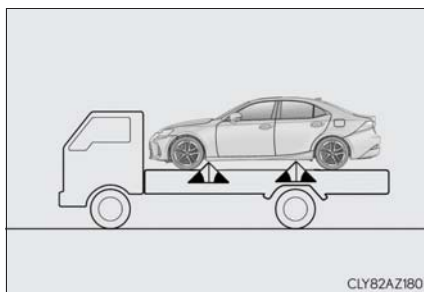
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する

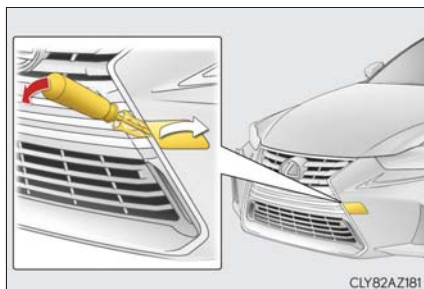


他車にけん引してもらうとき

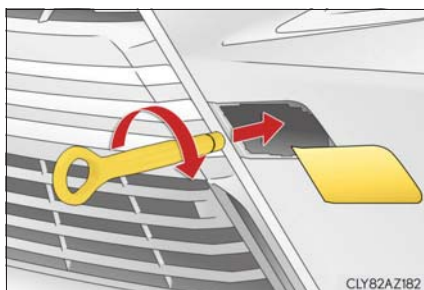
1 けん引フックを取り出す (→ P. 400, 413)

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

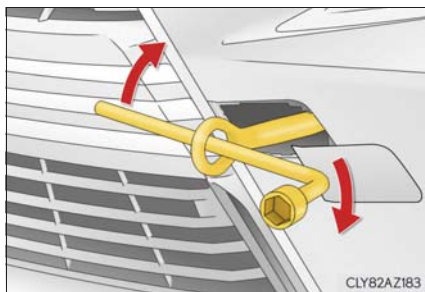
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4** ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



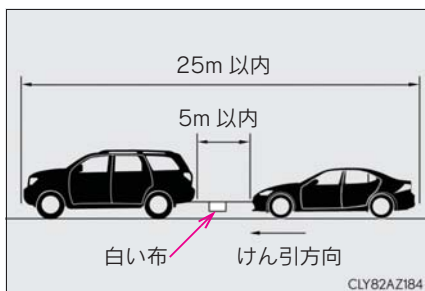
- 5** 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6** ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



- 7** 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

- 8** けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P. 176

 知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。(→P. 400, 413)

■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するとき
に固定するためのものです。他車に引っ張り出
してもらったり、他車をけん引したりするこ
とはできません。



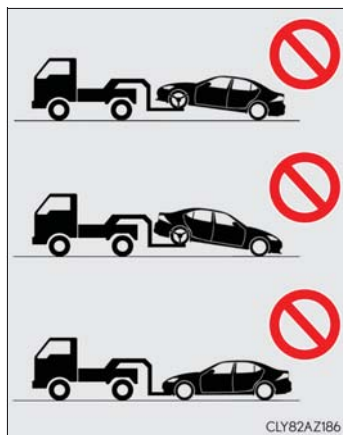
警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。

**■ 他車にけん引してもらうときの運転について**

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意

■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やポート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効が悪くなるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■ Stop & Start システム装着車をけん引するときは

システム保護のため、けん引をされる前にいったんエンジンスイッチを OFF にし、再度エンジン始動をしてから車両を移動してください。エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1** エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にする
- 2** エンジンを再始動する



注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯 ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	充電警告灯★ 充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。
	エンジン警告灯 ・ エンジンの異常 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
	パーキングブレーキ警告灯（警告ブザー ※1） パーキングブレーキがかかっているとき → パーキングブレーキを解除する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
	LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯 警告灯が点灯した場合： LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージを確認してください。（→ P. 374） 警告灯が点滅した場合： LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）による車線逸脱警報 → 周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどしてください。
	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯 警告灯が点滅した場合（ブザーあり）： プリクラッシュセーフティシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。 警告灯が点滅した場合（ブザーなし）： 次の原因などによりプリクラッシュセーフティシステムが一時的停止している可能性があります。 ・ 前方センサー周辺に汚れや付着物がある → 汚れや付着物を取り除いてください。（→ P. 200, 201） ・ 前方センサーが作動条件範囲外（温度など） → 走行は可能です。（温度など）作動条件を満たせば、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能になります。 警告灯が点灯した場合： VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムまたはプリクラッシュセーフティシステム、もしくは両方が OFF になっています。 → VSC システムとプリクラッシュセーフティシステムを ON にすると、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能になります。（→ P. 207, 273）
	スリップ表示灯 ・ VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ・ TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC/TRC システム作動時は点滅します。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (点滅)	Stop & Start キャンセル表示灯★ Stop & Start システムの異常 (Stop & Start システム非作動時は点灯します。→ P. 237) → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
	半ドア警告灯 (警告ブザー ※2) いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない → 全ドアおよびトランクを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 10L 以下になった → 燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー ※3) 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P. 374
	タイヤ空気圧警告灯 警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ・ 自然要因 (→ P. 371) ・ タイヤのパンク (→ P. 398, 412, 423) → 指定された空気圧に調整してください。調整して数分後に警告灯が消灯します。空気圧を調整しても警告灯が消灯しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。 警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムに異常があります。 → レクサス販売店で点検を受けてください。

※1 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：

→ P. 378

※2 半ドア走行時警告ブザー：

→ P. 376

※3 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■ 応急用タイヤ★に交換した場合

応急用タイヤには空気圧バルブ／送信機は装備されていません。タイヤがパンクした場合、応急用タイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→ P. 333

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき**

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▶ 応急用タイヤ装着車・タイヤパンク応急修理キット装着車

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合はタイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合は応急用タイヤに交換するか、タイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。
- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

▶ ランフラットタイヤ装着車

- 周囲の交通状況にあわせ、できるだけ速やかに減速し、60 km/h をこえない速度で走行してください。
- ただちにタイヤ空気圧を確認・調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。
- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■ タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

**注意****■ タイヤ空気圧警報システムについての注意**

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作（→ P. 331）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

▶ F SPORT 以外



▶ F SPORT (メーターリング中央時)



▶ F SPORT (メーターリング移動時)



① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ・警告ブザー一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキが作動している（プリクラッシュセーフティシステム） 警告ブザーが鳴ります。 → ブレーキで減速する操作などで衝突を回避してください
エンジン停止 Pレンジに入れてください  （点滅）	シフトレバーが P 以外のときにエンジンを停止した 警告ブザーが鳴ります。 → シフトレバーを P にする
エンジンが停止 安全な場所に 停車してください  （点滅）	走行中にエンジンが停止した 警告ブザーが鳴ります。 → 路肩など安全な場所に停車する
	（レーダークルーズコントロールの車間制御中）衝突の危険性 警告ブザーが鳴ります。 → ブレーキで減速する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  (点滅)	LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) による車線逸脱警報 車両が車線から逸脱すると、逸脱している側の表示が黄色で点滅します。 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす
故障のため ブレーキ力が低下 安全な場所に停車して 取扱書を確認   (点滅)	ブレーキ液の不足 ブレーキ系統の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 	ドアが確実に閉まっていない 開いているドアが表示されます。 全ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえると  が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 → 開いているドアを閉める
	ボンネットが確実に閉まっていない ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえると  が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 → ボンネットを閉める

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	トランクが確実に閉まっていない トランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5km/hをこえると  が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 → トランクを閉める
クリアランスソナー故障 	クリアランスソナー★の異常 すべてのソナーが点滅して表示されます。 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
ソナーの汚れを 除去してください 	クリアランスソナー★のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。 → 汚れおよび氷などを取り除く
故障のため ハンドルが重くなります 販売店で点検してください 電源異常のため ハンドルが重くなります 販売店で点検してください EPS故障 販売店で点検してください  	パワーステアリングシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
パーキングブレーキを 解除してください  (点滅)	パーキングブレーキをかけたまま車速が5km/hをこえた 警告ブザーが鳴ります。 → パーキングブレーキを解除する
 アクセルを 戻してください  (点滅) (IS200t)	アクセルペダルを踏みながらシフトレバーを動かし、 ドライブスタートコントロールが作動した 警告ブザーが鳴ります。 → 一度アクセルペダルから足を離す
滑りやすい路面のため ダウンシフトできません 	すべりやすい路面でシフトレバーを M にしてギヤ段 を 1 にした ギヤ段は 2 のままシフトダウンしません。 警告ブザーが鳴ります。 → ギヤ段を 2 以上にして走行する
 LDA ハンドルを 保持してください	LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング 制御機能付き]）操舵支援「有」中にシステムが手放し 運転と判断 → ハンドルをしっかりと持ちなおしてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
LDA操舵支援停止 ハンドルを 保持してください 	LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）操舵支援「有」中にシステムが手放し運転と判断したため、操舵支援が一時停止 → ハンドルをしっかりと持ちなおしてください
エンジン故障 販売店で点検してください  	エンジンの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
エンジン保護のため 出力低下 販売店で点検してください  	エンジンの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
SRSエアバッグ故障 販売店で点検してください  	SRS エアバッグの異常 シートベルトプリテンショナーの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
ABS故障 販売店で点検してください 	ABS の異常 ブレーキアシストの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください 	エンジン冷却水が高温 警告ブザーが鳴ります。 → P. 434
 充電システム故障 取扱書を確認してください  (F SPORT)	充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。
クルーズコントロール 使用不可 レーダーの汚れを 取ってください 	レーダークルーズコントロールのセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。 → 汚れおよび氷などを取り除く

警告メッセージ	警告内容・対処方法
クルーズコントロール 現在使用できません 	レーダークルーズコントロールのシステムが一時的に使用不可と判断した 警告ブザーが鳴ります。 → しばらく走行してからレーダークルーズコントロールを再度設定してください。
スマートエントリー& スタートシステム故障 取扱書を確認 	スマートエントリー & スタートシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
BSM 現在使用できません 	BSM（ブラインドスポットモニター）★のセンサー周辺のバンパーの汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。 → 汚れ、雪、氷などを取り除き、BSM 機能の作動条件（→ P. 251）でしばらく走行してください。（目安：約 10 分） しばらく走行しても警告メッセージが消えない場合は、センサーの位置や向きがずれている可能性があるため、レクサス販売店で点検を受けてください。
クルーズコントロール故障 販売店で点検してください 	レーダークルーズコントロールシステムの異常 ON/OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
LDA故障 販売店で 点検してください 	LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
前方カメラシステム 一時利用不可 少々お待ちください  (点滅)	カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされていない → カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされると、次のシステムが使用可能になります。 ・ PCS（プリクラッシュセーフティシステム） ・ LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]） ・ オートマチックハイビーム
LDA現在利用できません 	カメラセンサー以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止している 警告ブザーが鳴ります。 → いったんLDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）を OFF にし、しばらくしてから再度 LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）を ON にしてください
前方カメラシステム 利用不可 フロントガラス汚れを 取ってください  (点滅)	カメラセンサーの前のフロントウインドウガラスの汚れ・雨滴・結露・氷雪などが付着している 次のシステムが一時的に使用できなくなります。 ・ PCS（プリクラッシュセーフティシステム） ・ LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]） ・ オートマチックハイビーム → いったんシステムを OFF にして、汚れ・雨滴・結露・氷雪などを取り除いてから、再度システムを ON にしてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
プリクラッシュセーフティ 故障 販売店で点検してください   (点滅)	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
BSM 故障 販売店で点検してください 	BSM（ブラインドスポットモニター）★の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
 エンジン油圧不足 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください 	エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。
ATオイル高温 取扱書を確認してください 	オートマチックトランスミッションフルードの過熱 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
VGRS 故障 販売店で 点検してください 	VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）★の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
DRS 故障 販売店で 点検してください 	DRS（ダイナミックリヤステアリング）★の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
ポップアップフード作動 販売店で 点検してください 	ポップアップフードが作動した 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
ポップアップフード故障 販売店で 点検してください 	ポップアップフードシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
LDA 約50km/h以下で 使用できません	車速が約 50km/h 以下のため、LDA（レーンディパー チャーアラート [ステアリング制御機能付き]）が使用 できない → 50km/h より速い車速で走行する
LDA 現在の車速では 使用できません	車速が LDA（レーンディパーチャーアラート [ステア リング制御機能付き]）の作動可能範囲を超えたため、 使用できない → 車速を落として走行する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
アイドリングストップ故障 販売店で点検してください 	Stop & Start システム★の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
エンジン停止のため ハンドルが重くなります  	走行中にエンジンが停止した 警告ブザーが鳴ります。 → 通常より力を入れてハンドルを操作する
ライトが点灯しています  (点滅)	ヘッドランプ・尾灯点灯時に運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。 → ヘッドランプ・尾灯を消灯する
ムーンルーフが 開いています  (点滅)	ムーンルーフ★が確実に閉まっていない状態でエンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。 → ムーンルーフを閉める
窓が開いています  (点滅)	ドアガラスが確実に閉まっていない状態でエンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。 → ドアガラスを閉める

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
窓・ムーンルーフが 開いています  (点滅)	ドアガラス・ムーンルーフ★が確実に閉まっていない状態でエンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。 → ドアガラス・ムーンルーフを閉める
 ドライブスタート コントロール故障 販売店で 点検してください  (IS200t)	ドライブスタートコントロールの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
 ブレーキオーバーライド システム故障 販売店で 点検してください 	ブレーキオーバーライドシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
エンジンオイル量不足 補充するか、 交換してください	エンジンオイルの不足 傾斜路などに停車したとき表示される場合があります。水平な路面に移動し、警告メッセージが表示されるか確認ください。 → エンジンオイル量を点検し、オイルを補給する
ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください 	ヘッドランブレベリングシステムの異常 AHB（オートマチックハイビーム）の異常 LED ヘッドランプの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
 アクセルとブレーキが 両方踏まれています  (点滅)	アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれている → アクセルペダル、またはブレーキペダルから足を離す
タイヤ空気圧 [kPa] 250 180 250 250  	タイヤ空気圧の低下 → タイヤ空気圧を点検・調整する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
タイヤ空気圧  	タイヤ空気圧警告システムの異常 → 安全な場所に停車し再度イグニッション ON モードにする。 タイヤ空気圧警告灯が1分間点滅し、その後点灯した場合はシステム異常です。レクサス販売店で点検を受けてください。
タイヤ空気圧 [kPa] 	タイヤ位置の情報が電波状況などにより認識できていない → しばらく走行して表示が更新されるか確認する。 電波状況などが改善されると、通常の表示にもどる場合があります。数分走行しても空気圧が表示されない場合は、安全な場所に停車し、エンジンスイッチを一度 OFF にしてから再度、走行してください。 数回くり返しても空気圧が表示されない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。
ウォッシャー液を 補充してください	ウォッシャー液が残りわずか → ウォッシャー液を補充する
給油してください 	燃料の残量が約 10L 以下になった → 燃料を補給する
 路面凍結の恐れあり 走行注意	外気温が約 3℃ 以下になった 警告ブザーが鳴ります。 → 路面が凍結しているおそれがあるため、気を付けて運転する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	TRC(トラクションコントロール)がOFFになっている → TRC を ON にする (→ P. 272)
	ヘッドランプがロービームの状態オートマチックハイビームスイッチを押した → ヘッドランプをハイビームに切りかえてから、オートマチックハイビームスイッチを押す
	プリクラッシュブレーキおよびプリクラッシュブレーキアシストが現在機能していない(衝突警報は作動します) → VSC を ON にする (→ P. 273)
(点滅)	PCS(プリクラッシュセーフティシステム)の一時停止 → 状況が改善されると作動可能状態になります。表示されたままのときは、レクサス販売店で点検を受けてください。
(点滅)	電力消費が大きいため、エアコンやシートヒーター★などの作動を一時制限した → 不要な電装品をオフにし、電力消費を控えてください。電源状態が復帰するまでしばらくお待ちください。ひんぱんに表示されるときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
プリクラッシュセーフティ 一時利用不可 少々お待ちください  (点滅)	PCS (プリクラッシュセーフティシステム) の一時停止 → 状況が改善されると作動可能状態になります。表示されたままのときは、レクサス販売店で点検を受けてください。
プリクラッシュセーフティ 利用不可 レーダー汚れを 取ってください  (点滅)	PCS (プリクラッシュセーフティシステム) のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 → 汚れおよび氷などを取り除く



知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージについて

次のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常に低速で走行しているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

■ LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）の車線逸脱警報について

次のような場合は、白（黄）線をまたいても警告メッセージが表示されません。

- LDA の作動条件以外の車速のとき（→ P. 219）
- 白（黄）線を認識できていないとき（→ P. 221）

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 333

■ 警告ブザーについて

→ P. 371

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音	なし	駐車時はPレンジに入れてください  (点滅)	シフトレバーが P 以外の状態でエンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた → シフトレバーを P にする
連続音	連続音	駐車時はPレンジに入れてください キーが見つかりません キーの所在を確認してください (交互に表示)  (点滅)	シフトレバーが P 以外の状態でエンジンスイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → シフトレバーを P にする → 電子キーを車内にもどす
1 回	なし	キーが見つかりません キーの所在を確認してください	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンを始動しようとした → 電子キーを携帯してエンジンを始動する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	連続音	電源をOffしてください キーが見つかりません キーの所在を 確認してください (交互に表示)  (点滅)	シフトレバーが P の状態でエンジンスイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした → エンジンスイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1 回	3 回	キーが見つかりません キーの所在を 確認してください	エンジンスイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した → 電子キーを車内にもどす シフトレバーが P の状態でエンジンスイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → エンジンスイッチを OFF にする → 電子キーを車内にもどす
9 回	なし	キーが見つかりません キーの所在を 確認してください	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた → 車室内に電子キーがあるか確認する
なし	連続音	車室内にキーがあります	車内に電子キーを置いたままスマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした → 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	連続音	車室内にキーがあります	車内に電子キーを置いたままフロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした → 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
1 回	なし	キーの電池残量が 少なくなっています 電池を交換してください	電子キーの電池残量が少ない → 新しい電池と交換する (→ P. 341)
1 回	なし	ハンドルを左右に 回しながら エンジンスイッチを 押してください  (点滅)	エンジンスイッチを押してから約3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった → ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを押す
1 回	なし	ブレーキを踏みながら キーでエンジンスイッチに 触れてください	・ メカニカルキーで解錠してエンジンスイッチを押したとき車室内でキーを検出できなかった ・ エンジンスイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが2 回連続で続いた → ブレーキを踏みながら電子キーでエンジンスイッチにふれる

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	 始動時は ブレーキを踏みながら エンジンスイッチを 押してください	電子キーが正常に働かないときのエンジンの始動の方法（→ P. 428）でエンジンスイッチに電子キーをふれた → ブザーが鳴ってからブレーキを踏んでエンジンスイッチを押す
なし	なし	始動時は ブレーキを踏みながら エンジンスイッチを 押してください	・ エンジンスイッチが OFF の状態でドアロックを解錠し、運転席のドアを開閉した ・ エンジンを始動せずにエンジンスイッチをアクセサリモードにした ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときに、シフトレバーを P または N 以外から P または N にした → ブレーキを踏んでエンジンスイッチを押す
1 回	なし	駐車時はPレンジに 入れてください  (点滅)	シフトレバーが P または N 以外の状態でエンジンスイッチを OFF にした → シフトレバーを P にする
1 回	なし	電源をOffしてください  (点滅)	シフトレバーが P 以外でエンジンスイッチを OFF にしたあとシフトレバーを P にした → エンジンスイッチを OFF にする

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
なし	なし	バッテリー保護のため 自動で電源を Offしました	自動電源 OFF 機能が作動した → 次回エンジン始動時にエンジン 回転数を少し高めにし、約 5 分 間その回転数を保持しバッテ リーを充電する
連続音	なし	再始動時は N レンジにして エンジンスイッチを 押してください  (点滅)	走行中にエンジンを緊急停止させ た → エンジンを再始動させる場合 は、シフトレバーを N にし、エ ンジンスイッチを押す※
1 回	なし	エンジンスイッチを 押し続けると エンジンが 非常停止します  (点滅)	走行中にエンジンスイッチを押し た → エンジンを緊急停止させるとき 以外は、すみやかにエンジンス イッチから手を離す

※ 車両の状態により、エンジンが再始動できない場合があります。



■ 警告メッセージについて

→ P. 391

■ 警告ブザーについて

→ P. 371

パンクしたときは (タイヤパンク応急修理キット装着車)

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です)

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■ パンクしたままの走行について

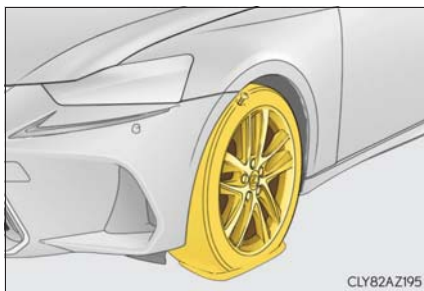
タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→ P. 357)
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

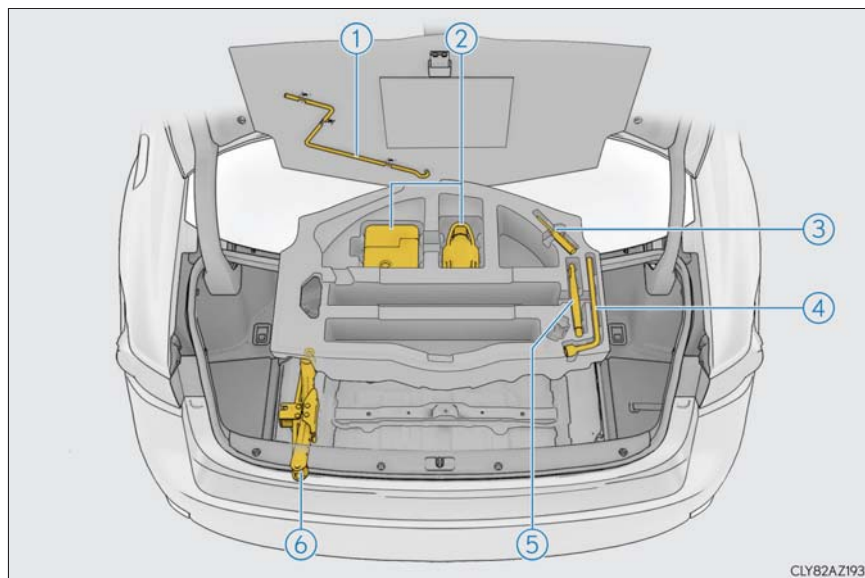


知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

① ジャッキハンドル

② タイヤパンク応急修理キット

③ ドライバー

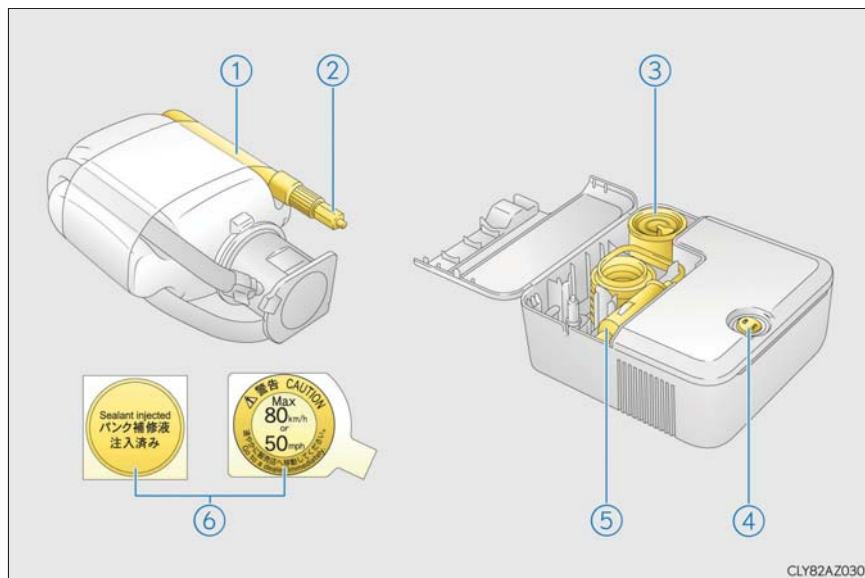
④ ホイールナットレンチ

⑤ けん引フック

⑥ ジャッキ※

※ ジャッキの使い方 (→ P. 417)

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

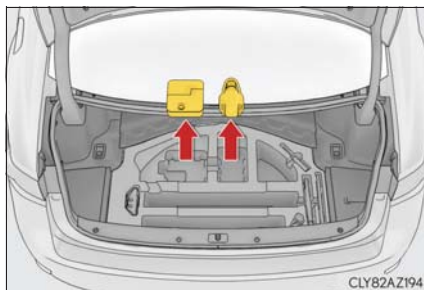


CLY82AZ030

- | | |
|-------------|----------|
| ① ホース | ④ 電源スイッチ |
| ② 空気逃がしキャップ | ⑤ 電源プラグ |
| ③ 空気圧計 | ⑥ ラベル |

応急修理キットの取り出し方

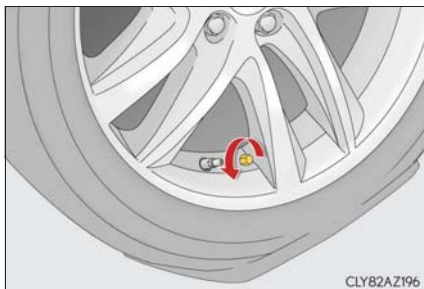
- 1 ラゲージマットを取りはずす (→ P. 310)
- 2 応急修理キットを取り出す



CLY82AZ194

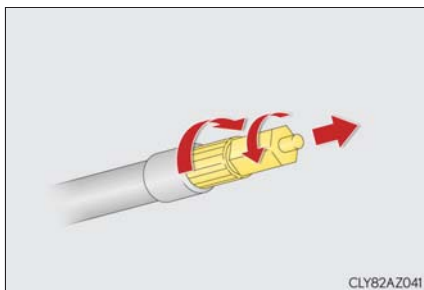
応急修理するとき

- 1 応急修理キットを取り出す
- 2 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



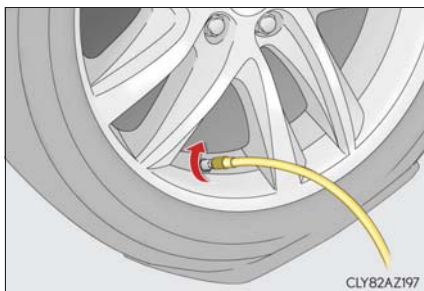
- 3 ボトルの保護フィルムをはがし
ホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がし
キャップを取りはずす

ボトルに同封されているパンク補修液
注入済ラベルは指定の位置へ貼り付け
ます。(9へ) 空気逃がしキャップは
再度使用するため、なくさないように
保管してください。

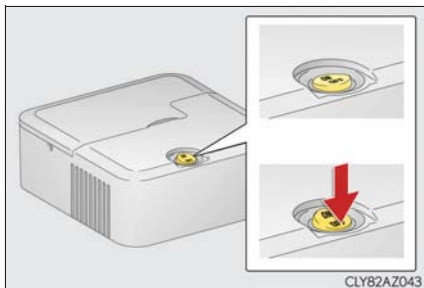


- 4 ボトルのホースをパンクしたタイ
ヤのバルブに接続する

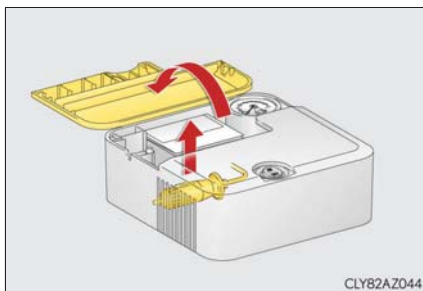
ホース先端を時計まわりにまわして
しっかりと最後までねじ込む。



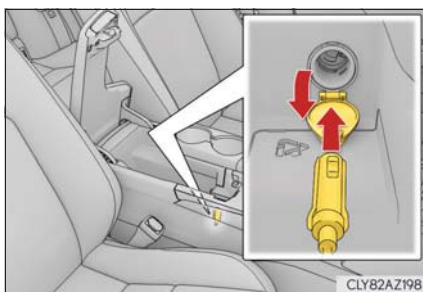
- 5 コンプレッサーのスイッチが OFF
であることを確認する



- 6** フタを開けてコンプレッサーの電源プラグをはずす



- 7** コンプレッサーの電源プラグをアクセサリースOCKETに挿し込む
(→P. 313)

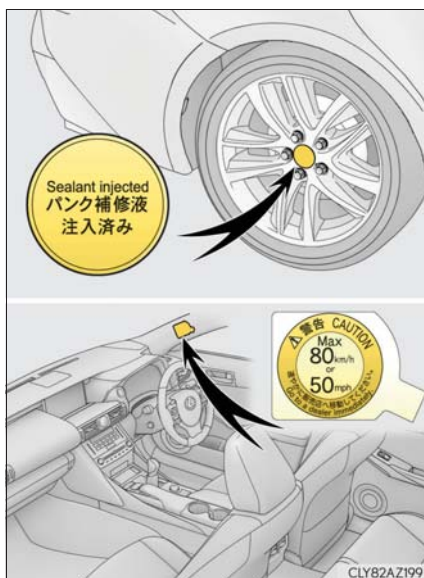


- 8** 速度制限ラベルをはがす



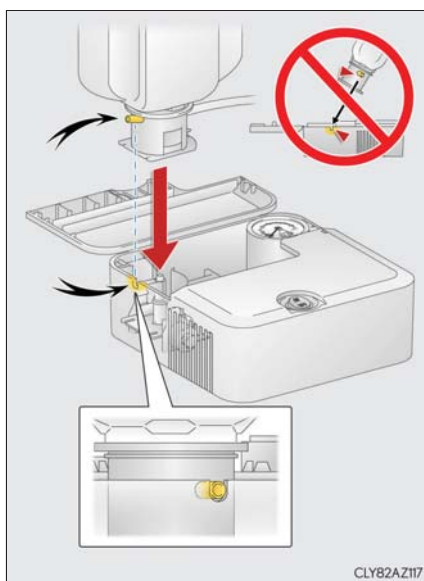
- 9** 付属のラベル2枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、レクサス販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

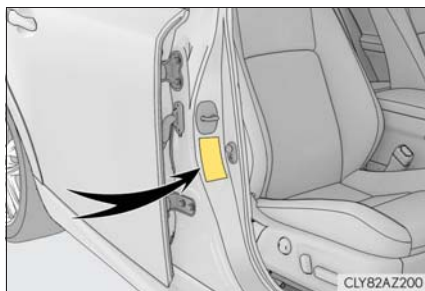


- 10** ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。

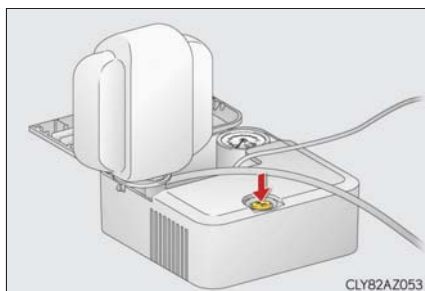


- 11** タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 447)



- 12** エンジンを始動する

- 13** コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

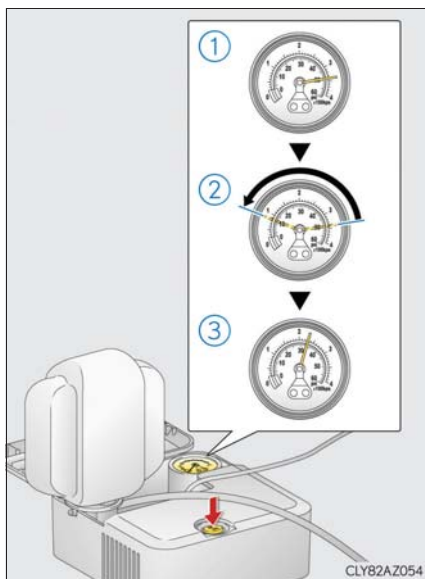


- 14** 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

- ① スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する
- ② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる
- ③ 指定空気圧になるまで充填する
空気圧は、コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→P. 409, 447)



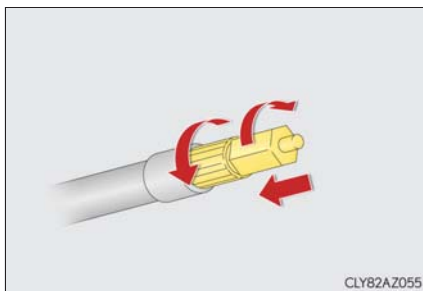
- 15** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリースOCKETから電源プラグを抜く
バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

- 16** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

- 17** ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

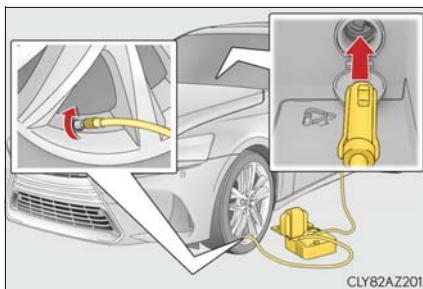
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。



- 18** いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

- 19** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5 km、安全に走行する（速度 80 km/h 以下）

- 20** 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する

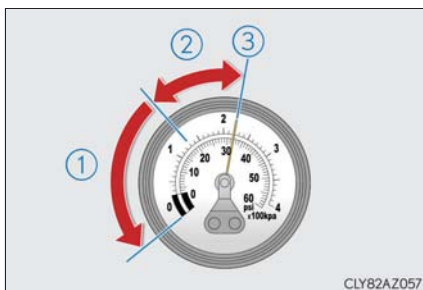


- 21** コンプレッサーのスイッチを約5秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する

- ① 空気圧が 130 kpa (1.3 kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- ② 空気圧が 130 kpa (1.3 kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合： **22** へ

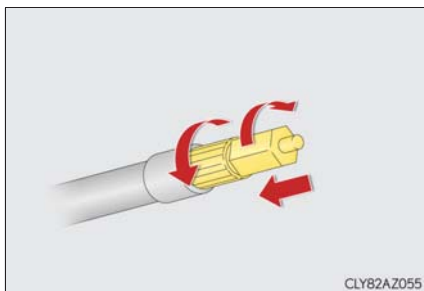
- ③ 空気圧が指定空気圧（→P. 447）の場合： **23** へ



22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5 km 走行後にあらためて **20** から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲジルームに収納します

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80 km/h 以下で運転してレクサス販売店へ行きます

タイヤの修理・交換についてはレクサス販売店にご相談ください。



知識

■ 応急（パンク）修理キットを使用したとき

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ / 送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■ 応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

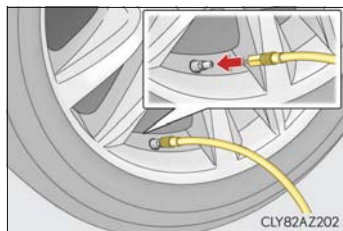
有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。
- 応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。
- 外気温度が - 30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、応急修理キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

⚠ 警告

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

 警告**■パンクしたタイヤを応急修理するとき**

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。10 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・空気圧を確認してください。130kPa (1.3 kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

**注意****■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ほこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ほこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 329 を参照してください）

警告

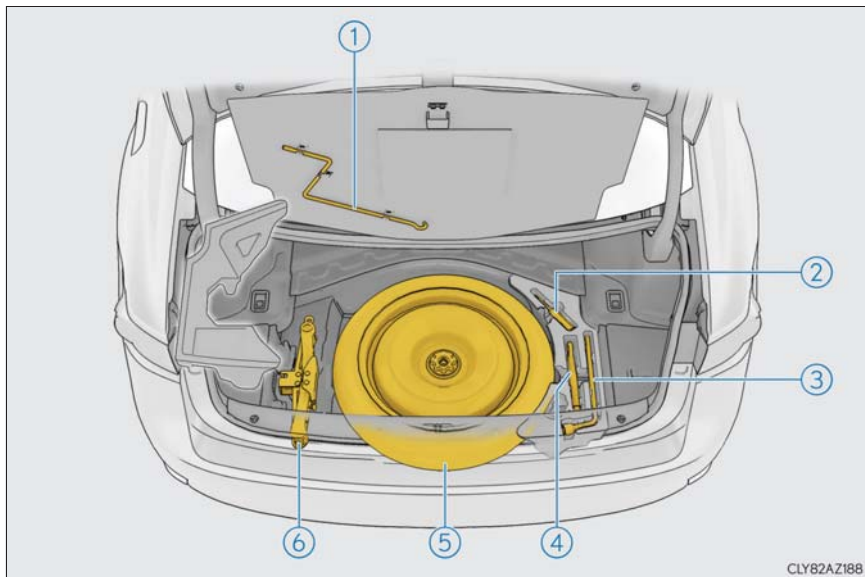
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 357）

工具とジャッキの位置

① ジャッキハンドル

② ドライバー

③ ホイールナットレンチ

④ けん引フック

⑤ 応急用タイヤ

⑥ ジャッキ

 警告**■ ジャッキの使用について**

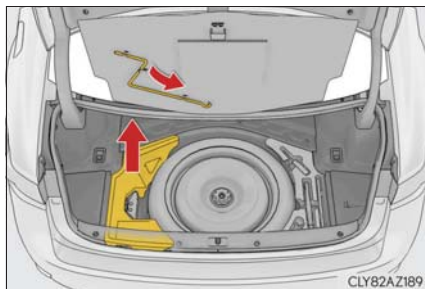
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

- 1 ラゲージマットを取りはずす
- 2 ジャッキハンドルをラゲージマットの裏から取りはずす
スパーサーを取り出す

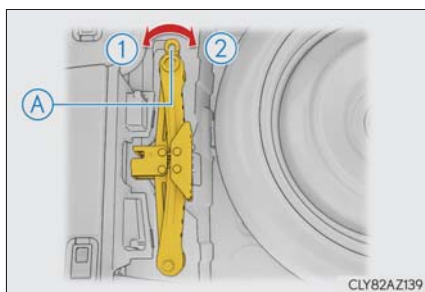


- 3 ジャッキをゆるめて取りはずす

- ① 締まる
- ② ゆるむ

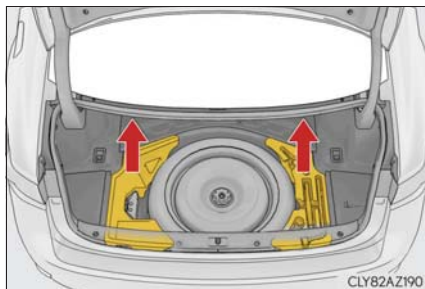
ジャッキの締め付けが固く、ゆるめることができないときは、ジャッキのA部の穴に車載のドライバーなどを挿入してゆるめてください。

ジャッキを収納するときは、ジャッキを締めてトレイへ押し付けてください。



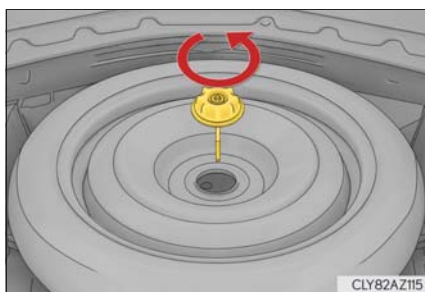
応急用タイヤの取り出し方

- 1 ラゲージマットを取りはずす
- 2 スペースとツールボックスを取りはずす



- 3 留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す

スペアタイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のホイールナットレンチを使用してください。(タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください)



警告

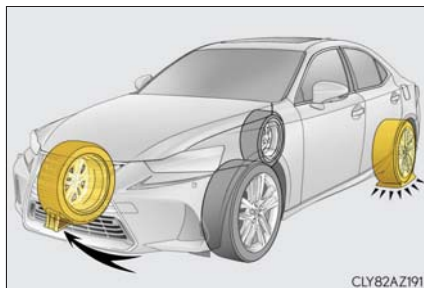
■ 応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

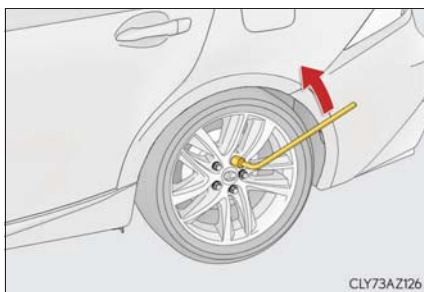
1 輪止め※ をする

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

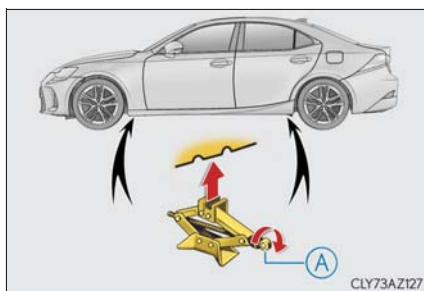


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

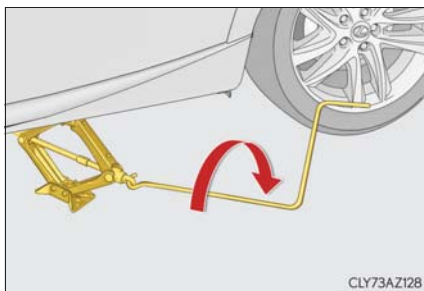
2 ナットを少し (約 1 回転) ゆるめる



3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

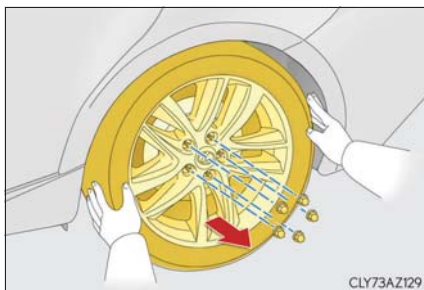


- 4** タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 5** ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

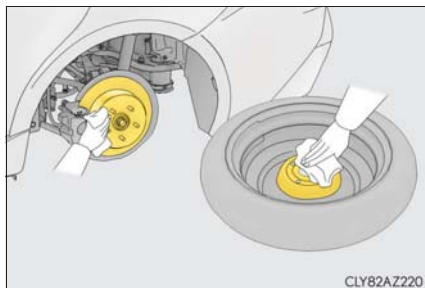
■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに 103N・m (1050kgf・cm) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

応急用タイヤの取り付け

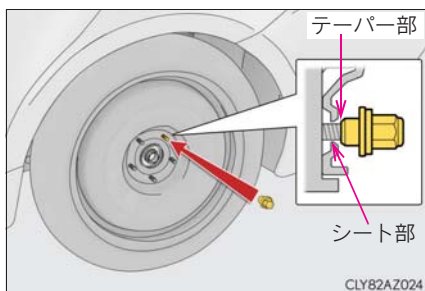
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

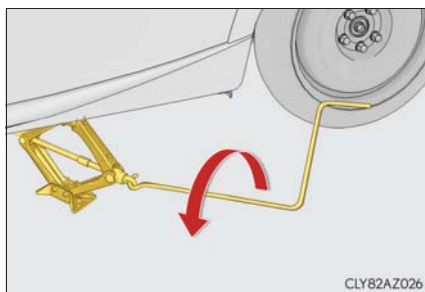


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

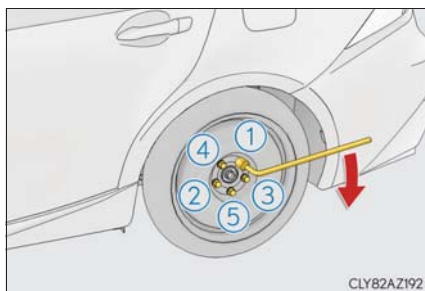


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m (1050kgf・cm)



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する



知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→ P. 447)

■ 応急用タイヤを使用するとき

応急用タイヤにはタイヤ空気圧バルブ送信機が装着されていません。指定の通常タイヤに交換し、正しい空気圧に調整するまではタイヤ空気圧警告灯は消灯しません。

■ 応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■ 雪道・凍結路で後輪がパンクしたとき（前後のタイヤサイズが異なる車両を除く）

- 1 前輪を応急用タイヤに交換する
- 2 パンクした後輪をはずした前輪に交換する
- 3 タイヤチェーンを後輪に装着する

 警告
■ 応急用タイヤを使用するとき

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■ 応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があります、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- | | |
|------------------------------------|------------------|
| ・ ABS | ・ LDH ★ |
| ・ ブレーキアシスト | ・ TRC |
| ・ VSC | ・ VDIM |
| ・ LDA | ・ PCS |
| （レーンディパーチャーアラート
[ステアリング制御機能付き]） | ・ GPS ボイスナビゲーション |
| ・ NAVI・AI-AVS ★ | ・ タイヤ空気圧警報システム |
| ・ レーダークルーズコントロール | ・ EPS |
| ・ VGRS ★ | ・ バックガイドモニター |
| ・ DRS ★ | ・ クリアランスソナー★ |

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80 km/h 以上の速度で走行しないでください。応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**注意****■ 応急用タイヤ装着中の注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が変化します。段差を乗り越えるときは注意してください。

■ タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

■ タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

→ P. 336

パンクしたときは（ランフラットタイヤ装着車）

ランフラットタイヤ装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。ランフラットタイヤは、パンクした場合でもしばらくは走行可能です。パンクしたときは、なるべく速度を落とし、慎重に運転してください。（タイヤについての詳しい説明は P. 329 を参照してください）

ランフラットタイヤがパンクしたときは、次の点に注意して走行し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。

- 60 km/h 以下で走行する
- 急ハンドル・急ブレーキを避ける
- 300 km 以上走行しない



知識

■ 高温時などは

300 km まで走行できない場合があります。

■ ランフラットタイヤについて

→ P. 330

■ タイヤを交換するときは

→ P. 417

**注意****■ タイヤを交換するときは**

最寄りのレクサス販売店で交換してください。タイヤ交換の際、タイヤ空気圧警報用のバルブと送信機に影響が出るおそれがあります。

■ 段差を乗り越えるときは

タイヤがパンクしているときは、通常にくらべ車高が低くなっているので、注意してください。

■ 液体のパンク補修剤の使用禁止

お使いになると、空気圧バルブ／送信機が損傷するおそれがあります。

■ パンクしたタイヤの再利用禁止

パンクしたタイヤを補修して使用しないでください。

■ 自動洗車機の使用禁止

タイヤがパンクした状態では、車が洗車機に引っかかり、損傷するおそれがあるため自動洗車機を使用しないでください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 166）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 166）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 58）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 430）

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 426）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 430）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1** パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2** シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3** エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4** ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンスイッチを約15秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 121）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

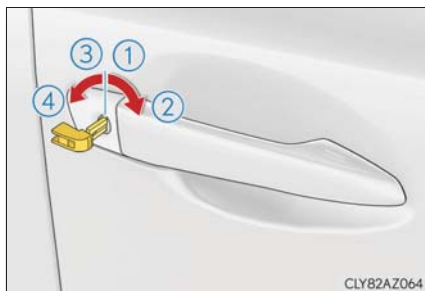
ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

■ ドア

メカニカルキー（→ P. 103）を使って次の操作ができます。

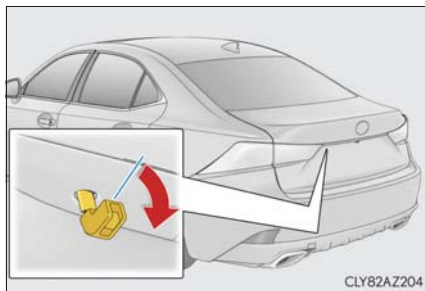
- ① 全ドア施錠
- ② ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※
- ③ 全ドア解錠
- ④ ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 449）



■ トランク

メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

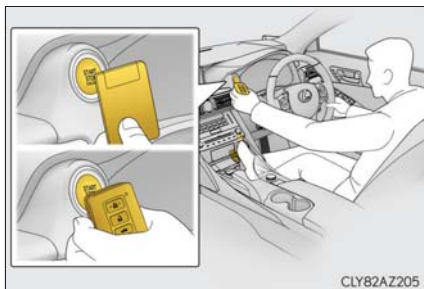
エンジン始動の方法

1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む

2 電子キーのレクサスエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する

4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。



知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 341)

■ モードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 **[3]** で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 167)

■ 電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→ P. 449)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→ P. 120)



警告

■ メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

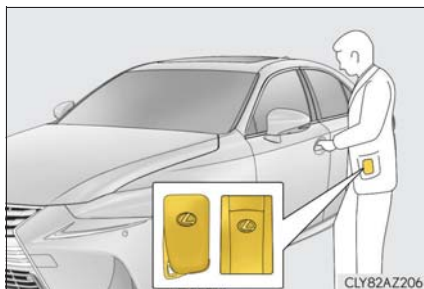
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 電子キーを携帯していることを確認する

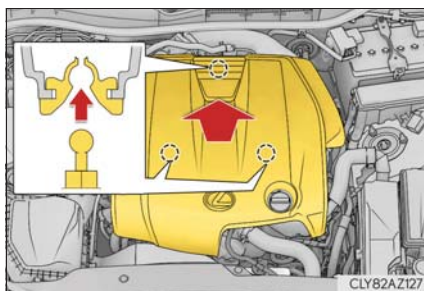
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P. 61)



- 2 ボンネットを開ける (→P. 325)

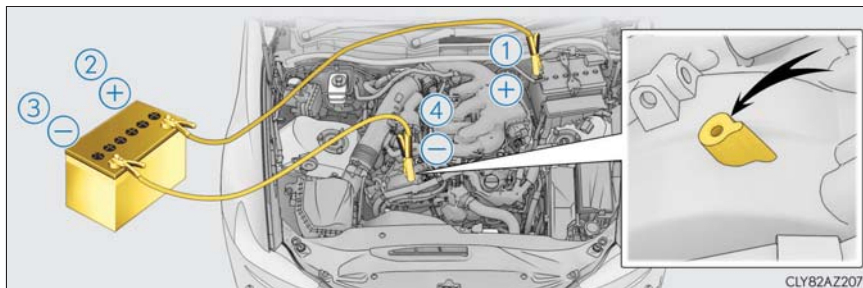
- 3 エンジンカバーをはずす (IS350)

後方のクリップをはずしてから、前方のクリップを持ち上げてはずす

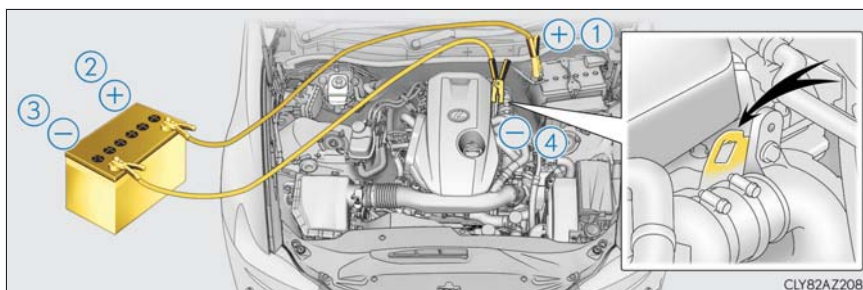


- 4** バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

▶ IS350



▶ IS200t



- ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ
- 5** 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車のバッテリーを充電する
- 6** エンジンスイッチがOFFの状態ですぐいずれかのドアを開閉する
- 7** 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんIGNITION ONモードにしてからエンジンを始動する
- 8** エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。



知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
(Stop & Start システム装着車は、システムによるエンジン停止中を除く)
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがあります。異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常に電源の状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。
バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。
- Stop & Start システム装着車：バッテリーがあがったあと、またはバッテリー端子をはずしたあとは、約 5 分～ 60 分間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

■ バッテリーを交換するときは (Stop & Start システム装着車)

装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。S-95 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

 警告**■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

 注意**■ ブースターケーブルの取扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P. 71）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

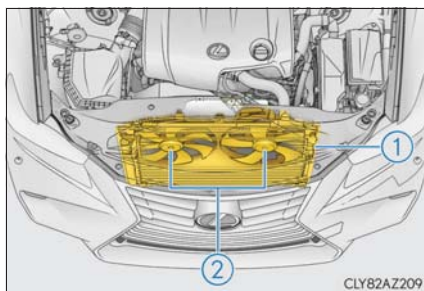
対処方法

- 1** 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
- 2** 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3** エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

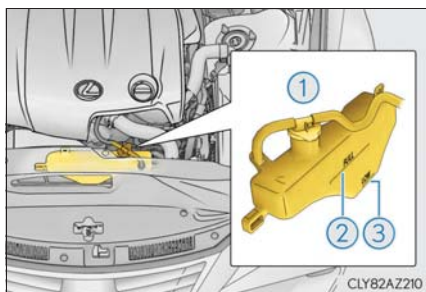
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。



4 エンジンクーラント：

冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

▶ IS350

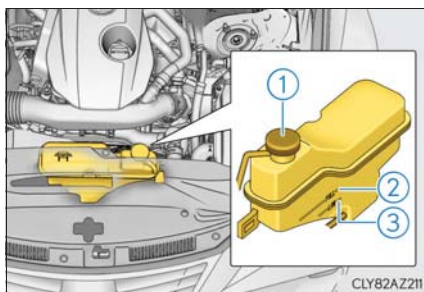


① リザーバータンク

② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）

▶ IS200t



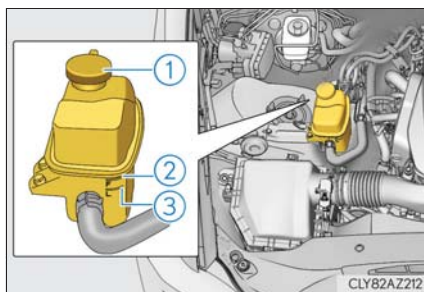
インタークーラークーラント（IS200t）：

冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

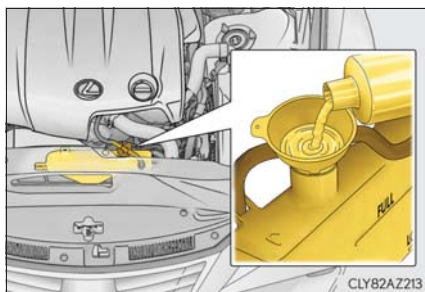
② “F”（上限）

③ “L”（下限）

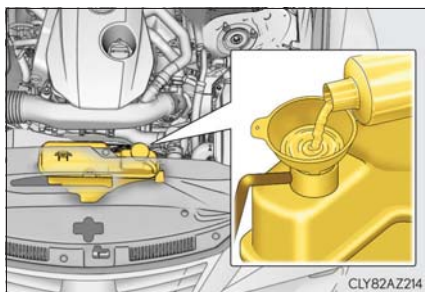


5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

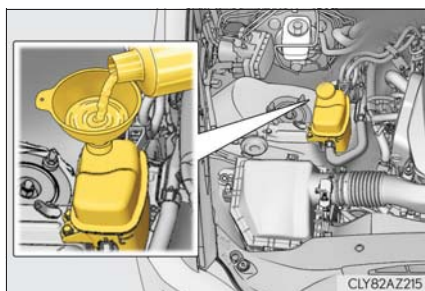
▶ エンジン (IS350)



▶ エンジン (IS200t)



▶ インタークーラー (IS200t)



冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

7 ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する

ファンが作動している場合：

最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

- 8** マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」表示を確認する

表示が消えていない場合：

すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する

表示が消えている場合：

最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

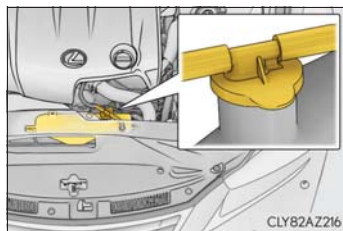
警告

■ エンジンルームを点検しているとき

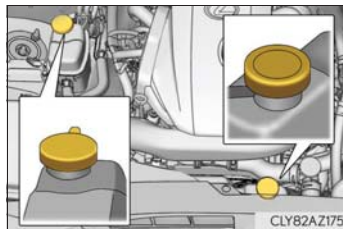
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- IS350：エンジンおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップやエンジンカバー内側のラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。



- IS200t：エンジンおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。



 注意**■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用する場合は、弊社純正品または同等品を使用する

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する
- 2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 後輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む



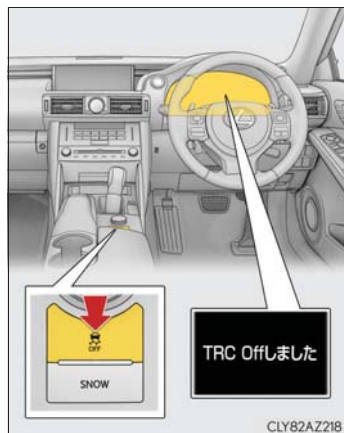
知識

■ 脱出しにくいとき

▶ Stop & Start システム非装着車



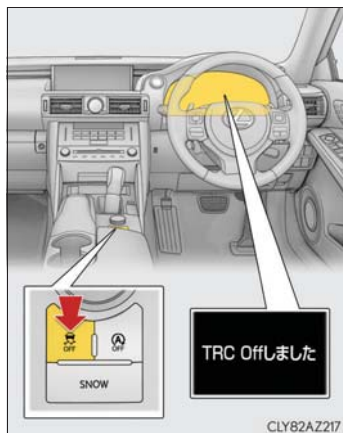
を押して TRC を OFF にしてください。



▶ Stop & Start システム装着車



を押して TRC を OFF にしてください。



警告

■ 脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報

8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	442
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	449
--------------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	456
------------------	-----

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	66

エンジンオイル

▶ IS350

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※1）	
	オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
弊社純正モーターオイル SN 0W-20※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	5.9	6.2

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

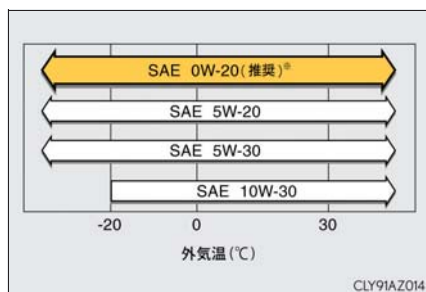
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または高負荷走行に適しています。

▶ IS200t

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※1)	
	オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
弊社純正モーターオイル ECO TURBO 0W-20※2 —SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SN 0W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	4.3	4.6

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

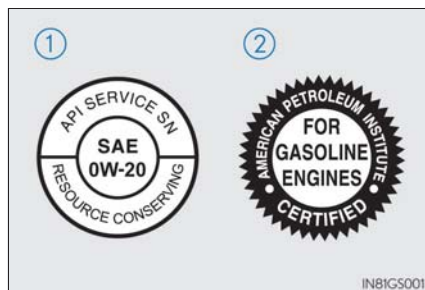
※2 弊社純正モーターオイル ECO TURBO は新車時に充填されている、レクサス車のガソリンターボエンジン専用オイルです。
合成油を含む、高性能なベースオイルをバランス良く配合し、ガソリンターボエンジンの性能を最大限に発揮できるように作られています。

■ 指定エンジンオイル

指定銘柄以外を使用される場合は、API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

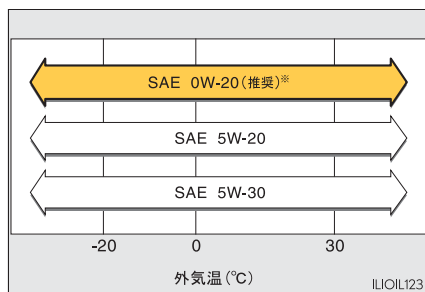
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)		
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% － 12℃ 濃度 50% － 35℃	IS350	9.6	
	IS200t	エンジン	7.9
		インタークーラー	3.0

トランスミッション

指定銘柄	車種	容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS	IS350	9.5
	IS200t	8.7

ディファレンシャル

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	107

※ エンジン回転時に 500N (51kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 操作力 300N (30.6kgf) のときのノッチ ※ 数	7 ~ 10

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
4.7

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	225/45R17 91W	17 × 7 1/2J	250 (2.5)	
	225/45RF17 91W	17 × 7 1/2J		
	225/40R18 88Y	18 × 8J	250 (2.5)	—
	255/35R18 90Y	18 × 8 1/2J	—	250 (2.5)
応急用タイヤ★	T125/70D17 98M	17 × 4T	420 (4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）	21
	ドアミラー照明	5
車内	ドアカーテシランプ	5
	バニティランプ	8
	インテリアランプ	8
	パーソナルランプ	8
	足元照明	3.8
	トランクランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
IS350	GSE31	2GR-FSE（3.5L ガソリン）	FR（後輪駆動）
IS200t	ASE30	8AR-FTS（2.0L ガソリン）	FR（後輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができます機能もあります。

G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサスオーナーズサイトのご利用またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。

遠隔での設定変更が可能な項目に関してはレクサスオーナーズサイトで確認ください。

設定変更のしかた

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにします。

■ ナビゲーションシステムで設定するには

- 1 リモートタッチの MENU スイッチを押し、を選択する
- 2 「設定・編集」画面の「車両」／「運転支援」を選択する
- 3 設定を変更したいカテゴリーを選択する
- 4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
- 5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「-」を選択してレベルを調整します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 86

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

- ① ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能
- ② レクサス販売店で設定変更可能

■ オートアラーム (→ P. 59)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	あり	なし	—	○

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→ P. 71, 76)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
単位	km/L	L/100km	○	—
カラー ※	カラー 1	カラー 2	○	—

※ F SPORT 以外

■ ドアロック (→ P. 108, 114, 427)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	○
シフトレバーをP 以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	なし	あり	○	○
シフトレバーをP にしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	あり	なし	○	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠 (運転席ドア開連動アンロック)	なし	あり	○	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠 (ドアロック連動トランク)	あり	なし	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→ P. 108, 114)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	○
		レベル 1 ~ 7		
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○
		120 秒		
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 108, 114, 119)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 108, 114)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能	あり	なし	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	○
トランク解錠時の操作	1 回押し続ける（短）	1 回押し	—	○
		2 回押し		
		1 回押し続ける（長）		
		禁止		

■ ドライビングポジションメモリー★ (→ P. 129)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
降車時の運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	○
		少なめ		
メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	○

■ ドアミラー (→ P. 141)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	○
		エンジンスイッチと連動		

■ パワーウィンドウ (→ P. 145)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図 (ブザー)	あり	なし	—	○

■ ムーンルーフ★ (→ P. 149)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	○
メカニカルキー連動開機能の作動	スライドのみ	チルトのみ	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開機能の作動	スライドのみ	チルトのみ	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図 (ブザー)	あり	なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 方向指示灯 (→ P. 178)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
方向指示灯の点滅中に、点滅している側へ方向指示レバーを一段階操作したときの作動	点滅したまま	消灯	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 180)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	標準	－ 2 ～ 2	○	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	○

■ ランプ (→ P. 180)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
LED デイライト	あり	なし	—	○

■ クリアランスソナー★ (→ P. 258)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
フロントセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	○
リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	○
ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ～ 5	○	○
ソナー表示の切りかえ	すべて表示	表示なし	○	○

■ ドライブモードセレクトスイッチ (→ P. 267)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
カスタマイズモード★時のパワートレーン制御	NORMAL	POWER	○	—
		ECO		
カスタマイズモード★時のシャシー制御	NORMAL	SPORT	○	—
カスタマイズモード★時のエアコン作動	NORMAL	ECO	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン (→ P. 289)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	○

■ シートヒーター★ (→ P. 299)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
タイマー制御	なし	あり	○	○

■ イルミネーション (→ P. 302)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	○
		7.5 秒		
		30 秒		
エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	○
インサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	○
ドアミラー照明の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	○
		7.5 秒		
		30 秒		
接近時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	○
解錠時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■車両カスタマイズについて

- 「車速感应オートドアロック」と「シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）」を両方とも「あり」にした場合、次のように作動します。
 - ・シフトレバーを P 以外に入れると全ドアが施錠されます。
 - ・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感应式自動ドアロックは作動しません。
 - ・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感应オートドアロックが作動します。
- 「スマートエントリー&スタートシステム」の設定が「なし」の場合、「解錠されるドアの選択」の設定はできません。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。
- ナビゲーション画面以外でもスイッチ操作などでカスタマイズ設定ができる項目があります。スイッチ操作で設定を変更した場合、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするまでナビゲーション画面には反映されません。



警告

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	タイヤローテーションを行ったあと	P. 331

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....	458
車から音が鳴ったときは （音さくいん）	462
アルファベット順さくいん	464
五十音順さくいん.....	466

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・ナビゲーション
- ・オーディオ&ビジュアル
- ・音声操作システム
- ・バックガイドモニター
- ・ETC2.0 システム
- ・ハンズフリー
- ・G-Link

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 104）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→ P. 106）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 341）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。
（→ P. 167）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 121）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。
（→ P. 111）



誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができません。キーを取り出してください。（→ P. 116）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 166）
- シフトレバーはPになっていますか？（→ P. 168）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 119）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 168）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 428）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 430）



ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーがPから動かない

- エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？
エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 176）



エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 168）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 145）



エンジンスイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリモードまたはイグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 168）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 462）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 368、374 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 応急用タイヤ装着車

車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 412）

- タイヤパンク応急修理キット装着車

車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 398）

- ランフラットタイヤ装着車

なるべく速度を落として慎重に運転し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。（→ P. 423）



立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 439）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 59
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P. 392
	ドアガラス・ムーンルーフ★が開いている（エンジン停止中のみ）	P. 147 P. 151
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 59
トランクを開めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P. 116
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 341
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 376
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 393

※ スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドア・トランクを解錠する、またはエンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 376
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 176
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 370
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 175
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 159
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P. 230
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）が作動した	P. 204
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P. 214

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 289

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 270, 368, 379

AHB

(オートマチックハイビーム) 387

AVS

(アダプティブバリアブルサスペンションシステム) 267, 271

AI-SHIFT

(アーティフィカルインテリジェンスシフト) 177

AWD

(オールホイールドライブ) 448

BSM

(ブラインドスポットモニター) 246, 383

DRS

(ダイナミックリヤステアリング) 270, 384

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

EPS

(エレクトリックパワーステアリング) 271, 377

FR

(フロントエンジンリヤドライブ) 448

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション) 443

ISOFIX

(アイソフィックス／イソフィックス) 44, 51

LDH

(レクサスダイナミックハンドリングシステム) 271

LDA

(レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報) 214, 382

PCS

(プリクラッシュセーフティシステム) 204, 369, 383

S-VSC

(ステアリングアシステッドピークルスタビリティコントロール) 270

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 32, 368

TRC

(トラクションコントロール) 270

VDIM

(ピークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント) 271

VGRS

(バリアブルギヤレシオステアリング) 270, 384

VSC

(ピークルスタビリティコントロール) 270

五十音順さくいん

あ

アームレスト (リヤアームレスト)	314
アウターミラー (ドアミラー)	141
操作	141
リバース連動機能	143
アクセサリソケット	313
アクセサリモード	167
アシストグリップ	316
足元照明	302
ワット数	448
アラーム オートアラーム	59
音さくいん	462
警告ブザー	368, 374
アンチロックブレーキシステム (ABS)	270
ABS & ブレーキアシスト 警告灯	368
アンテナ (スマートエントリー & スタートシステム)	119

い

イグニッションスイッチ (エンジンスイッチ)	166
位置交換 (タイヤローテーション)	329
イベントデータレコーダー (EDR)	8
イルミネテッドエントリー システム	303
インジケーター 表示灯	68
インテリアランプ	303
ワット数	448
インナーミラー	139

う

ウインカー (方向指示灯)	178
電球 (ハルブ) の 交換	347, 352
方向指示レバー	178
ワット数	448
ウインドウ	145
ウォッシュャー	188
パワーウインドウ	145
リヤウインドウ デフォッガー	293
ウインドウロックスイッチ	145
ウォーニングメッセージ	374
ウォーニングランプ (警告灯)	368
ウォッシュャー	188
液の補給	328
スイッチ	188
タンク容量	447
冬の前の準備・点検	278
動けなくなったときは (スタック)	439
雨滴感知式ワイパー	188
運転	154
運転を補助する装置	270
寒冷時の運転	278
正しい運転姿勢	26
手順	154
運転席ポジション メモリー	129

え

エアコン・デフォッガー	289
エアバッグ	32
SRS エアバッグ警告灯	368
作動条件	36
配置	32
エコドライブインジケータ	90
LED デイライト	181
エレクトリック	
パワーステアリング (EPS)	271
パワーステアリング警告灯	369
エンジン	
エンジンイモビライザー	
システム	58
エンジン回転計	
(タコメーター)	71
エンジンがかからない	
(エンジンが始動できない)	425
エンジン警告灯	368
エンジンスイッチ	166
エンジンの始動方法	166
オーバーヒート	434
ボンネット	325
エンジンイモビライザーシステム	58
エンジンオイル	442
冬の前の準備・点検	278
メンテナンスデータ	442
エンジンスイッチ	166
エンジンフード (ボンネット)	325
開け方	325

お

オーディオ※	
オートアウェイ&リターン機構	129
オートアラーム	59
オートドアロック・	
アンロック機能	111
オートマチックハイビーム	183
オートレベリングシステム	
(ヘッドランプ)	182
オーバーヒート	434
オープナー	
トランク	114
ボンネット	325
オイル (エンジンオイル)	442
応急用タイヤ	412
空気圧	447
交換方法	412
お子さまを乗せるとき	43
ウインドウロックスイッチ	145
お子さまの安全のために	43
子供専用シート	44
シートベルトの着用	29
チャイルドシートの取り付け	51
チャイルドプロテクター	111
オドメーター	89
表示の切りかえ	80

か

カーテシランプ	
装着位置	302
ワット数	448
カーテンシールドエアバッグ	32
カードキー	102

カーベット	322
洗淨	323
フロアマットの取り付け方	24
外気温度表示	71
外装の電球（バルブ）	346
交換要領	346
ワット数	448
カスタマイズ機能	449
型式	448
カップホルダー	307
ガラスの曇り取り（リヤウインドウ デフォッガー）	293
ガレージジャッキ	327
冠水路走行	163
寒冷時の運転	278

き

キー	102
エンジンが始動できない	428
カードキー	102
キーナンバープレート	102
キーの構成	102
キーレスエントリー	108, 114
キーをなくした	104, 106
正常に働かない	427
施錠・解錠ができない	427
電子キー	102
電池が切れた	341, 427
メカニカルキー	103
ワイヤレスリモコン	102
キーレスエントリー	102
スマートエントリー& スタートシステム	119
ワイヤレスドアロック	108

Gear Position（ギヤ段）	175
救急箱等固定用バンド	309
給油	194
給油口が開けられない	196
給油のしかた	194
メンテナンスデータ	442
緊急時シートベルト固定機構	29
緊急始動機能	426
緊急時の対処	
エンジンが始動できない	428
オーバーヒートした	434
キーの電池が切れた	341, 427
警告灯がついた	368
警告メッセージが 表示された	374
けん引	361
故障したときは	356
車両を緊急停止する	360
スタックした	439
電子キーが正常に働かない	427
発炎筒	358
バッテリーがあがった	430
パンクした	398, 412, 423

く

空気圧 (タイヤ)	447
タイヤ空気圧警告灯	370
タイヤ空気圧警報システム	330
メンテナンスデータ	447
区間距離計	
(トリップメーター)	89
表示の切りかえ・	
リセットボタン	80
曇り取り	
ミラーヒーター	293
リヤウインドウ	
デフォッガー	293
クラクション (ホーン)	137
クリアランスソナー	258
クリアランスランプ (車幅灯)	180
スイッチ	180
電球 (バルブ) の交換	352
クリップ	
フロアマット	24
クルーズコントロール	223
グローブボックス	306
グローブボックスランプ	306

け

警音器 (ホーン)	137
計器類 (メーター)	71
照度調整	74
表示灯	68
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	76
警告灯	67
ABS & ブレーキアシスト	368
SRS エアバッグ	368
エンジン	368
シートベルト非着用	370
充電	368
スリップ表示灯	369
タイヤ空気圧	370
燃料残量	370
パワーステアリング	369
半ドア	370
PCS (プリクラッシュ	
セーフティシステム)	369
プリテンショナー	368
ブレーキ	368
マスターウォーニング	370

警告ブザー

シートベルト非着用.....	370
シフトダウン制限.....	175
接近警報（レーダークルーズ コントロール）.....	230
パーキングブレーキ 未解除走行時.....	378
半ドア.....	109, 370
窓開.....	147
リバース.....	176
警告メッセージ.....	374
言語.....	86

こ

交換

キーの電池.....	341
タイヤ.....	412
電球（バルブ）.....	346
ヒューズ.....	343
工具（ツール）.....	400, 413
後退灯（バックアップランプ） 電球（バルブ）の交換.....	352
コートフック.....	316
子供専用シート.....	44
選択方法.....	44
取り付け方.....	51
コンソールボックス.....	306
コンライト （自動点灯・消灯装置）.....	180

さ

サイドエアバッグ.....	32
サイド方向指示灯.....	178
電球（バルブ）の交換.....	352
方向指示レバー.....	178
サイドミラー（ドアミラー）.....	141
操作.....	141
リバース連動機能.....	143
サスペンションコントロール （PCS）.....	204
サンシェード ムーンルーフ.....	150
リヤ.....	314
サンバイザー.....	312

し

シート	125, 127
運転席ポジション	
メモリー	129
折りたたみ	127
子供専用シート	44
正しい運転姿勢	26
調整	125
手入れ	322
パワーイージーアクセス	
システム	129
ヘッドレスト	134
メモリーコール機能	132
シートヒーター	299
シートベルト	28
お子さまの着用	29
緊急時シートベルト固定機構	29
シートベルト非着用	
警告灯	370
高さ調整	28
正しく着用するには	28
着け方・はずし方	28
手入れ	323
妊娠中の方の着用	30
シートベルトプリテンショナー	29
プリテンショナー警告灯	368
シートベンチレーター	299
シートポジションメモリー	129
室内灯（インテリアランプ）	302
ワット数	448

始動のしかた	166
シフトポジション	172
シフトレバー	171
シフトレンジの切りかえ	173
シフトロックシステム	
（解除ボタン）	176
操作	171
リバース警告ブザー	176
シフトレバー ¹	
シフトできないときは	176
締め付けトルク	
（ホイール）	419
車速インジケーター	73
ジャッキ	
ガレージジャッキ	327
車載ジャッキ	400, 413
ジャッキハンドル	400, 413
車幅灯	180
電球（バルブ）の交換	352
ランプスイッチ	180
車両型式	448
車両仕様（スペック）	442
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	360
ジュニアシート	45
瞬間燃費	96
仕様（車両仕様）	442
衝撃感知ドアロック	
解除システム	113
初期化	
タイヤ空気圧警報システム	331
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	86
初期設定	456
侵入センサー（オートアラーム）	62

す

水温計 71

スイッチ

イグニッション 166

インストルメントパネル

照度調整スイッチ 74

ウインドウロック 145

ウォッシャー 188

運転席ポジション

メモリー 129

LDA 217

エンジンスイッチ 166

オーディオ ※

オートマチックハイビーム 183

クリアランスソナー 258

クルーズコントロール 223

シート調整 125

シートヒーター 299

シートベンチレーター 299

シートポジションメモリー 129

車間距離切りかえ（レーダー

クルーズコントロール） 228

侵入センサー OFF 62

ステアリングヒーター 299

スノーモード 172

タイヤ空気圧警報リセット 331

電話 ※

ドアミラー 141

ドアロック 110

トーク ※

ドライブモードセレクト 267

トランクオープナー 114

トランクオープナーメイン 115

パドルシフト 173

パワーウィンドウ 145

ハンドル位置調整 137

非常点滅灯

（ハザードランプ） 357

VSC OFF 272

フォグランプ 187

フロントワイパーデアイサー ... 293

方向指示レバー 178

ホーン（警音器） 137

ムーンルーフ 149

メーター操作 79

ランプ 180

リセット（タイヤ空気圧警報

システム） 331

リヤウインドウデフォッガー ... 293

リヤサンシェード 314

レーダークルーズ

コントロール 223

ワイパー 188

スタック	439
ステアリングアシスト	
ビークルスタビリティ	
コントロール (S-VSC)	270
ステアリングヒーター	299
ステアリングホイール	
(ハンドル)	137
位置調整	137
運転席ポジション	
メモリー	129
ステアリングヒーター	299
パワーイーザーアクセス	
システム	129
ステアリングロック	168
解除できないとき	168
ストップランプ (制動灯)	
緊急ブレーキシグナル	271
電球 (バルブ) の交換	352
スノータイヤ (冬用タイヤ)	278
スピードメーター	71
スペアタイヤ (応急用タイヤ)	412
空気圧	447
交換方法	412
スペック (車両仕様)	442

スマートエントリー&	
スタートシステム	119
アンテナの位置	119
エンジンの始動	166
カスタマイズ設定	449
作動範囲	119
正常に働かないとき	427
節電機能	120
電波がおよぼす影響について ...	124
ドアの解錠・施錠	108
トランクの解錠	114
スモールランプ (車幅灯)	180
電球 (バルブ) の交換	352
ランプスイッチ	180
スリップ表示灯	369

せ

清掃	318, 322
アルミホイール	319
外装	318
シートベルト	323
内装	322
制動灯	
緊急ブレーキシグナル	271
電球 (バルブ) の交換	352

積算距離計（オドメーター）.....	89
表示の切りかえ	80
セキュリティインジケーター ...	58, 59
接近警報（レーダークルーズ	
コントロール）.....	230
設定（メーター）.....	86
センサー	
インナーミラー	140
雨滴感知センサー.....	192
カメラセンサー	200
湿度センサー	295, 298
侵入センサー	62
ライトセンサー	181
レーダーセンサー.....	200
洗車	318
前照灯（ヘッドランプ）.....	180
電球（バルブ）の交換.....	352
ライトセンサー	181
ランプ消し忘れ防止機能.....	181
ランプスイッチ	180

そ

走行時間.....	96
走行モード	
（ドライブモード）.....	172, 267
送信機	
（タイヤ空気圧警報システム）.....	330
速度計（スピードメーター）.....	71

た

ターンシグナルランプ	
（方向指示灯）.....	178
電球（バルブ）の	
交換.....	347, 352
方向指示レバー.....	178
ワット数	448
ダイナミックリヤステアリング	
（DRS）.....	270
タイヤ.....	329
応急用タイヤ	412
空気圧	337, 447
交換	412
締め付けトルク.....	419
低扁平タイヤ	332
点検	329
パンク応急修理キット.....	398
パンクした	
ときは	398, 412, 423
ホイールサイズ.....	447
ランフラットタイヤ.....	330, 423
ローテーション（位置交換）....	329
タイヤが空まわりする	
（スタックした）.....	439
タイヤ空気圧警報システム	330
ID コードの登録・選択.....	331
機能について	330
空気圧バルブ／	
送信機について	330
初期化	331
タイヤ空気圧警告灯.....	370
タイヤチェーン	278
タコメーター	71
単位	86

ち

チェーン（タイヤチェーン）	278
チャイルドシート	44
ISOFIX バーでの取り付け	53
シートベルトでの固定	52
選択方法	44
チャイルドプロテクター	111
駐車ブレーキ	
（パーキングブレーキ）	179
操作	179
未解除走行時警告ブザー	378
メンテナンスデータ	447

つ

ツール（工具）	400, 413
---------------	----------

て

ディファレンシャル	446
低扁平タイヤ	332
手入れ	318, 322
アルミホイール	319
外装	318
シートベルト	323
内装	322
テールランプ（尾灯）	180
電球（バルブ）の交換	352
ランプスイッチ	180
デフォッガー（リヤウインドウ	
デフォッガー）	293
電球（バルブ）	
交換要領（外装バルブ）	346
ワット数	448
点検基準値	
（メンテナンスデータ）	442
電子キー	102
作動範囲	119
正常に働かないとき	427
節電機能	120
電池が切れた	427
電池交換	341
電池交換（キー）	341
電話スイッチ ※	

と

ドア	108
オートドアロック・	
アンロック機能	111
衝撃感知ドアロック解除	
システム	113
スマートエントリー&	
スタートシステム	119
チャイルドプロテクター	111
ドアガラス	145
ドアロックスイッチ	110
半ドア警告灯	370
ロックレバー	110
ワイヤレスリモコン	108
ドアカーテシランプ	302
位置	302
ワット数	448
ドアハンドル照明	302
ドアミラー	141
操作	141
リバース連動機能	143
ドアミラー照明	302
電球（バルブ）の交換	348
ワット数	448
盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム	58
オートアラーム	59
ラゲージセキュリティ	
システム	115

トークスイッチ ※

時計	312
トップデザーアンカー	51
トラクションコントロール	
(TRC)	270
トランク	114
オープナー	114
キー閉じ込み防止機能	116
電子キーが正常に	
働かないとき	427
トランクオープナーを使用	
できなくするには	115
トランク内の装備	309
メインスイッチ	115
ラゲージセキュリティ	
システム	115
トランクランプ	116
ワット数	448
トランスミッション	171
シフトダウン制限	
警告ブザー	175
操作	171
パドルシフトスイッチ	173
メンテナンスステータ	446
ドライブインフォメーション	
(メーター)	82
ドライブスタート	
コントロール	155, 175
トリップメーター	89
表示の切りかえ・	
リセットボタン	80

な

内装	
収納装備	305
手入れ	322
「ナノイー」.....	296
ナビゲーションシステム※	

に

ニーエアバッグ	32
荷物	
積むときの注意	164
トランク	114
荷物固定用フック	309

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）...	439
--------------------	-----

ね

燃費	
瞬間燃費	96
平均燃費	96
燃料	442
給油	194
種類	442
燃料残量警告灯	370
容量	442
燃料計	71

は

パーキングブレーキ	179
操作	179
パーキングブレーキ警告灯	368
未解除走行時警告ブザー	378
メンテナンスデータ	447
パーソナルランプ	303
ワット数	448
排気ガス	57
ハイビーム（ヘッドランプ）	181
オートマチックハイビーム	183
電球（バルブ）の交換	352
ランプスイッチ	180
ハイマウントストップランプ	
電球（バルブ）の交換	352
ハザードランプ（非常点滅灯）	357
スイッチ	357
電球（バルブ）の	
交換	347, 352
ワット数	448

挟み込み防止機能

パワーウインドウ 145

ムーンルーフ 150

発炎筒 358

バックアップランプ（後退灯）

電球（バルブ）の交換 352

バッテリー

充電警告灯 368

バッテリーがあがった 430

パドルシフトスイッチ 173

パニティ（化粧用）ミラー 312

パニティミラーランプ 312

装備について 312

ワット数 448

バリアブルギヤレシオ

ステアリング（VGRS） 270

バルブ（電球）

交換要領（外装のバルブ） 346

ワット数 448

パワーイージーアクセス

システム 129

パワーウインドウ 145

ウインドウロックスイッチ 145

閉めることができないときは ... 146

操作 145

ドアロック連動ドアガラス

開閉機能 146

挟み込み防止機能 145

パワーステアリング 271

パワーステアリング警告灯 369

パンクした

応急用タイヤ装着車 412

タイヤパンク応急修理キット

装着車 398

タイヤ空気圧警告灯 370

ランフラットタイヤ装着車 423

番号灯

（ライセンスプレートランプ） 180

電球（バルブ）の交換 352

ランプスイッチ 180

ハンドル

（ステアリングホイール） 137

位置調整 137

運転席ポジション

メモリー 129

ステアリングヒーター 299

パワーイージーアクセス

システム 129

メーター操作スイッチ 79

ひ

ピークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	270
ピークルダイナミクス	
インテグレイテッド	
マネージメント (VDIM)	271
ヒーター	
エアコン・デフォッガー	289
シートヒーター	299
ステアリングヒーター	299
非常点滅灯 (ハザードランプ)	357
スイッチ	357
電球 (バルブ) の	
交換	347, 352
ワット数	448
尾灯 (テールランプ)	180
電球 (バルブ) の交換	352
ランプスイッチ	180
ヒューズ	343
表示灯	68
日よけ (サンバイザー)	312
ヒルスタートアシスト	
コントロール	270

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方	430
フォグランプ	187
スイッチ	187
電球 (バルブ) の交換	352
ブザー	
シートベルト非着用警告	370
シフトダウン制限警告	175
接近警報 (レーダークルーズ	
コントロール)	230
パーキングブレーキ未解除	
走行時警告	378
半ドア警告	370
窓開警告	147
ムーンルーフ開警告	151
リバース警告	176
フック	
けん引フック	362
コートフック	316
荷物固定用フック	309
フロアマット固定フック	24
フューエルメーター (燃料計)	71
フューエルリッド (給油口)	194
給油口が開かない	196
給油のしかた	194
冬の前の準備 (寒冷時の運転)	278
冬用タイヤ	278
ブラインドスポットモニター	
(BSM)	246
ブラインドスポット	
モニター機能	250
リヤクロストラフィック	
アラート機能	255

プリクラッシュセーフティ

システム (PCS) 204

PCS 警告灯 369

ブレーキ

パーキングブレーキ 179

ブレーキ警告灯 368

メンテナンスデータ 447

ブレーキアシスト 270

ABS & ブレーキアシスト

警告灯 368

ブレーキ付近からキーキー音が

聞こえる 159

ブレーキフルード 447

フロアマット 24

フロントシート 125

運転席ポジション

メモリー 129

シートヒーター 299

シートベンチレーター 299

シートポジションメモリー 129

正しい運転姿勢 26

調整 125

手入れ 322

ヘッドレスト 134

フロントパーソナルランプ 303

ワット数 448

フロント方向指示灯 178

電球 (バルブ) の交換 347

方向指示レバー 178

ワット数 448

フロントワイパーデアイサー 293

へ

平均車速 96

平均燃費 96

ヘッドランプ 180

クリーナー 188

電球 (バルブ) の交換 352

ライトセンサー 181

ランプ消し忘れ防止機能 181

ランプスイッチ 180

ヘッドランプオートレベリング

システム 182

ヘッドレスト 134

ベビーシート 45

ヘルプネットスイッチパネル※

ベンチレーター

(シートベンチレーター) 299

ほ

ホイール	
交換 (タイヤ)	412
メンテナンスデータ	447
方向指示灯	178
電球 (バルブ) の	
交換	347, 352
方向指示レバー	178
ワット数	448
ホーン (警音器)	137
保証	9
ポップアップフード	40
ボトルホルダー	307
ボンネット	325
開け方	325
ポップアップフード	40

ま

マスターウォーニング	370
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	76
オーディオシステム連携	76
警告メッセージ	374
設定	86
ドライブインフォメーション	82
ナビゲーションシステム連携	76
レーダークルーズコントロール	
操作支援	223
レーンディパーチャアラート	
(LDA)	214

み

ミラー	
インナーミラー	139
ドアミラー	141
バニティミラー	312

む

ムーンルーフ	149
警告ブザー	151
操作	149
ドアロック連動ムーンルーフ	
開閉機構	150
挟み込み防止機能	145

め

メーター	
計器類	71
警告灯	67
照度調整	74
表示灯	68
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	76
メーター操作スイッチ	79
メーターリング	74
メカニカルキー	103
メモリーコール機能	132
メンテナンスデータ	442

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	449
雪道ですべて動けない (スタックした)	439
油脂類	442

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)	180
電球 (バルブ) の交換	352
ランプスイッチ	180
ラゲージセキュリティシステム	115
ラゲージアンダートレイ	311
ラゲージマット	310
ラゲージルーム (トランク)	114, 309
ラジエーター オーバーヒート	434
メンテナンスデータ	446
ランプ 室内灯	302
電球 (バルブ) の交換	346
パーソナルランプ	303
非常点滅灯 (ハザードランプ)	357
ヘッドランプ (前照灯)	180
方向指示灯 (ターニングナル ランプ/ウインカー)	178
ライトセンサー	181
ランプ消し忘れ防止機能	181
リヤフォグランプ	187
ワット数	448
ランプ消し忘れ防止機能	181
ランフラットタイヤ	330, 423

り

リバース連動機能 ドアミラー	143
リヤサンシェード	314
リモートタッチ ※	284
リヤアームレスト	314
リヤサンシェード	314
リヤパーソナルランプ	303
ワット数	448
リヤフォグランプ	187
スイッチ	187
電球 (バルブ) の交換	352
リヤ方向指示灯	178
電球 (バルブ) の交換	352
方向指示レバー	178
リング (メーター)	74

る

ルームミラー (インナーミラー) ...	139
ルームランプ (室内灯)	302

れ

REV インジケーター	73
REV ピーク	73
レーダークルーズコントロール	223
接近警報	230
レーダーセンサー	200
レーンディパーチャーアラート	
(LDA)	214
冷却水	446
水温計	71
冬の前の準備	278
メンテナンスデータ	446
冷却装置（ラジエーター）	446
オーバーヒート	434
メンテナンスデータ	446
Lexus Safety System+	198
LDA	214
オートマチックハイビーム	183
PCS	204
レーダークルーズ	
コントロール	223
レクサスダイナミックハンド	
リングシステム（LDH）	271
レバー	
シート調整	125
シフト	171
方向指示	178
ボンネット解除	325
ロック（ドア）	110

ろ

ロック	
ウインドウロック	145
シフトロック	176
チャイルドプロテクター	111
ドア	108

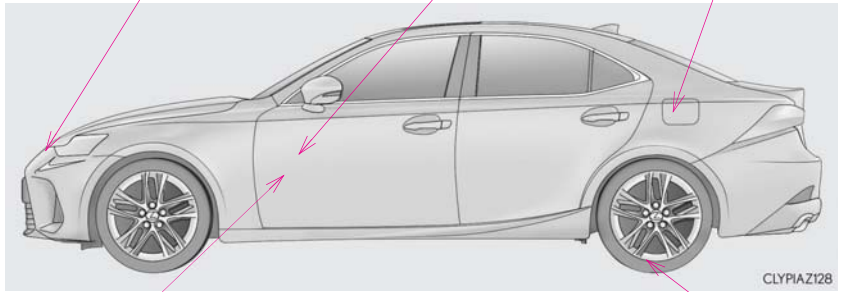
わ

ワイパー & ウォッシャー	188
ワイパーブレード（寒冷地用）	279
ワイヤレスリモコン	102
作動の合図	109
操作	108, 114
電池の交換	341
半ドア警告ブザー	109, 370
ワックス	318
ワット数	448

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。

ボンネットフック P. 325	トランクオープナー P. 114	給油口 P. 196
--------------------	---------------------	---------------



ボンネット解除レバー P. 325	タイヤ空気圧 P. 447
----------------------	------------------

燃料の容量（参考値）	66L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） P. 442
タイヤが冷えている ときの空気圧	標準タイヤ： 前輪：250 kPa (2.5 kg/cm ²) 後輪：250 kPa (2.5 kg/cm ²) 応急用タイヤ★： 420kPa (4.2kg/cm ²)
エンジンオイル容量 （参考値）	P. 442
エンジンオイルの種類	P. 442

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp> にて掲載しております。



M53D75

01999-53D75

CC-2017 年 7 月 3 日

2016 年10月 3 日初版

2017 年 7 月10日 4 版

IS350 / IS200t